

2026年度 専門演習Ⅰ 講義要項



政治経済学部

政治学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
101	政治学演習Ⅰ(浅野豊美)	国民概念の探究ー世界の紛争原因としてのナショナリズム理解と和解に向けて
102	政治学演習Ⅰ(稲継裕昭)	行政の諸活動を分析する
103	政治学演習Ⅰ(稲村一隆)	政治哲学・思想史
104	政治学演習Ⅰ(梅森直之)	紛争解決学への思想史のアプローチ An intellectual historical approach to conflict resolution studies
105	政治学演習Ⅰ(尾野嘉邦)	選挙と投票行動
106	政治学演習Ⅰ(国吉知樹)	現代日本外交の分析
107	政治学演習Ⅰ(栗崎周平)	国際政治の理論研究・実証研究 Scientific Study of International Relations
108	政治学演習Ⅰ(小林哲郎)	メディアと世論の関係について学ぶゼミ
109	政治学演習Ⅰ(小原隆治)	自治・分権を考える
110	政治学演習Ⅰ(清水潤)	法学・憲法学
111	政治学演習Ⅰ(シュルトフヤロスラブ)	ロシア近現代史
112	政治学演習Ⅰ(ソジェ内田恵美)	政治言語学ーディスコース分析の理論と実践
113	政治学演習Ⅰ(田中孝彦)	冷戦期および冷戦後国際政治の歴史的過程と国際秩序の変容ー1945年-2025年
114	政治学演習Ⅰ(都丸潤子)	ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析
115	政治学演習Ⅰ(仲内英三)	近現代西欧政治社会の歴史
116	政治学演習Ⅰ(中村英俊)	国際政治の理論と現実ー英国学派を中心に
117	政治学演習Ⅰ(日野愛郎)	現代政治の実証分析(Empirical Analyses of Contemporary Politics)
118	政治学演習Ⅰ(蛭田圭)	政治思想
119	政治学演習Ⅰ(谷澤正嗣)	現代リベラリズムとその批判

経済学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
201	経済学演習Ⅰ(安達剛)	経済学を用いた問題発見・解決能力を養う
202	経済学演習Ⅰ(荒木一法)	企業と家計の行動分析(応用ミクロ経済学)
203	経済学演習Ⅰ(有村俊秀)	環境経済学
204	経済学演習Ⅰ(上田晃三)	日本の経済・物価情勢の分析: ミクロデータからの分析
205	経済学演習Ⅰ(荻沼隆)	ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析
206	経済学演習Ⅰ(小倉義明)	金融の統計分析
207	経済学演習Ⅰ(片山宗親)	データ分析とマクロ経済
208	経済学演習Ⅰ(金子昭彦)	マクロ経済分析と国際金融
209	経済学演習Ⅰ(上條良夫)	行動・実験経済学
211	経済学演習Ⅰ(西郷浩)	社会・経済の統計的分析
212	経済学演習Ⅰ(笹倉和幸)	マクロ経済学(新古典派総合)
213	経済学演習Ⅰ(鎮目雅人)	世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world
214	経済学演習Ⅰ(田中久稔)	計量経済学のための数学
215	経済学演習Ⅰ(内藤巧)	国際貿易論
216	経済学演習Ⅰ(船木由喜彦)	ゲーム理論と実験経済学
217	経済学演習Ⅰ(別所俊一郎)	日本の公共政策に関する実証分析
218	経済学演習Ⅰ(星野匡郎)	計量経済学と機械学習
219	経済学演習Ⅰ(村上由紀子)	労働に関する研究
220	経済学演習Ⅰ(山本竜市)	ファイナンス
221	経済学演習Ⅰ(若田部昌澄)	経済学的思考を身につける

国際政治経済学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
301	国際政治経済学演習Ⅰ(大森佐和)	国際・国内政策の実証的研究を学ぶゼミ
302	国際政治経済学演習Ⅰ(久保慶一)	現代世界の武力紛争と紛争後平和構築
303	国際政治経済学演習Ⅰ(久米郁男)	政治現象分析の技法: 原因を推論する
304	国際政治経済学演習Ⅰ(小西秀樹)	経済政策の理論と実証
305	国際政治経済学演習Ⅰ(清水和巳)	人間と社会の政治経済学
306	国際政治経済学演習Ⅰ(高橋百合子)	グローバルサウスの比較政治経済学 Comparative Political Economy of the Global South
307	国際政治経済学演習Ⅰ(多湖淳)	戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ
308	国際政治経済学演習Ⅰ(唐亮)	現代中国の政治経済と外交戦略
309	国際政治経済学演習Ⅰ(遠矢浩規)	国際政治経済の理論と分析
310	国際政治経済学演習Ⅰ(戸堂康之)	開発経済・国際貿易・日本経済に関するデータ分析
311	国際政治経済学演習Ⅰ(濱野正樹)	国際マクロ経済学
312	国際政治経済学演習Ⅰ(深川由起子)	現代東アジア政治経済研究: 変容するグローバリズムと新興国の経済発展

ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
401	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(田中幹人)	ハイブリッド・メディアのメディア研究方法論
402	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(土屋礼子)	近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム
403	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(中村理)	内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究 (演習I: ヒューマン・コーディング/演習II: コンピュータ・コーディング)

学際領域演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
501	学際領域演習Ⅰ(生駒美喜)	話しことばと現代社会(1)
502	学際領域演習Ⅰ(岡本暁子)	行動生態学と隣接諸科学I
503	学際領域演習Ⅰ(ブロッソーシルヴィ)	映画研究演習、映画学入門の演習
	学際領域演習Ⅰ(マルティ・オロバル ペルナット)	近世・近代における宗教思想(西洋・日本の宗教事情を中心に) History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)
504	学際領域演習Ⅰ(室井禎之)	コミュニケーションとことば
505	学際領域演習Ⅰ(ロベスアルフレド)	西洋文学論

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
101	政治学演習 I (浅野豊美)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	浅野 豊美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国民概念の探究 ― 世界の紛争原因としてのナショナリズム理解と和解に向けて

授業概要 Course Outline

外交的妥協は、利益やパワーを計算し国益を折半して行われ、主体としての国民そのものは変化がない。他方で、「国民的和解」は国民という巨大な集団を作っている共有された記憶の変容を伴い、無意識のうちに相互の記憶が気づいたら変容しているような状態と定義される。それはいまだ現実には存在しない。しかし、東アジアでは「国民」形成が100-160年の間に急速に、国家主導で行われ、その国家が帝国として植民地支配も戦争も行い、また、冷戦下では開発独裁の主体ともなったために、上からの開発・豊かさか、下からの人間の尊厳と自由かが、国民的記憶のあり方をめぐって、国境を超えて、また、国内においても、いまだに摩擦・対立を続けている状態と定義できるであろう。授業では、国民、という存在を成立せしめている集合的記憶に焦点を当て、それを冷静に対象として認識し、各自の研究テーマ（安全保障・経済・文化に関わるもので各自が選択）に活かせるようにしてほしい。

授業の到達目標 Objectives

- ・右や左の政治的に極端な議論に面してもたじろがずに、冷静に対応できる軸を各自が持つこと。
- ・政治学と国際関係学の理論と、グローバルヒストリーとしての東アジアと日本の歴史学とを、対話させながら、長期的な時間軸をもって、現在の現象を認識し、独自に考える力を養う。そのため、テキストブックのどれか一冊を取り上げて、著者に問いかけ、社会に十分通用するような説得力のある卒業論文を仕上げることを目標となります。2年間は、その目標に向けて、関連する本と付き合わせて、皆で一緒に深く読みます。
- ・一回しか起きない現象としての現在の世界情勢は、過去のなんらかの側面を反復しつつ、全く新しい変化を伴ってスパイラル的に生じる。そのようなイメージで、現実を自分なりに認識・判断する力を養う。つまり、各自が関心を持つ分野とそれぞれの価値（安全―平和・経済―豊かさ・文化―生きがい）が、国民という巨大な集団を単位としつつ、それを超える地域や、その内部のより小さな団体をも視野に入れて、どのように世界を構成しているのかをイメージできるような知的体力と現実への構想力を養うことに、論文執筆はつながっていくでしょう。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

・テキストブックに簡単に目を通す。特に、英語のテキスト（Moyn, Samuel. The Last Utopia: Human Rights in History, Harvard University Press, 2010: E-bookで読める）と、リンハントの日本語訳を重視する。あとは、自分の身の回りの経験を思い出しながら、人権とは何か、豊かさとは何かを、自分の言葉と体験に根ざして考えてきてください。なぜなら、集合的記憶を選択せしめるものが、個人と全体、それぞれに関わる価値だからです。社会全体に関わる価値と、社会を構成する個に関わる価値、その二つが集合的記憶を分裂させたり安定させたりすると考えています。最初の授業で、自分にとっての人権という価値、豊かさという価値について、質問をします。各自のコアな部分に触れる体験を思い出してください。ただし、言いたくない人は、言える範囲で構いません。

>>英語のテキストのPrologueに目を通して、自己・もしくは家族・コミュニティの体験を思い出して反芻してきてください。

・プレゼミでは、まず、ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）について、今まで日本語・英語で出た書評を読み、ナショナリズムを自分なりに考えるミニレポートの執筆を目標とします。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション（ゼミの目的と概要）／本ゼミの目的と概要について説明します。
- 第2回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読 第1章から
- 第3回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第4回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第5回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第6回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第7回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第8回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第9回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第10回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第11回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第12回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第13回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第14回：購読：まとめ、各自の問題意識の整理

教科書
Textbooks

＜以下の3冊を教科書として、この3冊を深く関連させて読むことがゼミの目標となります。E-bookあり、また、購入を勧めます＞

- ・リン・ハント『人権を創造する』
- ・アライダ・アスマン『想起の文化—忘却から対話へ』岩波書店
- ・Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- ・Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013

＜以上の3冊を読むための基礎文献として以下があります。さらに参考文献とあるのは3号館地下の学生読書室にあります＞

ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）

ドブ・ローネン『自決とは何か』刀水書房

参考文献
Reference Books

- 宮城大蔵『「海洋国家」日本の戦後』ちくま新書、2008年。
- 三谷太一郎『近代日本の戦争と政治（岩波人文書セレクション）』（岩波書店、2010）
- 酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）
- 浅野豊美『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編—請求権と歴史認識問題の起源』慈学社、2013年。
- 浅野豊美『帝国日本の植民地法制』名古屋大学出版会、2008年。
- 藤田 覚『天皇の歴史6 江戸時代の天皇』講談社学術文庫
- 黒川祐次『ウクライナの歴史 ヨーロッパ最後の大国』中公新書。
- ゲルナー、加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店、2000年
- 浅野豊美『和解学叢書 第一巻 和解学の試み』

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	最終レポート執筆以前に、予備的なレポートを少なくとも一回課す。
平常点評価 Class Participation	30%	演習への出席、授業参加意欲を総合的に評価する。 三回以上無断欠席したものは単位を取れない。
その他 Others	30%	レジュメ（報告の際に準備してくるプリント）

備考・関連URL Note・URL

講義に全く出たことがないヒトは以下の模擬講義が参考となる。
<http://www.waseda.jp/taiken-waseda/academics/school/pse/>
 以下が、自己紹介のHP。 将来は、ゼミのためのHPを作成する予定。
<http://www.f.waseda.jp/toasano/index.html>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
102	政治学演習 I (稲継裕昭)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	稲継 裕昭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行政の諸活動を分析する

授業概要 Course Outline

行政の諸活動は私たちの生活に知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

ある行政活動は、どのような構造のもとに、どのようなアクターが、どのように行動することによって行われているのか。

基礎的なことを学ぶとともに、いくつかの行政課題およびその解決策を特定し、なぜそのような行動がとられたのかその原因を考える。

ゼミのキーワードは、「書を持って街へ出よう」です。理論と実践の統合を目指します。教室による輪読などの座学と、フィールドワークとを組み合わせるのが、当ゼミの特徴です。輪読などによる基礎知識の習得と、現場に出たり（現場の方を迎えたり）して、実践的な動きを把握することとを組み合わせる学びます。プレゼミでは基本書を読み、3年生からは実践を経験しつつそれを理論的に分析することを目指します。3年次にグループ研究を進めて、調査方法や分析方法について学び、4年次には個々人の卒論を仕上げます。

中央省庁や地方自治体の幹部や若手職員をゲストスピーカーとして招く場合があります。

2022年以降の実績・・総務大臣政務官（衆議院議員、元自治官僚）、総務省公務員課長、総務省若手官僚、財務省主計局若手官僚、福井県越前市長・元福井県副知事、国会議員（元防衛大臣）、CodeForJapanスタッフ/滋賀県日野町参与、デベロッパー若手、シンクタンク若手、商社若手、文部科学省中堅課長、東京都デジタルサービス局長、新宿区商店街連合会会長（元衆議院議員）

#中央省庁や地方自治体を訪れてヒアリングなどを行う場合があります。

2022年以降の実績

福井県越前市役所（市長面会）、豊島区役所、富山県庁（知事面会）、金沢市役所、高山市役所、三重県伊勢市役所、多紀町役場、高知県日高村、梶原町、高知県庁、山口県山口市（市長面会）、岩国市、

2024年度、北海道土士幌町、長崎県長崎市（副市長面会）、大村市（市みや長面会）、坂出市、高松市（市長面会）

2025年度、夏、熊本県庁、熊本県益城町、熊本県菊陽町、宮崎市、都城市、宮崎県新富町

#1年間を通して特定の自治体にフィールドワークに入り、政策提言を行っています。

2018年茅ヶ崎市、岡山県真庭市、2019年岡山県美咲町、2020年岡山県美咲町、茅ヶ崎市、2021年茅ヶ崎市、2022年茅ヶ崎市、2023年茅ヶ崎市、荒川区日暮里繊維街（地域活性化のご提案）、

2024年の場合、3年生＝茅ヶ崎市、日暮里繊維街（こちらはプレゼミ生に引継ぎ）、4年生＝福井県（ウェルビーイングに関する提言。小浜市・越前市・県。福井県庁と早稲田大学とで契約をしていました）

#合宿は、3年の夏、3年の冬、4年の夏の3回、2泊3日で行います。合宿への参加は単位取得のために必須です。

コロナ禍期間中は殆どできませんでしたが、現在は完全に元に戻っています。過去3年間、合宿は次の場所で行いました。

2022年夏は4年生が富山県庁、金沢市役所、3年生が越前市役所、2023年春は3年生が高山市役所。

2023年夏は4年生が三重県（伊勢市、多気町）、3年生が高知県（日高村、梶原町）、2023年冬は3年生が山口市役所、岩国市役所

2024年夏は4年生が北海道（上士幌町中心に3泊4日）、3年生が長崎県（長崎市、大村市）、冬は3年生が香川県（坂出市、高松市、高松丸亀商店街）

2025年夏は4年生が宮崎県（都城市、宮崎市、新富町中心に3泊4日）、3年生が熊本県（県庁、益城町、菊陽町）、冬未定

授業の到達目標 Objectives

行政に関する諸課題について政治学的に考察する力、文章で表現する力を培う。
論理的に考え書き発表する能力を養うこと。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

プレゼミで、『行政学』（曾我謙吾）を読んでもらいます。
その報告の過程で、パワーポイントの作成の仕方、効果的なプレゼンの方法、論理的思考を身に付ける種々の取り組みを行います。
報告に際してはそれぞれ4年生のメンターがつきます。
プレゼミは例年、毎週火曜日の5時限に教室に来ていただいて、上級生に交じって受けてもらっていました。

フィールドワークで出かける時（プレゼミ期間中に、1回か2回）は、3時限終了後すぐに大学を出発します。（遠方へ行く場合は、2時限終了後に大学を出発することもあります）。
例年、プレゼミ期間中にフィールドワークに出かけます。

授業計画 Course Schedule

第1回－第5回：演習イントロ。R入門講座、ウィブル『公共政策』輪読、「行政学」の残りの輪読。

第8回－第14回：ゼミ生で決めてもらいます
1、2回のフィールドワークと、1、2回のゲスト講師。

合宿は参加必須ですが、行き先や時期はゼミ生で話し合って決めます。これまでは、3年夏、3年冬、4年夏の3回の合宿をしてきました。

2泊3日の日程は、おおむね1日目、2日目に自治体を訪問しヒアリングなど、3日目は適宜観光等を行っています。

その他ゼミ生主体で予定を決めていきます。

なお、合宿参加は必須で、合宿に不参加の場合は単位不可となります。

大勢で行動することが苦手であるなど合宿参加ができない人は最初から申し込まないでください。

教科書 Textbooks

曾我謙吾『行政学』有斐閣アルマ

Weible著（稲継他訳）『公共政策－政策過程の理論とフレームワーク』成文堂

すでにプレゼミで輪読を終えているテキスト（北山俊哉ほか著『初めて出会う政治学』、久米郁男『原因を推論する』、戸田山和久『新版 論文の教室』、北山俊哉・稲継裕昭編著『テキストブック地方自治』）も適宜参照することがあります。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	55%	特別の事情がない限り欠席を認めていませんので、欠席の際には大きく減点。なお、5時限で終わらず6時限に延長することもあるので、サークルへ活動が火曜日にある人は継続が困難です。6時限でも対応できる人に限り受け入れます。 課題のMoodleへの期限内提出。(期限に遅れると大きく減点) 報告内容、討議への参加度。レポート課題に対し剽窃が見つかった場合は厳しく対処します。
そ の 他 Others	45%	行事(合宿、フィールドワーク、その他)への参加度も評価の対象となります。合宿への参加は必須。

備考・関連URL Note・URL

ゼミ生たちが自主的に作成・運営しているゼミのホームページ（作成に稲継は関与していません（PWも知らない）が、適切に作成してくれており、ゼミ活動やゼミの雰囲気を知る上で大変参考になると思います）
<http://inatsuguzemi.wix.com/wasedapse-undergrad>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
103	政治学演習 I (稲村一隆)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲村 一隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治哲学・思想史

授業概要 Course Outline

政治哲学は社会規範について探究する学問です。国際援助と分配の正義、能力主義、正戦論、フェミニズムと結婚、人権と動物の権利、といったトピックについて、現代社会で生じている問題を知ると同時に、そうした問題の背後にある考え方を知ることが主眼です。そこで具体的な事例から出発しつつも、理論的にかつ歴史的に広い視野で考察することになります。

まずインプットが重要なので、授業では政治哲学の基本文献を通して上記のトピックを学んでいきます。基本文献として、西洋政治思想史の古典を講読したり、現代の理論的な著作を検討したりしています。どのテキストを扱うかは参加者の関心に応じて決めています。前者の例として、プラトン『国家』、アリストテレス『政治学』、ロック『統治二論』、カント『永遠平和のために』、ミル『自由論』、アーレント『人間の条件』、フーコー『性の歴史』など、後者の例として、アマルティア・セン『不平等の再検討』、アイリス・ヤング『正義と差異の政治』、ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』など。最近では、歴史学や文化人類学の視点を通して政治哲学の課題に取り組むことを重視しています。論理的に分析するだけでおしまいとするのではなく、想像力を働かせて、他の文化や他の時代のことを理解しようとする姿勢を推奨しています。

一人で読んで理解するのは難しくても、みなで議論しながら考察すると、学部生の間に十分に理解を深めることができるようになります。

本演習の特色の一つとして、論文の執筆を重要視しています。教員の英国での経験を生かして、政治哲学・思想史分野での論文の書き方を学習します。

トピックの選定については参加者各自の自主性を尊重しつつ、任意のトピックについて十分に資料を収集してから、毎学期、レポートを書きます。

自分と異なる見解を持つ人も説得できるように、丁寧に議論を作る訓練をします。

授業の到達目標 Objectives

- 1) 当該分野の古典を読む訓練を積むこと。
- 2) 当該分野の英語論文を読む習慣を身につけること。
- 3) 当該分野で論文を書く技法を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめ指定された文献を読んで議論したい点を考えてくること。毎回、予習が必要になります。

また期末レポートに向けて、自分でトピックを選び、それに必要なことを自分で調査することが求められます。

何をトピックにするかは参加者の自主性を尊重しています。

授業計画
Course Schedule

具体的な計画は学期のはじめに参加者と相談の上、決定します。

3年次は文献の講読を中心に行います。テキストを読む訓練を積みみます。

4年次は文献の講読だけでなく、卒業論文の作成にも取り組みます。先行研究を踏まえた上で、新しい議論を提示することが求められます。

期末レポートをもとに授業内での討論を通して、徐々に完成できるようになります。

教科書
Textbooks

初回の授業で指定します。

参考文献
Reference Books

政治哲学の入門書として以下を参照：

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011年。

ジョナサン・ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』勁草書房、2016年。

アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書、2006年。

論文の書き方や、政治哲学・思想史の方法論の著作として以下を参照：

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。

デイヴィッド・レオポルドほか（編）『政治理論入門』慶應義塾大学出版会、2011年。

犬塚元ほか「政治思想史の新しい手法特集号」『思想』no. 1143、2019年7月。

リチャード・ワットモア『入門 政治思想史』中央公論新社、2025年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	十分な調査を行なっているかどうか、議論を丁寧に組み立てているかどうか
平常点評価 Class Participation	50%	授業中の議論に積極的に参加しているかどうか
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
104	政治学演習 I (梅森直之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	梅森 直之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

紛争解決学への思想史のアプローチ
An intellectual historical approach to conflict resolution studies

授業概要 Course Outline

「紛争」が、社会生活をおくる人間の宿命であるかぎり、「和解」もまた人間の普遍的な営みの一部である。しかし和解はつねに、一定の歴史的・文化的刻印を帯びてあらわれる。紛争を生み出す社会の編制は多様であり、また歴史的に変化するものであるからである。本セミナーでは、紛争と和解をめぐって積み重ねられてきた人類の思索と実践を、思想史的視座からとらえ直し、未来に向けた社会構築のヴィジョンを構想する。本セミナーでは、単に既存の紛争を解決するための技術論を目指すのではなく、むしろ「紛争」や「和解」という現象そのものの構造を、それに対する原理的な反対を含め、根源的に考察することをめざす。具体的には、もっぱら東アジアの歴史を事例として用いながら、そこに現れた諸問題を、「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「資本主義」という三つの視座から、解きほぐすことを試みる。東アジアの歴史を、具体的な問題と重ね合わせながら議論することを通じて、紛争と和解をめぐる解決の糸口を構想する。

As long as “conflict” remains an inevitable aspect of human social life, “reconciliation” will continue to be a universal human endeavor. Yet reconciliation always takes shape with distinct historical and cultural characteristics, as the social structures that give rise to conflict vary and evolve over time.

This seminar will reexamine the body of human thought and practice surrounding conflict and reconciliation from the perspective of intellectual history, with the aim of envisioning new possibilities for constructing future societies. Rather than simply developing techniques for resolving existing conflicts, we will undertake a fundamental exploration of the very structure of “conflict” and “reconciliation,” including the principles that underlie their opposition.

Focusing on the history of East Asia as a case study, the seminar will examine a range of issues from three interrelated perspectives: nationalism, gender, and capitalism. By grounding our discussions in concrete historical cases, we aim to identify paths toward conflict resolution and reconciliation.

授業の到達目標 Objectives

テキストの「読み方」の習得
自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習
生産的に「議論する」訓練
思想史的方法、ならびに社会理論についての基本概念の習得
日本の歴史についての基本的知識の習得
「和解学」の基礎としてのナショナリズム論、ジェンダースタディーズ、資本主義論への理解

Develop skills in reading texts critically and analytically.

Practice writing effectively to communicate ideas clearly

Engage in productive discussions to exchange perspectives.

Acquire foundational concepts in the historical method and social theory.

Build basic knowledge of Japanese history.

Understand key frameworks—nationalism, gender studies, and capitalism—as foundations for the study of reconciliation.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

Instructions will be provided in class as necessary.

授業計画 Course Schedule

本ゼミでは、以下の四つの次元において、東アジアの歴史問題の構造を明確化することをめざす。ゼミの進め方としては、関連テキストの輪読と学生の報告に基づく議論が中心となる。

問題に接近する第一の次元は、「歴史とは何か」を根源的に問い直すことである。歴史は、客観的な事実であると同時に、一定の意味を発生させる物語でもある。「歴史」そのものの重層的な構造を解明することを通じて、東アジアの各国の歴史認識が対立する理由とその和解に向けた可能性について議論する。

第二の次元は、「ナショナリズム」である。東アジアの近代を、戦争と帝国主義と植民地主義により織りなされたひとつの歴史空間として把握することを通じて、各国のナショナリズムの特質を構造的に把握することをめざす。

第三の次元は、「ジェンダー」である。「従軍慰安婦」問題は、日韓の国民的対立であると同時に、東アジアにおける女性の社会的位置づけの反映でもある。東アジアにおける女性の歴史を、こんにちのジェンダーギャップ問題と重ね合わせながら振り返っていく。

第四の次元は、「資本主義」である。東アジアに共通する根強い発展志向が、どのように「紛争」を惹起し、またそれを隠蔽してきたかを確認する。

本ゼミでは、具体的なテーマに則したディスカッションに加え、学術論文の書き方、プレゼンテーション・スキルアップの方法等についてのワークショップを、必要に応じて適宜行う。

This seminar aims to clarify the structural dimensions of historical issues in East Asia by exploring them through four key analytical perspectives. The seminar will primarily consist of close readings of relevant texts and student-led presentations followed by discussions.

The first dimension involves a fundamental reexamination of the question: What is history? History is both an objective record of facts and a narrative that generates meaning. By analyzing the multilayered nature of “history” itself, we will discuss the reasons behind conflicting historical perceptions among East Asian countries and explore possibilities for reconciliation.

The second dimension is nationalism. By understanding modern East Asia as a shared historical space shaped by war, imperialism, and colonialism, we aim to identify the structural characteristics of nationalism in each country.

The third dimension is gender. The issue of “comfort women” is not only a source of national conflict between Japan and Korea, but also reflects the broader position of women in East Asian societies. We will

revisit the history of women in the region while linking it to contemporary issues such as the gender gap.

The fourth dimension is capitalism. We will examine how the region's persistent drive for development has both generated and concealed various conflicts.

In addition to discussions on specific topics, the seminar will also include occasional workshops on academic writing, presentation skills, and other relevant competencies as needed.

教科書 Textbooks

授業期間中に指示する。

Instructions will be given during class sessions.

参考文献 Reference Books

梅森直之『初期社会主義の地形学』（有志舎、2016）
梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』（光文社、2007）
ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克』（岩波書店、2007）
コンラート『グローバルヒストリー』（岩波書店、2021）
Benedict Anderson, Imagined Community
Harry Harootunian, Overcome by Modernity
Conrad, Sebastian, What is Global History?

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業参加ならびにレポートを総合的に評価する。 Class participation and reports will be evaluated comprehensively.

備考・関連URL Note・URL

これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

自国の事例を、他国に向けて発信したり、自国以外の国の人々と積極的に議論する意欲と能力を持つ学生を歓迎します。

No prior knowledge is required, but students must have a strong motivation and curiosity for learning, along with intellectual flexibility and perseverance.

Students with three or more unexcused absences will not be eligible for evaluation.

We welcome students who are eager and able to present case studies from their own countries to an international audience and to engage in discussions with peers from other nations actively.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
105	政治学演習 I (尾野嘉邦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	尾野 嘉邦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

選挙と投票行動

授業概要 Course Outline

投票行動に焦点を当てた政治行動論の演習です。

人間はいろいろな場面で選択を迫られますが、選挙における投票という行為も選択の一つです。選択を迫られたとき、人はどのように決めるのだろうか、選択を左右するものは何だろうか、より良い選択をするにはどうしたらよいだろうか。フェイクニュースやデジタルテクノロジーなどによって、人々の自発的選択が無意識のうちに誘導されてしまうことはないのだろうか。選挙で当選を目指す候補者ならば、どう行動したらよいのだろうか。

選挙という場面に焦点を当てて、こうした選挙における人々の選択や行動と民主主義の行方について、政治学だけではなく、心理学や行動経済学といった他領域の研究も参考にしながら考え、新しい知見のアウトプットを目指す演習です。その過程で、データの実証分析やサーベイ実験を始め、研究成果のプレゼンテーション、論文執筆などにもチャレンジしてもらいます。また、データ収集の過程において、視線計測装置などを用いた実験を行うこともあります。

授業の到達目標 Objectives

学際融合型の社会科学研究の最前線に触れつつ、社会科学の考え方を学ぶとともに、物事を多様な面から客観的かつ批判的に考えることができる思考力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習時間外に実験課題などに取り組むことが求められます。また、合宿なども行う予定です。

授業計画 Course Schedule

政治学の分野では、学部生の卒業論文や研究が学術雑誌に掲載されるケースが増えてきました。また、最近では米国中西部政治学会といった海外の学会などで、学部生が研究発表を行う機会も設けられています。2年間の演習を通じて、一緒に出版可能な学術研究に取り組んでいきましょう。

前期は、社会科学の基礎的な考え方や研究方法を学びつつ、政治学や心理学、経済学を中心として、投票行動を始めとする人間の行動に関する社会科学の最先端の研究内容や、国際学術誌への投稿プロセスなどについて紹介します(学術論文の査読にも挑戦してもらいます)。ニューロサイエンスや生命科学、AIを活用したテキスト分析・顔形態分析など、工学や自然科学の知見が社会科学にどのように活用されるのか、そしてどのような貢献が可能なのかについても検討していきます。その過程で、先行研究を読んでレビューするとともに、さらに研究してみたいリサーチクエストンについて考えてもらいます。

後期は、各自のリサーチクエストンをもとに、実際の研究に取り組みます。データをどのように集め、分析をしたらよいのか、リサーチデザインを練り、サーベイ実験などを通じて、仮説を検証する作業を行ってもらいます。

Week 1. イントロダクション

Week 2-6 投票行動関連文献研究

Week 7 研究アイデア発表
 Week 8-10 投票行動関連関連文献研究
 Week 11-13 投票行動関連関連文献研究Week 14 まとめ

教科書
Textbooks

適宜指定します。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションのほか、議論への参加・貢献度合いに基づき評価する（2回以上の無断欠席があった場合は、0点とします）
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

この演習では基本的に英語で書かれた文献を扱うとともに、英語でのアウトプットを目指します。海外からのゲストを招いた講演や研究交流なども行われることがあります。参加者には英語読解能力が求められますが、英文を読んだり、書いたり、話したりすることに慣れていない人も、演習での訓練を通じて、そのスキルを磨いていきましょう。また、Rなどを用いた計量分析の能力も求められます。

「計量分析（政治）」（もしくはそれに準じる計量分析に関する科目）の履修を必須とします。3年次終了までに履修してください。

例年、2回の合宿を行っており、原則として、履修者全員の参加が求められます。
 プレゼミ生も含めて、全履修者は木曜2限目を空けておいてください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
106	政治学演習 I (国吉知樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	国吉 知樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代日本外交の分析

授業概要 Course Outline

本演習では現代日本の国際関係・外交について理論および歴史の両面から考察する。

演習では、最初に基礎的なテキストの輪読と議論を通じて国際政治学の基礎概念について理解を深める。つづいて戦後日本外交史の論争点について日米関係および日本と近隣アジア諸国の関係に焦点を当てて分析を行う。さらに現代日本外交に関わる分析概念や論争的なイシューについて代表的な文献をたたき台にして議論をする。ここでは日本の安全保障問題、歴史認識問題とアジア外交、日中間の経済相互依存の意義、日韓文化交流の意義、日ロ間領土問題、日本の地域主義外交、沖縄の基地問題、気候変動問題への取り組み、および「人間の安全保障」分野、とりわけ日本の難民政策などを取り上げる予定である。

また、春学期の中盤から秋学期にかけて、ゼミ内で3～4人からなる複数のグループを組み、それぞれのグループが戦後日本外交に関わる論争的なイシューについてテーマを決め、外交文書の調査・分析を行い、共同論文の作成に取り組む。

演習 I では以上のようなプロセスを通じて外交を分析するための手法・視点を磨き、卒業論文執筆のための準備を進めていく予定である。日本が現在直面する外交上の諸問題を理解するために、国際関係の理論と歴史の習得に熱意を持って取り組み、積極的に議論に参加する意欲を持った学生を歓迎する。

授業の到達目標 Objectives

1. 国際関係論の基礎概念を理解する。
2. 現代日本外交の形成と意義を理解するために必要な理論的・歴史的分析手法を習得する。
3. グループ論文への取り組みを通じて、学術論文を執筆するために必要な研究の手順、調査の方法を学び、執筆の心構えを身に付ける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・受講生はゼミでの議論に積極的に参加するために、事前に必ず課題文献を読んで演習に臨むことが求められる。
- ・グループ論文の作成にあたっては、グループ間で事前に文献や資料を検討し、共同で発表準備を行う。
- ・グループ論文の作成にあたって、授業でのフィードバックを基にして、新たな調査を行い、論文の執筆と修正を行う。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
 第2回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（1）
 第3回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（2）
 第4回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（3）
 第5回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（4）
 第6回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（5）
 第7回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（6）
 第8回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（7）
 第9回：日本外交 グループ論文の作成：テーマ設定について
 第10回：日本外交 グループ論文の作成：リサーチデザインの検討と資料調査について
 第11回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（1）
 第12回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（2）
 第13回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（3）
 第14回：日本外交 グループ論文の作成：調査の中間報告とディスカッション

教科書 Textbooks

大矢根聡編 『戦後日本外交から見る国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』（ミネルヴァ書房、2021年）。
 ピーター・カッツェンスタイン 『文化と国防：戦後日本の警察と軍隊』（日本経済評論社、2007年）。
 国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真 『日中関係史』（有斐閣、2013年）。
 マイケル・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか：占領期から冷戦終結後まで』（草思社、2004年）。
 ジョン・ダワー 『敗戦を抱きしめて』（増補版 上・下）（岩波書店、2004年）。
 高橋哲哉・山影進編 『人間の安全保障』（東京大学出版会、2008年）。
 ヴィクター・D. チャ （倉田秀也訳） 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）。
 波多野澄雄・佐藤晋 『現代日本の東南アジア政策』（早稲田大学出版部、2007年）。
 波多野澄雄編 『日本の外交 第2巻：外交史 戦後編』（岩波書店、2013年）。
 中島信吾 『戦後日本の防衛政策―「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』（慶應義塾大学出版会、2006年）。
 宮城大蔵編 『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、2015年）。
 吉田真吾 『日米同盟の制度化：発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版社、2012年）。
 若宮啓文 『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年）。
 李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹 『戦後日韓関係史』（有斐閣、2017年）。
 Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 9th edition, Pearson Education, 2012.

参考文献 Reference Books

ゼミにおいて適宜紹介する。
 グループ・ワークの際には、外務省が編纂・刊行した戦後期の『日本外交文書』を適宜参照する。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ論文作成への取り組み
平常点評価 Class Participation	70%	プレゼンテーション (30%); 出席および議論への参加、ゼミ運営への貢献 etc. (40%)
その他 Others	%	

- ・グループ論文の作成にあたっては、外務省外交史料館で調査を行う。
- ・春（３月）および夏（８月末あるいは９月初め）に２学年合同で合宿を行う予定です。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
107	政治学演習 I (栗崎周平)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	栗崎 周平
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治の理論研究・実証研究
Scientific Study of International Relations

授業概要 Course Outline

国際政治、主に安全保障に関わる論点（国際紛争、平和構築、内戦、国際組織、国家間競争など）について、その原因、メカニズム、解決策、さらには政策論的含意などを考察するために、理論研究ないし実証研究を行います。単なる時事問題の討議や既存研究の評論に留まらず、各々が持つ国際政治についての問題意識に基づいて独自の学術研究を二年間かけて行います。理論研究ではゲーム理論を用い、実証研究では計量分析を行います。ゲーム・モデルの分析から導出された仮説の検証という、理論と実証の組み合わせでも構いません。

ゼミ生には以下のうちいずれかのプロジェクトに取り組んでもらいます。
ゲーム理論を用いた数理分析
データ科学を用いた計量分析
起業を念頭にしたビジネスモデルの策定

国際政治（PKOの効果、戦争終結と無条件降伏のミクロ的基礎付け）の理論研究、比較政治に関する研究、政治学に留まらない基礎的な研究、各国の政策を調査する事例分析、VCなど投資家からの資金調達を達成するための（ビジネスモデルの策定と）ピッチデックの作成などに現在のゼミ生は取り組んでいます。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

授業の到達目標 Objectives

- 1) 大学・政治学研究という枠の中ですが、国際舞台・研究競争に打って出る力を養う。
- 2) ゲーム理論による理論研究や統計分析による実証研究を通して、論理的に説得的に魅力的に議論を展開できるようになること。
- 3) そのための技術の習得（Critical thinking、argumentation、問題発見能力と問題解決能力、プロジェクト立案遂行能力、ロジック、データ分析、ライティング、プレゼンテーション能力）。
- 4) 文献の読み方3つのテクニック（本2時間読了、論文裏読み、短期間多読）を身に付ける。
- 5) 5年後ないし10年後の目標達成のためのグランドストラテジーの策定

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

実証分析に関しては、データを扱う事の楽しさを味わってもらために政治学教員が担当する「政治経済の計量分析」を薦めます。「計量政治学」はUCLA政治学部と同内容ですのでお勧めします。

解析的・分析的な政治の理論研究に関しては、モデル分析の面白さを味わってもらうために、例えば「比較経済制度分析」などがお勧めです。

授業計画
Course Schedule

演習 I & II :

第1回 : イントロダクション

第2-15回 : Kydd教科書や研究論文 (APSRなど) の輪読と各自研究テーマについてのブレインストーミング

第16-20回 : 関心テーマについてLiterature Review報告

第21-25回 : 先行研究の再現・複製を通じた研究プロジェクト企画立案

第26-30回 : 研究プロジェクト (パイロットスタディ) 発表

演習 III & IV :

第1-2回 : ISA学会プロポーザル(300 words)批評会

第3-10回 : プロジェクト遂行とLabミーティング

第11-20回 : プロジェクト中間報告とLabミーティング

第21-30回 : 研究成果の論文執筆と発表への準備

教科書
Textbooks

David A. Lake and Robert Powell. 1999. Strategic Choice and International Relations. Princeton University Press.

William Spaniel. Formal Models of Crisis Bargaining. Cambridge University Press

Andrew Kydd. 2015. International Relations Theory: Game Theoretic Approach. Cambridge University Press.

国際政治研究の主要学術雑誌 : APSR, AJPS, IO, IS, JCR, ISQ, などが実質的な教科書となります。

参考文献
Reference Books

特になし。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	N/A
レポート Papers	0%	N/A
平常点評価 Class Participation	100%	参加することに意義があります。各人のゼミとの付き合い方は様々であっても良いと考えています。上記の栗崎の提供する教育サービスをどのように利用するかは、各自が決定すべきことで、それに応じて成績は割り当てられると考えてください。したがって、オリジナルの研究をしないというスタイルの参加であれば、それ相応の成績を取得して頂く、というビジネスモデルです。
その他 Others	0%	N/A

ゼミには正式登録しない参加希望者は直接連絡を下さい。ゼミ未登録者による参加はこれまでも参加いただいております。学内他学部に限らず学外からの参加者もいます。

応募に関する情報は、下記リンク先でスクロールダウンして下さい。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

本演習で作成されることが期待される学术论文やポスターは下記から参照できます：

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90WcoS0hjWE9CcXZJZGs/view?usp=sharing

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90Wcoc1hvZ0xyYklrZms/view?usp=sharing

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
108	政治学演習 I (小林哲郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小林 哲郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

メディアと世論の関係について学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

政治におけるメディアとコミュニケーションの関係について学び、実証的な仮説検証を行います。政治学だけでなく、社会心理学やジャーナリズム研究など幅広い関心を持つことが必須となります。前期は実証研究のための基礎的な訓練と文献レビューを通してリサーチクエストを深めると同時に、データ収集の準備を行います。後期はデータに基づいた仮説検証と、論文の執筆を行います。

調査や実験データの分析、メディアの内容分析を行いますので、基礎統計レベルの知識とRを使った基本的な分析スキルを持っていることが望ましいです(ただし必須ではない)。また、英語論文も読みますから英語力は必須です。

授業の到達目標 Objectives

データに基づいて仮説検証を行う力を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自発的に研究課題に関する文献を読み、考え、手を動かして分析する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第3回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第4回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第5回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第6回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第7回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第8回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第9回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第10回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第11回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第12回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第13回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第14回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

教科書 Textbooks

追って指示する。

参考文献
Reference Books

追って指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	研究発表のプレゼンテーションと論文で評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加と積極的な発言によって評価する。正当な理由がある場合を除き、無断欠席が2回あった場合には評価は不可とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
109	政治学演習 I (小原隆治)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小原 隆治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

自治・分権を考える

授業概要 Course Outline

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。政治学演習I(春学期)は、参加者が複数のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、まず最初に担当教員が著した論文1本を取り上げて検討する。そのあと3人の著者の手になる教科書的なテキスト1冊を扱い(第16、18章はスキップする)、各自の問題意識を深めてもらう。政治学演習I(春学期)のあとの政治学演習II(夏合宿-秋学期)では、参加者が春学期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく学期回数3分の1以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。春学期に失格した者は、秋学期に参加する権利を持たない。

授業の到達目標 Objectives

自治・分権をめぐる全体的な問題状況を把握する。そのうえで個別具体的な制度・政策・事例のレベルに落として課題を考察する方法態度を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

参加者が自身の報告にあたって事前に十分準備をするのは当然だが、毎回事後に、すべての参加者がクラスで提起された論点等に関し、ムードル上に設置する意見・質問箱のスペース等を利用した議論に積極的に参加することが望まれる。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス
第2回：小原(2012)を1回で輪読する。
第3回-第12回：磯崎・金井・伊藤(2025)を2章ずつ、10回で輪読する(第16、18章はスキップする)。
第13回-第14回：今後の打ち合わせ(グループ研究のテーマに関する討論、グループ編成、夏合宿の打ち合わせなど)

教科書 Textbooks

小原隆治(2012)「自治・分権とデモクラシー」齋藤純一・田村哲樹編『アクセス デモクラシー論』日本経済評論社
磯崎初仁・金井利之・伊藤正次(2025)『ホーンブック 地方自治(新2版)』北樹出版
小原(2012)は、担当教員が受講者にPDFを用意する。

参考文献 Reference Books

開講時をはじめ随時紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	前述の出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度を評価する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

開講中はアナウンスメント等の箇所を含め、ワセダムードルを丹念にチェックする。
関連URLは随時紹介する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
110	政治学演習 I (清水潤)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	清水 潤
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

法学・憲法学

授業概要 Course Outline

法学や憲法学についての学術的な文献を輪読します。輪読とは、テキストをあらかじめ決め、その割り当て部分について参加者全員であらかじめ読んできて議論することです。

イメージとしては、同じ映画を見て感想を言い合うというものに近いです。同じ本を全員で読んで、色々な意見や疑問をぶつけて議論します。

読むテキストは受講生の関心になるべく沿うものにしたいと思います。憲法に限らず、法哲学、歴史、比較法、外国法、倫理学などに興味を持っている学生も歓迎します。

特にゼミ生の強い希望がない場合は、
法学の入門書から読み始めようかと思います。例えば次のような本です。

早川吉尚『法学入門』(有斐閣ストゥディア、2016年)
内田貴『高校生のための法学入門-法学とはどんな学問なのか』(信山社、2022年)
大村敦志『Civilの理学 民法0・1・2・3条再考』(信山社、2025年)
中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』(岩波書店、2009年)
西川洋一ほか『法の歴史と法解釈の基礎』(中央経済社、2025年) 東京大学法学部『いま、法学を知りたい君へ: 世界をひろげる13講』(有斐閣、2024年)

2. 読む文献の一例

本ゼミは2026年度から開講ですので、過去の実績はないですが、担当教員の前任校のゼミでは以下のような書籍を輪読しています。

2020年度

- ジョン・ロック『統治論』(原著: 1689年)
- 駒村圭吾編『テキストとしての判決: 「近代」と「憲法」を読み解く』(有斐閣、2016年)
- ロバート・ダール『アメリカ憲法は民主的か』(岩波書店、2003年)
- 阪口正二郎編『憲法改正をよく考える』(日本評論社、2018年)
- 佐藤幸治『立憲主義について』(左右社、2015年)
- 安西文雄ほか『憲法学の現代的論点』第二版(有斐閣、2009年)

2021年度

- 神島裕子『正義とは何か』(中公新書、2018年)
- 田上孝一『はじめての動物倫理学』(集英社新書、2021年)
- エリザベス・ブレイク『最小の結婚 結婚をめぐる法と道徳』(白澤社、2019年)
- プラトン『クリトン』(岩波文庫、原著紀元前400年ころ)
- ホップズ『リヴァイアサン』(光文社古典新訳文庫、原著1651年)
- 大林啓吾ほか『コロナの憲法学』(弘文堂、2021年)

2022年度

- A. 宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書、2020年）
- B. 松村圭一郎『くらしのアナキズム』（ミシマ出版、2021年）
- C. 山本圭『現代民主主義』（中公新書、2021年）
- D. カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006年）
- E. 藤原帰一『「正しい戦争」は本当にあるのか』（講談社新書、2022年）
- F. E.H. カー『歴史とは何か』（岩波新書、1962年）
- G. カール・シュミット『現代議会主義の精神的状況』（岩波文庫、2015年）

2023年度

- A. 戸谷洋志『未来倫理』（集英社新書、2023年）
- B. 重田園江『ホモ・エコノミクス 利己の人間の思想史』（ちくま新書、2022年）
- C. ロック『完訳統治二論』（岩波文庫、2010年）
- D. 内田貴『高校生のための法学入門-法学とはどんな学問なのか』（信山社、2022年）
- E. 山本龍彦ほか『AIと憲法』（日本経済新聞社、2018年）
- F. ナイジェル・ウォーバートン『「表現の自由」入門』（岩波書店、2015年）

2024年度

- A. 森田果『法学を学ぶのはなぜ?: 気づいたら法学部, にならないための法学入門』（有斐閣、2020年）
- B. 将基面貴巳『従順さのどこがいけないのか』（ちくまプリマー新書、2021年）
- C. 吉崎祥司『「自己責任論」をのりこえる: 連帯と「社会的責任」の哲学』（学習の友社、2014年）
- D. マーカス・フェルソン『日常生活の犯罪学』（日本評論社、2005年）

このように、憲法史の古典や、日本や海外の法学や哲学の著作を読み、様々な問題について考えていくことが目的です。

担当教員の関心からすると、日本の時事的な憲法ネタよりは、憲法の歴史や思想に興味がありますが、例えば夫婦別姓訴訟について考えてみたい、司法試験に興味がある、というような要望がある学生も歓迎します。

受講生が特に実定法に強い関心を持っている場合には、日本や外国の判例や教科書を読んでも良いと思っています。

授業の到達目標 Objectives

学術的な文献を読み、他者と対話する方法を身につけること。
可能であれば、法的な考え方を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 指定された文献の予習
指定文献の指定された範囲を読んでください（毎週、全員）
2. レジュメの作成
指定された文献の要約を作ってきてください。レジュメ作成は毎週1人担当者を決めます。それ以外の人
は読んでくるだけで構いません。

授業計画 Course Schedule

毎週、指定された文献を輪読を行います。

教科書 Textbooks

ゼミ開始後、受講生の興味関心に従って決定します。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポ ² ー ト Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
そ の 他 Others	100%	平常点100%

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
111	政治学演習 I (シュラトフヤロスラブ)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	シュラトフ ヤロスラブ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ロシア近現代史

授業概要 Course Outline

- * 本演習では、ロシア近現代史を考察の対象とし、国際政治の文脈で分析する。ロシア帝国時代から現代にかけての政治や外交、民族問題などを多面的な角度から検証し、政治外交史の様々な側面の分析を試みる。場合により、日露・日ソ関係やロシア・ソ連の対外政策を中心とすることもありうるが、具体的な内容（実際に扱う時期や領域など）は演習参加者の関心次第で決定する。
- * 政治学演習IIは、テキスト（先行研究・史料など）の輪読が中心となる。政治学演習IIは輪読も行うが、参加者が演習Iの学習を踏まえて選択した研究テーマについてリサーチを行い、各自で報告することに重点を置く。
- * 本演習は学生によるプレゼンテーション・ディスカッションを重視し、各参加者が自主的に学習することが求められる。
- * 無断欠席は認められず、毎回積極的に参加することが求められる。
- * 合宿も行う予定であるが、具体的なスケジュールなどは演習参加者と相談の上で決定する。

授業の到達目標 Objectives

- 1) ロシア近現代政治・外交史（帝政期・ソ連期・ロシア連邦期）の様々な側面に対する知識を身につけ、北東ユーラシアの国際関係史について理解を深めること。
- 2) 各自の研究テーマに関する先行研究（日本語・英語、場合によってロシア語）を徹底的に調べ、批判的思考力を駆使し、口頭と文章で発表する能力を涵養すること。
- 3) 卒業論文を執筆するために必要なリサーチ方法や分析手法を習得すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のディスカッションに積極的に参加するために、必ず事前に学習する必要がある。

なお、プレゼミ期間中に下記の活動を実施する予定である。

- * 先行研究を熟読し、各自でプレゼンテーションをし、全員でディスカッションを行う（書籍は別途紹介する）
- * 1～2回数ほどフィールドワークに出かける予定である（詳細は別途紹介する）

授業計画 Course Schedule

主な活動は学生によるプレゼンテーションとディスカッションであるが、具体的な計画は、初回の授業でガイダンスを行い、参加者と相談の上で決定する。

教科書 Textbooks

適宜紹介する。

参考文献
Reference Books

適宜紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業への出席、ディスカッションへの取り組み、課題の達成度などに基づいて総合的に評価する。

備考・関連URL
Note・URL

この授業は基本的に日本語で行われるが、ロシア語の学習歴を持つことが必須である。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習Ⅰ

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
112	政治学演習Ⅰ（ソジェ内田恵美）	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ソジェ内田 恵美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治言語学—ディスコース分析の理論と実践

授業概要 Course Outline

現代社会において、言語が果たす役割が重要であることは論を待たない。

民主主義国家においては、政治リーダーは言葉を使って有権者に自らの政治的信条、政策や政権の正統性を説き、支持を得なければならない。しかし、彼らの言葉、レトリックや手法は様々ではなく、政治・社会の構造的変化によっても大きく変わってきている。近年では、政治マーケティングの体系化による影響は著しい。メディアもまた、グローバル化やソーシャルメディアの発達により、その社会的影響力が高まる一方で、事実より感情を重視する「ポスト真実」と呼ばれる状況や、左右のイデオロギーへの二極化が指摘され、大きく揺れている。そのような社会的状況を鑑み、本講義では、言語と政治の関係について多角的視点をもって考えたい。

授業では、アリストテレスやレイコフの理論を基にした政治演説のレトリック分析から、フーコーやブルドゥーによる社会理論を発展させた批判的言説分析の事例を扱い、政治エリートがどのような言葉を使って社会的な現実を構築し、一定の社会的規範を常識化し、正当化しているかを分析し、考察するための理論と方法を学ぶ。また、メディアが社会でどのような役割を果たしているのか、についても考える。講義の前半は分析のために必要な概念や理論を学ぶが、後半は具体的なデータ収集の方法や分析手法に焦点を当てる。3年前期は主に量的、質的分析手法について学ぶ。後期からは、各自が卒業論文に向けて研究を行う。本演習は、演習参加者の関心に合わせて、英語・日本語の研究文献を扱う。

授業の到達目標 Objectives

政治ディスコース研究の基礎を培うため、その背景となる理論や分析方法を学ぶ。この講義では言語学的なアプローチを取り、量的分析と質的分析の在り方について考える。受講者はこれらの研究方法の意義と限界を理解し、独自で研究を進めるための基本的な能力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

例年、夏合宿と年二回のゼミ発表への参加は必須。

授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション
第二回～第九回：講義、文献講読（英語および日本語）
第十回～第十一回：ディスコース分析の計画と準備
第十二回～第十四回：ディスコース分析レポートの書き方、準備
第十五回：ディスコース分析レポート提出

教科書 Textbooks

授業中に指示、または配布。

参考文献
Reference Books

アリストテレス (1992)『弁論術』 戸塚 七郎訳 岩波文庫。
 Lakoff, George (2003) Metaphors We Live by. University of Chicago Press.
 Fairclough, Norman(2014) (3rd) Language and Power. Routledge
 Machin David & Andrea Mayr (2012) How to do Critical Discourse Analysis. Sage Publications.
 van Leeuwen, Theo (2008) Discourse and Practice: New Tools for Critical Discourse Analysis. Oxford University Press.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	論文、課題など
平常点評価 Class Participation	20%	出席と議論への参加など
その他 Others	20%	口頭発表など

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
113	政治学演習 I (田中孝彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 孝彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

冷戦期および冷戦後国際政治の歴史的過程と国際秩序の変容—1945年-2025年

授業概要 Course Outline

* 田中孝彦ゼミの教員によるゼミオリエンテーションの動画を必ずご覧ください。

【問題意識】

現在、わたくしたちは歴史的な国際秩序の変化に直面しています。第二次世界大戦後、1990年代初頭にかけて世界政治のありかたを大きく規定していたのは冷戦といわれる国際政治でした。それが終焉した後、冷戦秩序に代わる新しい安定した世界秩序は、容易には構築されませんでした。その一つの帰結として、現在の行く先の見えない国際社会の状況があるといえます。この授業では、冷戦期の国際政治が、どのような変化を見せて、今日の国際政治の様々な条件を形成してきたのかについて分析を加えとともに、冷戦後世界秩序の動向についても大きく俯瞰することを通じて、これからの世界秩序のありかたについて考察します。

【授業の方式】

< 討論中心の授業 >

授業のやり方については、ゼミ生と相談して決めていきますが、現時点では次のように考えています。

毎回の授業は、テキストの指定された章や指定された論文を各自が読んできて、討論を行います。その際、毎週2名の報告担当者(Commentators)が論点を提示し、それをたたき台として討論を行います。

報告担当者は、(1) 議論すべき論点 (2) テキストに対する批判、をあわせて3つ以上提示しなければなりません。(1) については、なぜその論点(疑問点)が重要なのかについて説明をしてもらいます。(2) については、論理的および実証的にテキストの建設的批判を展開してもらいます。なお、報告担当者に加えて、討論者(Discussants)を2名決め、Commentatorの報告に対してその場で簡潔なレスポンスをもらいます。

< 利用する文献 >

授業で利用するテキストは、以下の著作です。

前期：青野利彦著『冷戦史』上下2巻，中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) The World of the Cold War 1945-1991, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

授業の到達目標 Objectives

冷戦期から今日までの世界政治の状況を、歴史的に分析する力を身につける。具体的には以下の目標を掲げたいと思います。

- (1) 世界政治の歴史的文脈を知る。何が終焉し、何が変化し、何が継続し、何が新たに生み出されたのかを見極める。
- (2) 歴史的な事象の原因について、自分なりの仮説をたて、それを歴史的証拠に基づき検証する手法を身につける。
- (3) 今日の世界政治における様々な問題の淵源を、冷戦期の現象の中に探る。
- (4) 歴史を学ぶことによって、現在の理解を深めるとともに、未来へのトレンドを把握する。

大きくいって、21世紀のあるべき国際秩序のあり方を考えるのが、このゼミの目標です。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

【事前学習】

- (1) 授業計画に示されているテキストの該当箇所や論文は、必ず読んでくることが前提として求められます。
- (2) 「国際関係史I」を履修してあることが望まれますが、必修ではありません。

【事後学習】

- (1) 授業中に話せなかったことや、議論できなかった論点について、Waseda Moodleの機能を利用して自主的にディスカッションを行ってください。適宜、私もチェックしてコメントします。
- (2) 学期中にショート・エッセイの提出を求めます。それを通じて、事後学習を行ってください。

授業計画 Course Schedule

プレゼミ：(これについてはプレゼミ専用のシラバスで別途詳しくお知らせします。)

プレゼミは課題形式で行います。使用するテキストは、Robert McMahon (2021) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, (邦訳：ロバート・マクマン著『冷戦史』勁草書房[平井和也訳，青野利彦監訳])。これを一冊読んで、冷戦期国際政治史の概要を把握してもらいます。課題としては書評を執筆してもらいます。書評において触れるべき点など詳細については、プレゼミ専用シラバスをご覧ください。

前期：

前期では、プレゼミで得た知識と論点についての理解をさらに深めてもらいます。利用するテキストは、青野利彦著(2023年)『冷戦史』上下2巻，中公新書，です。

マクマンのテキストは、典型的な初学者用入門書ですが、このテキストはより詳細な概説書です。取り扱っている事象もより多く、その記述は、ソ連はもとより、東欧諸国、第三世界、そして世界政治のみならず世界経済の動向などにも及んでいます。また、重要な事象の因果関係については、マクマンよりも踏み込んだ記述となっています。

授業では、毎週1章ずつ読んでゆき、前期中に全巻を読破することを目指します。また外交文書をなどの重要な史料もその抜粋を適宜読んで、実証的な理解を深めます。

夏合宿：

9月初旬から中旬にかけて、軽井沢セミナーハウスで合宿を行います。合宿では、冷戦終焉後における国際秩序の展開と変化についての定評のある論文(英語)を数本読み、現在の国際秩序の状況へ世界が至った経緯、その問題点などについて議論を戦わせます。

後期：(政治学演習II)

Vladislav Zubok, *The World of the Cold War, 1945-1991*を読みます。

この著作は、主に米ソ関係の展開に焦点をあてた研究ですが、多くの冷戦通史研究がアメリカの外交・軍事戦略の展開に重点が置かれるのとは異なり、ソ連の動向についてもバランスのとれた取り扱いをしている点特徴的です。

基本的に前期同様、毎週1章(30ページ前後)を読んでゆきます。英文は平易で読みやすいので、英語力の鍛錬にも役立つと思います。後期中に完読することを目指します。

教科書 Textbooks

以下の文献を教科書として利用する。

前期： 青野利彦著(2023)『冷戦史』上下2巻，中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) *The World of the Cold War 1945-1991*, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

【史料集】

Edward H. Judge and John W. Langdon (1999) *The Cold War: A History Through Documents*.

参考文献 Reference Books

適宜、授業で指定します。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	20%	学期中に提出されるエッセイを評価する。(予定)
平常点評価 Class Participation	80%	報告担当時の報告内容について、その論理性、実証性、独自性を評価する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

【授業形態についての重要事項】 基本的に対面で行う予定ですが、諸事情により一部Zoomによるオンライン実施になる場合もあります。その場合には適宜周知します。

【その他】

政治学演習I以降は英語文献をかなり大量に読んでもらいます。それゆえ、英文読解に自信の無い人には、ハードルが高いかも知れませんが、あきらめずに続ければ、かならず上達します。ガッツをもって果敢に挑戦する方に期待します。史料などが掲載されているwebsiteのURLなどは、適宜授業中などにお知らせします。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
114	政治学演習 I (都丸潤子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	都丸 潤子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析

授業概要 Course Outline

この演習では、多様な主体によって重層的に構成されている国際社会において、トランスナショナルな現象の代表例である人間およびその集団の移動が、どのような原因で生じ、いかなる過程を経て、どのような結果をもたらすかを社会科学的に分析し、理解を深めることを目的とする。分析にあたっては、理論にとどまることなく特に実証分析を重視し、政治的・経済的側面だけでなく、文化的・社会的・心理的な側面からの検討を行う。具体的には、移民・難民・ディアスポラ・出稼ぎ・派遣・留学・国際交流・兵士・人身取引などさまざまな形のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・経由国・ホスト国や国際組織の関与、移動者と移動元・移動先の社会との関係や多文化共存のあり方などを研究対象とする。また、ヒトの国際移動の歴史は古く、特にナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリーをつなぐ現象とされる植民地化と脱植民地化の過程で起こった社会・文化変容・外交政策の変化やヒトの移動の影響は、現在にも広くみられる。従って、このような事例に関する歴史的分析も重視したい。また、現在私たちが直面しているグローバル・イシューとしてのCOVID-19パンデミックや戦争と人の国際移動の関係の検討も試みる。これらの視点は、人間集団のなかでも、一般市民、マイノリティ、弱者の立場から国際社会の現象を捉えなおすことにもつながる。参加者と一緒に、より人の顔の見える国際関係像をさぐってゆきたい。

授業の到達目標 Objectives

国際関係においてヒトの移動が果たした役割を歴史的文脈のなかで理解し、私たちが直面したコロナ禍も含めて、現代国際社会のさまざまなイシューとのつながりを多角的に、人々の経験や感情を重視した（人の顔の見える）形で把握することをめざしたい。各参加者が現代の諸問題解決への具体的なアプローチを、説得的に提示できるようになることが理想である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

以下は主として初年次履修学生春学期 I の授業計画です。秋学期の演習IIにおいては、輪読も行いますが、ゼミ論のテーマについて、各自が報告、グループディスカッションを行う機会をふやします。1年でゼミ論を執筆する予定の学生、大学院進学・留学希望者には、早期執筆のための個別課題の設定や個人指導も行います。

輪読、報告と討論の回では、基本的に各回について報告者、コメンテーター（議論の口火を切る役目）を決めて、学生の主体的参加と討論を重視します。

3、4年生合同のゼミも有効かつ好評だったため、適宜合同開催も行う。

第1回：ガイダンス、導入的講義と問題提起：国際関係論の研究・分析とは？ なぜ国際移動が重要か？

第2回～第4回：輪読とディスカッション：テキストを以下の教科書欄の導入的文献などから選び、履修者全員が事前に批判的・発展的に読んでくる。あらかじめ指定された報告者・コメンテーターが内容の紹介と批判的・発展的論点の提示を行い、全員で討論をする。

第5回～第9回：輪読または3、4年生合同ゼミの形での4年生のゼミ論中間報告（各回2-3名ずつ）と質疑

応答。

第10回～第13回：ゼミ論テーマ・プロポーザル：各回につき、テーマの近い学生約3-4名ずつが各自のテーマ案を報告し、全体で質疑応答を行う。

第14回：まとめと夏休みの課題呈示（共通テーマによるグループ別共同研究、または共通テキストの批判的・発展的輪読）。

夏合宿はゼミ生諸氏の希望状況によって実施の有無を検討します。

実施する場合、内容は、夏休みの課題についてのグループ報告・討論、最終年次学生はゼミ論研究の中間報告となります。

教科書 Textbooks

<春学期Ⅰ：導入的文献>

ロビン・コーエン『移民の世界史』東京書籍、2020年。

S・カースルズ、M・J・ミラー著、関根政美、関根 薫訳『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会、2011年。

ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著、山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジーⅠ、Ⅱ』平凡社、2003年。

トマス・ソーウェル著、内藤嘉昭訳『征服と文化の世界史』明石書店、2004年。

秋田茂『イギリス帝国の歴史-アジアから考える』中公新書、2012年。

塩川伸明『民族とネイション-ナショナリズムという難問』岩波新書、2008年。

滝澤三郎・山田満編著『難民を知るための基礎知識』明石書店、2017年。

（秋学期のⅡではより発展的な文献、英文文献を輪読する予定）

参考文献 Reference Books

詳細は開講中に履修者の関心に合わせて示すので、ここでは主な参考文献をあげておきます。

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005年。

日本比較政治学会編『年報2009：移民と国内政治の変容』ミネルヴァ書房、2009年。

平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年。

山田美和編『「人身取引」問題の学際的研究』IDE-JETRO アジア経済研究所、2016年。

北川勝彦編『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年。

O・A・ウェスタッド著、佐々木雄太ほか訳『グローバル冷戦史』名古屋大学出版会、2010年。

ヴァミク・ヴォルカン著、水谷驍訳『誇りと憎悪：民族紛争の心理学』共同通信社、1999年。

梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の见えない定住化-日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会、2005年。

デイヴィッド・パットストーン著、山岡万里子訳『告発・現代の人身売買：奴隷にされる女性と子ども』朝日新聞出版、2010年。

Walker Connor, Ethnonationalism, Princeton University Press, 1994.

John Darwin, Unfinished Empire: The Global Expansion of Britain, Penguin, 2012.

Philip D. Curtin, The World and the West, Cambridge University Press, 2002.

Marjorie Harper and Stephen Constantine, Migration and Empire, Oxford University Press, 2010.

Alexander Betts and Gil Loescher, eds., Refugees in International Relations, Oxford University Press, 2011.

David Kyle and Rey Koslowski, eds., Global Human Smuggling, 2nd edn., Johns Hopkins University Press, 2011.

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	20%	報告用レジュメの充実度などで評価する
平常点評価 Class Participation	80%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

本ゼミでは、積み上げ式の演習と論文指導を行い、上級生・下級生を含めたゼミメンバー同士の切磋琢磨を重視しますので、仲間を大切に、卒業まで必ず在籍して報告・議論に積極的に参加し、ゼミ論文を完成させる覚悟のある方を受け入れます。

留学計画がある場合には、各自の履修計画が履修／単位取得条件を満たすかどうかを事前に事務所で確認の上、応募時にわかる範囲で、あるいは留学決定後すみやかに、その旨教員まで申し出てください。

留学をまたいでの履修計画等については、履修・登録方法について事務所で手続きを確認のうえ、早めに教員に相談してください。

国際政治経済学科生、経済学科生も大いに歓迎します。

ゼミ初年次終了までにできるだけ国際社会関係論を履習してください。左の科目に加え、国際関係論入門もすでに履習していることが望まれます。

主体的に研究を進めてゼミ論を完成させる熱意を持ち、卒業後も含めて仲間を大切に、建設的な議論のできる学生のみなさんを歓迎します。

学部で卒業し実務をとおした社会貢献を考える学生諸氏はもちろんのこと、国内外の大学院進学希望者も大いに歓迎し、その目標にあわせた指導を行います。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
115	政治学演習 I (仲内英三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	仲内 英三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代西欧政治社会の歴史

授業概要 Course Outline

本年度は、ファシズムについて検討していく。近年デモクラシーの危機が叫ばれ、世界各地でファシズムの再来を意識させるさまざまな現象が起こっている。その意味を的確に認識するために、20世紀前半にヨーロッパや日本で起こったファシズムについて、理解を深めておくことが肝要であろう。それは当時のファシズムを理解するうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパや日本のファシズムやポピュリズムを考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

授業の到達目標 Objectives

20世紀前半のファシズムを知ることで、現在のファシズムやポピュリズムについて理解を深める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回：ファシズムの概念規定
第3回－第5回：思想としてのファシズム
第6回－第8回：運動としてのファシズム
第9回－第11回：体制としてのファシズム
第12回－第14回：全体主義、近代化論、権威主義との比較

教科書 Textbooks

山口定『ファシズム』、岩波現代文庫

参考文献 Reference Books

授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	なし
レポート Papers	0%	なし
平常点評価 Class Participation	100%	演習は基本的に授業に出席することから始まるので、まず普段の授業への参加が出発点となる。授業では1回～2回の発表の機会があるので、その出来具合も評価の対象となる。
そ の 他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
116	政治学演習 I (中村英俊)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	中村 英俊
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際政治の理論と現実－英国学派を中心に

授業概要 Course Outline

「グローバルなリベラル秩序」が流動化している。EU・ヨーロッパ統合（ブレグジットを含む）、アジア（インド太平洋）の地域統合、日米欧G7体制とG20サミット、国際連合（国連システム）、核拡散問題、気候変動問題、感染症拡大問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。

国際政治の理論研究は、第二次世界大戦後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。そこでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国（および他のヨーロッパ諸国）の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきた。「英国学派」（English School）と呼ばれる国際政治の見方（パラダイム）を学ぶことが、本演習の基本的目標である。

本演習は、プレ演習後にⅠからⅣまでを（2年余りにわたり）連続履修する典型例では、次のような段階で展開する。まず第1段階（プレ演習と演習Ⅰ）では、邦語・邦訳文献を中心にした輪読を通して、主にアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。つぎの第2段階（演習Ⅰと演習Ⅱ）では、「英国学派」の国際政治理論についても基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、International Affairs、International Security、International Organization、International Studies Quarterly、European Journal of International Relations、Journal of Common Market Studies、Journal of European Public Policyなどの学術誌から各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。この段階で、各自の事例研究に必要な方法論（研究手法）の習得も始めることが求められる。最後に第3段階（演習ⅡからⅣ）では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、（一次資料などのデータ収集を続けながら）各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合する卒業論文（ゼミナール論文）を完成してもらう。

授業の到達目標 Objectives

原則として2年間で、良い卒業論文を書き上げてもらう。そのために、順次、必要な知的訓練を重ねてもらう。

本演習Ⅰ（3年春学期）では教科書（Nye and Welch）および各章ごとに関連する文献を輪読してもらう。共通の知的基盤を構築した後、夏季休業中には各自の研究テーマを本格的に考え始め、演習Ⅱ（3年秋学期）では各自のテーマに即した先行研究（学術誌の英語論文）を輪読する。3年終了時点で、まずはタームペーパーを提出してもらう。4年への過渡期（2－3月）に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、卒業論文完成へ向けての課題（多くの場合は資料収集に関する課題）を自覚してもらうことになる。演習Ⅲ（4年春学期）では、卒業論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には（3年生も前に）報告会を開催する。演習Ⅳ（4年秋学期）で完成させる卒業論文については、1月末か2月初旬に最終報告会を開催することにする。（※2027年度のゼミ運営について、備考欄を必ず参照。）

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習Ⅰに先立つ「プレ演習」では、演習Ⅰテキストの翻訳（『国際紛争』）を中心に日本語の基礎文献を読み込んでもらう。

演習Ⅰでは、英語テキスト（および関連文献）の輪読と同時に、各自の研究テーマを考えてもらう。（演習Ⅰでは毎週の事前学習として、レジュメ作成や輪読コメントの準備など多くの時間を割くだろう。事後学習としては、演習Ⅱ終了時点で完成するタームペーパーに関連する論点の考察を深める時間を確保する必要があるだろう。）

演習Ⅰの後は夏合宿などを挟んで、各自の研究テーマに関する日本語・英語などの文献（先行研究）調査を試みてもらう。演習Ⅱの輪読テキストは、各自の研究テーマを反映した、英文雑誌の論文（複数）である。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：国際政治の研究テーマ
- 第3回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 1）
- 第4回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 2）
- 第5回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 3）
- 第6回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 4）
- 第7回：各自が関心を寄せるテーマに関する英語の先行研究の調査実習
- 第8回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 5）
- 第9回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 6）
- 第10回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 7）
- 第11回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 8）
- 第12回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 9）
- 第13回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 10）
- 第14回：各自の研究テーマの選定：先行研究の検討
（＊8月初旬予定の報告会：各自の暫定的研究テーマについて）

教科書 Textbooks

Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History (10th Edition; Pearson 2017)

参考文献 Reference Books

適宜指定する

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	50%	報告用レジュメの作成などで評価する
平常点評価 Class Participation	50%	毎回のゼミへの積極的な参加姿勢など
その他 Others	0%	特になし

【2027年度のゼミ運営について】ゼミの運営形式について、2026年度は例年通りの予定です。しかし、2027年度は在外研究を予定しているため、4年生の演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習論文は、例年とは異なるゼミ運営方法になります。木曜5時限に開講予定の毎週のゼミはZoom開催になることが多く、集中ゼミ、夏合宿、春の報告会などの開催方法も例年とは異なるでしょう。また、1年間はゼミ募集を停止する予定なので、直接の後輩はいないゼミとなる予定です。

【関連科目】国際関係領域の必修選択科目（「国際関係論入門」および「国際政治学」＊）に加えて、「国際機構論」および「地域統合論」は（必ず3年生までに）履修してください。（＊2025年度春学期に私が担当した「国際政治学」の単位を取得した方が望ましいです。）

【学生に対する要望】切磋琢磨して学びあえる、厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。様々なグループワークに積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。演習論文完成までゼミに関与し続ける意思および能力（実行力）の強さ・高さを選考基準として最優先します。

【例年通りの留意事項】毎週木曜5時限のゼミ（演習ⅠとⅡ）は時間を延長して（6時限も）ジックリと議論を深めます。2月初旬予定のゼミ合宿あるいは集中ゼミ、夏季休業中（8月初旬予定）のゼミ合宿あるいは集中ゼミへも参加してください。学期中の土曜日などに集中講義形式で「補講」を実施することもあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
117	政治学演習 I (日野愛郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	日野 愛郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代政治の実証分析 (Empirical Analyses of Contemporary Politics)

授業概要 Course Outline

このゼミは政治を実証的に分析することに関心を持つ仲間とともに楽しく真剣に学問を追究するゼミです。ゼミのテーマは政治に関するデータを実証的に分析するものであればどのようなものでも構いません。データを分析するためには、その方法を学ぶ必要があります。たとえば、メディアと選挙に関する実証分析を行うとしましょう。そのためには「メディア」をはじめとする送り手の分析や「選挙」における有権者をはじめとする受け手の分析の方法を習得する必要があります。例えば、メディアや政党、政治家などの送り手のメッセージの分析や有権者や読者・視聴者・ユーザーなどの受け手の意識や行動の分析を行うことになります。このゼミでは、メディアや政党・政治家のメッセージを数量化する手法である内容分析 (content analysis) や統計モデルに基づく計量テキスト分析の手法を学ぶことができます。同様に、世論調査 (内容をランダムに変える調査実験を含む) やソーシャル・メディアへの投稿内容の分析方法を学び、有権者や一般の人々の態度や反応を明らかにします。また、複数の国や地域を統合的に分析する比較分析の手法 (マルチレベル分析) も、必要に応じて学んでいきます。テーマに応じて、適切な分析手法を学び、応用しています。現代政治の実証分析に関連する分野では、有権者の投票行動分析や政党の政策競争の分析をはじめとして多くの研究成果が蓄積されています。このゼミでは、これまでの豊かな研究の蓄積を踏まえて、ゼミ生同士でアイディアを出し合いながら、新しい知見を産み出すことを目指しています。この目標を達成するために、ゼミの1年目は実証分析をするために必要となる様々なデータ収集・作成の手続きや分析手法と一緒に学んでいきます。過去の研究を再現 (replicate) することから様々なデータ分析の手法を学び、共通のテーマについて話し合い、グループワークを通して実証分析の基礎を養います。2年目からは、自らの関心に沿って、先行研究を読みながらプロポーザル (研究計画書) を練り、卒業論文の作成を進めます。皆さんは卒業すると「学士」になります。多くの人にとって人生で最初の「士」になると思います。最終的に質の高い卒業論文を書き遂げて名実ともに「学士」になることが2年間のゼミの目標になります。

授業の到達目標 Objectives

疑問に思うことを学術的な問いの形で表現する力 (リサーチクエスションを立てる力)、「これは!」と思う答えを探し出す力 (仮説を立てる力)、立てた仮説が正しいかを確かめる力 (仮説を検証する力) を養います。これらの力は、学術の世界だけでなく、皆さんが社会人になる時に大きな武器となるだけでなく、日々の営みを豊かにしてくれます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します。

授業計画 Course Schedule

プレゼミ（2024年度冬クォータ）：R1グランプリ（統計ソフトRを用いて出版された論文のレプリケーションを行い発表するコンテスト）の実施
 第1回：イントロダクション、ゼミの運営について、合宿、OB/OGとの交流会に関する検討
 第2回：先行研究の先行研究を読む（先行研究のオリジナリティ分析）
 第3回～第5回：先行研究に関するグループワーク（関連文献を基にした発表・ディスカッション）
 第6回～第8回：先行研究のレプリケーション&分析手法に関するレクチャー
 第9回～第10回：グループワークに関する話し合い
 第11回～第12回：先行研究調べとオリジナリティの追究
 第13回：プロポーザル発表（プレゼミ）
 第14回：論文コンクールに向けた論文前段（イントロ、先行研究・オリジナリティの提示、仮説）の提出

教科書 Textbooks

特にありません。適宜文献を指定します。
 （プレゼミ）今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門（上・下）』（粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）岩波書店、2018年。（Kosuke Imai, Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press, 2017.）

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミにおける学習状況、貢献度を総合的に評価します。他のゼミ生のプレゼンテーションへのフィードバックの量、質を考慮します。
その他 Others	%	

- プレゼミ（2025年度冬クォータ）は火曜日2限に予定しています。他の科目と履修が重ならないよう留意してください。詳細はプレゼミのシラバスをご覧ください。
- 本ゼミの1年目は火曜日2・4限、2年目は火曜日4・5限を予定しています。1年目は4限に開講されている4年生ゼミにも参加してもらい、2年目は5限に開講されている大学院ゼミにも出席してもらいます。先輩の研究が出来上がっていく過程をリアルタイムで見ることは生きた教材になるはずです。
- 3年次終了までに、「計量分析（政治）」と「政治テキスト分析」を履修することを、ゼミに参加する条件としています。
- 通常のゼミや合宿への参加は必須です。欠席が多くなる方はご遠慮いただいています。
- 入ゼミ後に課題があります。過去のゼミ生（1期～11期）の卒業論文の中から1つを選び、その論文を2000字前後で論評してもらいます。論文集は下記URLから入手できます (<https://goo.gl/xm88Mj>)。ゼミの面接時に感想を尋ねる可能性があります。同じURLにゼミ生が作成したオリエンテーション資料も格納されています。
- 普段のゼミの様子はゼミ公式のX(@airohinoseminar)やInstagram(airohinoseminar)をご覧ください。
- 留学を予定している学生や留学から帰国した学生にも学びの機会を作っていきたいと考えています。個別にご相談ください。定期的に外国からゲストを招聘し、最新の研究成果や手法について学ぶ機会を用意する予定です。This seminar is open to EDP students. The working language of the seminar will be mainly Japanese but the instructor is prepared to accommodate students who are interested in learning empirical and comparative analyses of media and elections in general.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
118	政治学演習 I (蛭田圭)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	蛭田 圭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

政治思想

授業概要 Course Outline

2026年度開講の新しいゼミです。政治思想に関心のある学生を対象しています。

政治思想とは、科学的な方法を用いた政治学では解明できない政治の諸側面を扱う学問です。「政治哲学」、「政治理論」とほぼ同義語ですが、より幅広く多様なアプローチを包含することが含意されています。

具体的には、自由、平等、権利、権力、暴力、戦争、平和、ナショナリズムといった、政治に関する諸概念について深く学ぶことや、今ある世界の問題点を理解した上で、今よりも望ましい世界のあるべき姿について考えること、さらには、そうした問いに取り組んだ過去の思想家たちの試みを理解することなどが、政治思想の課題として挙げられます。

政治思想を研究する上で、唯一の正しいアプローチというものはありません。関心に応じて、政治制度に焦点を当てる政治学の成果を踏まえたり、「べき論」に取り組む倫理学の知見を参照したり、時代的文脈を精査する歴史学の成果を活用したりと、いろいろな方法がありえます。それぞれのアプローチに長短がありますので、ゼミ生には、自分の関心に合った方法を見つけてもらいたいと思います。

演習Iでは、輪読をしながら、テキストを批判的に読む練習をします。履修者は学期中に最低一度は発表を行い、積極的に議論に参加することが求められます。課題図書はゼミ生の関心を見てから決定しますが、主に日本語文献（日本語で書かれたものか、日本語訳があるもの）を使うことを予定しています。

授業の到達目標 Objectives

1. 政治思想という学問分野を理解する
2. テキストを批判的に読解する能力を磨く
3. 卒業論文で取り組みたいテーマを見つける

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の授業前に課題図書を読んでおくこと。最低一回はプレゼンテーションを行うこと。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション、教科書の選定、発表担当週の決定

第2回：輪読・発表

第3回：輪読・発表

第4回：輪読・発表

第5回：輪読・発表

第6回：輪読・発表

第7回：輪読・発表

第8回：輪読・発表

第9回：輪読・発表

第10回：輪読・発表

第11回：輪読・発表

第12回：輪読・発表

第13回：輪読・発表

第14回：輪読・発表

教科書
Textbooks

第一回目授業までに指定する

参考文献
Reference Books

デイヴィッド・ミラー（山岡龍一・森達也訳）『はじめての政治哲学』岩波現代文庫、2019年
川崎修・杉田敦『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣アルマ、2023年
アミア・スリニヴァサン（山田文訳）『セックスする権利』勁草書房、2023年
坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年
リチャード・ワットモア（齋藤純一・稲村一隆訳）『入門 政治思想史』中公選書、2025年

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	学期末に、卒論で取り組みたいと考えるテーマを簡潔にまとめて提出すること
平常点評価 Class Participation	70%	授業内での発表と発言の内容を評価します
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
119	政治学演習 I (谷澤正嗣)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	谷澤 正嗣
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代リベラリズムとその批判

授業概要 Course Outline

政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」「正義と不正義を判別する原理は何か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、本演習では現代の哲学的研究に焦点を合わせる。こうした研究の多くが議論の枠組としているのが、「リベラル・デモクラシー」と称される現代の政治体制である。自由、平等、寛容、複数性、正義といった重要な価値や規範についての、特定のリベラルな構想を肯定し、リベラル・デモクラシーの制度と実践を正当化する志向を強くもつ政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、それらの価値や規範に対する批判に重きをおく政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。現代リベラリズム批判の例として、功利主義、アナキズム、リベタリアニズム、フェミニズム、批判的人種理論、ポストモダニズム、ポストコロニアリズム、そして保守主義といった観点からの批判が挙げられる。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたか、それにもかかわらずどのような問題に直面しているかを明らかにする。

授業の到達目標 Objectives

- (1) 現代政治理論の主要な論点、とくに現代リベラリズムとその批判について理解する。
- (2) 哲学的な読解、思考、表現、討論の技法を学ぶ。
- (3) 政治学演習II、IIIおよびIVを受講し、演習論文を執筆するための能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミでの討論に先立ってテキストを読んでおくこと、討論の後にあらためて自分のテキスト解釈を考え直すことを求める。とくに、事前のテキスト精読は必須である。

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション 政治理論とは何か
第2回～第13回：文献講読と討論
第14回：まとめと討論

教科書 Textbooks

開講時に受講生と相談の上で指定する。いくつか候補となる著作を挙げておく。
ケリー、ポール 2023 佐藤正志ほか訳『リベラリズム』新評論。
スコット、ジェームズ・C 2017 清水展ほか訳『実践 日々のアナキズム 世界に抗う土着の秩序の作り方』岩波書店。
ウルフ、ジョナサン 2016 大澤津・原田健二朗訳『正しい政策がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房。

参考文献
Reference Books

川崎修／杉田敦編 2023 『新版 現代政治理論 〔新版補訂版〕』有斐閣。
 齋藤純一／田中将人 2021 『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』中公新書。
 田中将人 2025 『平等とは何か 運、格差、能力主義を問いなおす』中公新書。
 戸田山和久 2022 『最新版 論文の教室』NHK出版。
 デイヴィッド・ミラー 山岡龍一／森達也訳 2019 『はじめての政治哲学』岩波現代文庫。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	レジュメによる報告、討論への積極的で協力的な参加、討論から明らかになる文献の理解度などを総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
201	経済学演習 I (安達剛)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	安達 剛
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学を用いた問題発見・解決能力を養う

授業概要 Course Outline

ミクロ経済学は知識ではなく思考の型であり、社会や日常生活の現場で活用できなければ意味がありません。ミクロ経済学やゲーム理論の理論をそのまま学ぶだけではなく、それらを現実の社会問題に適用し、構造的課題を発見・解決する技術を体系的に身につけることが本演習の目的です。ゼミでは理論テキストの輪読に加え、具体的な現場でのフィールドワークや関係者との対話を通じたケーススタディを重視します。理論と現場を往復することで、自ら課題を見つけ、理論と実践を統合して考える力を養います。

演習 I では、①現実の問題をインセンティブ構造や制度設計の視点から捉える技術、②現場で問題を発見し、クリティカルシンキングを用いて創造的な仮説や解決策を導き出す技術、③ミクロ経済学やゲーム理論、統計学を基盤に、現場で独自の課題設定と研究を実施する技術の習得を目指します。ゼミ生同士の討議を中心に、各自の研究計画の指導を通じて、理論を実践的に応用できる能力を養成します。

授業の到達目標 Objectives

問題をインセンティブ構造で捉える技術について習熟する。
ミクロ経済学・ゲーム理論・統計学を用いた研究の構造について理解する。
問題を自ら見つけ、仮説を考え、検証するプロセスとその意義を学習する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション
第2～4回：インセンティブ構造で考える（反復練習）
第5～6回：仮説をみがく（反復練習）
第7～8回：簡単に検証する
第9～10回：学問を使って発見・発明をする
第11回：検証方法の学習（ミクロ経済学・ゲーム理論）
第12回：検証方法の学習（統計学）
第13回：研究計画をたてる
第14回：まとめ

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	討議への参加度合と、輪読で使用するテキストの読み込み度合で評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

*2026年度春学期は特別研究期間のため、演習Iについては教員がzoom越しに指導を行う形式となります。

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
202	経済学演習 I (荒木一法)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	荒木 一法
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

企業と家計の行動分析 (応用ミクロ経済学)

授業概要 Course Outline

(目的) 本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

(方法) 伝統的なミクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を拡げることを試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

(題材の説明) 主に企業の戦略決定(投資・資金調達行動、マーケティングなど)と資金仲介者(銀行・証券会社等)の行動を分析し、時間的余裕があれば家計の消費・貯蓄・資産選択行動も扱いたいと考えています。これらのトピックをミクロ経済理論を用いて分析する文献を輪読するとともに、関連ニュースを報じる和文および英文の新聞・雑誌等の記事を題材にディスカッションをおこない理論の応用力を強化します。

(授業の進め方) 春学期は共通のテキストを使用し、参加者が担当箇所を発表していきます。例年は各人3回の発表機会があります。夏合宿では事前に設定した課題について調査し、その結果を口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめ提出してもらいます。

(授業時間について) ゼミは、3年4年合同で月曜4時限、5時限連続で行います。

(授業以外のゼミ活動) 各学期数回のペースで実務の第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義やゼミ卒業生も参加する勉強会を実施する予定です。講義や勉強会を通じて、ゼミ生の皆さんがあたらしい知識・視点を吸収し、将来の進路について考えるヒントを得ることを期待します。月曜4時限&5時限以外の時間に実施される活動については参加を必須とはしませんが、ゼミ生諸君はこれらの活動にも積極的に参加してください。

授業の到達目標 Objectives

- ・状況に応じたプレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを効果的に伝えたり、多様な意見を整理し集約したりすることができる。
- ・ミクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：プレゼンテーションに関する留意点 (講義)
 第2回～第13回：受講生によるプレゼンテーションとディスカッション
 第14回：夏休みの課題の説明

教科書
Textbooks

2024年春学期は次の2冊を輪読した後、教員が設定するテーマでグループで調査し結果を発表してもらいました。

花園『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣ブックス
朝岡・砂川・岡田『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版

参考文献
Reference Books

適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は実施しません。
レポート Papers	50%	期末レポートを評価します。
平常点評価 Class Participation	50%	プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献を評価します。
その他 Others	0%	特にありません。

備考・関連URL
Note・URL

応募を検討する場合は、必ず教員によるオリエンテーション動画を視聴し、ゼミの内容・方針を確認した上で判断してください。特に、次の3科目の単位を取得済みであることを応募の前提条件としていますので注意してください。「ミクロ経済学入門」、「経済数学入門」、「ミクロ経済学Ⅰ」

また、本演習の履修が決定した場合は2023年秋学期に「ミクロ経済学Ⅱ」を必ず履修してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
203	経済学演習 I (有村俊秀)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	有村 俊秀
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

環境経済学

授業概要 Course Outline

気候変動や生物多様性などのグローバルな環境問題、そして、日本の都市と農村が直面する環境問題を分析する環境経済学を学びます。また、関連するカーボンニュートラル政策、再生可能エネルギーなどエネルギー問題・政策についても経済学的にアプローチします。分析手法としては、ミクロ経済学や、統計学を用いた計量経済学を用います。そのため、ゼミでは統計分析・計量分析の手法も学びます。必要に応じて、コンピュータールームでの統計分析の実習も行います。春学期は、教科書の輪読を行いながら、研究活動の方法について理解を深めます。ゼミでは、欧州・米国あるいはアジアの環境政策についても学ぶ予定です。また、冬クォーターにプレ演習を行います。そこでは、本格的なゼミ活動を行うまでの準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、環境経済学の論文を書くことを目標としています。そのため、前半は、環境経済学の考え方を理解することを目指します。論文執筆では、定量分析をすることを目指すため、分析に必要な統計学、計量経済学の手法を修得することも目標です。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前の学習として、教科書を読んでください。
事後の学習としては、ゼミの発表に対するフィードバックへ毎回対応するようにしてください。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：教科書輪読①
- 第3回：教科書輪読②
- 第4回：ゼミ論執筆について
- 第5回：教科書輪読③
- 第6回：教科書輪読④
- 第7回：個人発表①
- 第8回：個人発表②
- 第9回：個人発表③
- 第10回：計量・データ分析入門①
- 第11回：グループ発表①
- 第12回：グループ発表②
- 第13回：グループ発表③
- 第14回：計量・データ分析入門②

教科書 Textbooks

栗山 浩一、馬奈木 俊介(2020)「環境経済学をつかむ〔第4版〕」有斐閣

参考文献
Reference Books

有村俊秀・日引 聡 (2023) 「入門 環境経済学 新版」(中央公論新社)
有村俊秀・杉野誠・鷺津明由編著 (2022) 「カーボンプライシングのフロンティア：カーボンニュートラルのための制度と技術」 日本評論社

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	研究論文が書けるようになる。
平常点評価 Class Participation	50%	毎回参加し、ゼミに積極的に参加する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

統計学、計量経済学の知識を持っている方が望ましいですが、理論分析、環境政策の制度に関心がある人も歓迎します。

関連URL：

<https://arimura.w.waseda.jp/>

<https://wasedaec2016.wixsite.com/arimura>

ゼミ履修者には、学部環境経済学及び計量経済学の受講をお願いします。

また、2年生の間に、統計または計量関係の講義を受講してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
204	経済学演習 I (上田晃三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上田 晃三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

日本の経済・物価情勢の分析： ミクロデータからの分析

授業概要 Course Outline

本演習では、最近の日本経済について、ミクロデータを用いて分析することを目的とする。

具体的に扱うミクロデータは2つある。第1は、みずほ銀行の取引データである。これは、みずほ銀行さんと早稲田大学との間の学術交流協定に基づき利用が可能になった極めて潜在性の大きいデータである。第2は、スーパーマーケットのPOSデータである。レシート単位での買い物情報から、品目、会員ごとの価格・数量情報を観察できる。

演習では、Rを学習し、それをこれら2つのデータの分析に応用し、経済学・計量経済学の知識を活用しながら日本の経済・物価情勢についての分析を試みる。

また、経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読も行う。

授業の到達目標 Objectives

最近の日本経済についての理解、経済学・計量経済学の理解の深化、Rプログラミングの習熟、プレゼン能力の向上

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎週、相応の事前準備が必要。一人一人が担当をもち責任をもった分析をすることだけでなく、各班単位でグループとして協調することも重要。

授業計画 Course Schedule

- ・コード (R) の実践
- ・データの分析
- ・プレゼン
- ・経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読
- ・適宜インゼミの実施

教科書 Textbooks

特になし

参考文献 Reference Books

- 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」、朝倉書店、2011
 一星野匡郎、田中久稔、「Rによる実証分析」、オーム社、2016
 一馬場真哉、「R言語ではじめるプログラミングとデータ分析」、ソシム、2019

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼン内容、グループ討議での貢献度合い、発表の内容。出席は必須。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

出席と毎回のゼミへの貢献（発表、質問、コメントなど）は必須。
2年次のプレゼミは、1～2回のレポート提出、3・4年生のゼミへの数回の参加を課す予定。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
205	経済学演習 I (荻沼隆)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	荻沼 隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析

授業概要 Course Outline

この演習では、まず行動経済学の理論と分析手法についての基礎的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した理論的な分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

授業の到達目標 Objectives

意思決定理論・ゲーム理論の基本的内容を理解し、それらを現実の経済問題の分析に用いることができるようにするための準備として、行動経済学の基礎的な内容と心理統計の手法の基礎を理解する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

関連する統計学、ミクロ経済学、ゲーム理論などの基礎的な知識

授業計画 Course Schedule

第1回～第7回：行動経済学のテキストを輪読し、その内容について議論する。
第8回～第14回：心理統計のテキストを輪読し、その内容について議論する。
また、行動経済学的内容について、アンケート調査を用いた実証分析の計画をグループ分けをし、立ててもらおう。
その計画について、グループごとに発表してもらおう。

教科書 Textbooks

筒井他「行動経済学入門」東洋経済新報社
山田・村井「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房
その他

参考文献 Reference Books

竹村 和久 「経済心理学 行動経済学の心理的基礎」 培風館
室岡 健志 「行動経済学」 日本評論社
南風原朝和 「心理統計学の基礎 統合的理解のために」 有斐閣アルマ
など。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	内容の正確さおよび問題設定・分析力を考慮する。
平常点評価 Class Participation	50%	出席および授業への参加度、授業内での発表を総合的に考慮する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

学生に対する要望：行動経済学とゲーム理論に関係する演習なので、演習参加者は、事前にミクロ経済学とゲーム理論、および統計学の入門レベルの基礎知識を持っていることが望ましい。なおこの演習は、今年度は対面授業を予定している。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
206	経済学演習 I (小倉義明)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小倉 義明
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

金融の統計分析

授業概要 Course Outline

この演習では、金融理論の基本を参加者全員で議論しながら学ぶと同時に、自ら論理を組み立て、統計的手法でそれを立証し、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

授業の到達目標 Objectives

この演習では、以下の5点を目標とする。

1. 金融の基礎概念・理論を十分に理解すること。
2. 日々報道される金融事象の意味を的確に把握できること。
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自ら論理を組み立て、それを表現できるようになること。
4. 英語による情報収集に慣れること。
5. ソフトウェアを用いた統計分析に慣れること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・打ち合わせ
第2～6回：テキスト1 輪読・検討 Part 3: Financial Institutions (毎回3-4名程度が担当箇所を報告)
第7～10回：統計ソフトウェアRの練習
第11～13回：グループ研究
第14回：グループ研究の中間報告

教 科 書 Textbooks

Mishkin, F. S., The Economics of Money, Banking and Financial Markets, 13th edition, Global Ed., Pearson Education 2021 (プレゼミでPart 2、前期ゼミでPart 3, 4を輪読する。旧版の中古でも可、kindle版は不具合が多いのでお勧めしません)

参考文献 Reference Books

授業中に関連する論文・書籍・データを紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ研究構想発表会に参加すること
平常点評価 Class Participation	70%	出席。報告。議論への活発な参加。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

- マクロ経済学A、ミクロ経済学Aを履修済みであることが望ましい。
- 金融論とファイナンスの両方を履修する予定であることが望ましい。
- 計量経済学を並行して履修すると、分析手法の幅が広がるのでなお良い。

教科書のホームページ

https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/economics-of-money-banking-and-financial-markets-the/P200000005989/9780136893929?srsltid=AfmB0orBKHodxAdBil0mu0Hvi0j4dLwWwhwuRt5s__e2-DgTB2uQ

指導教員のホームページ

<https://www.waseda.jp/fpse/faculty/2019/08/12/401/>

指導教員の近著：

『地域金融の経済学-人口減少下の地方活性化と銀行業の役割』 2021年 慶応義塾大学出版会

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
207	経済学演習 I (片山宗親)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	片山 宗親
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

データ分析とマクロ経済

授業概要 Course Outline

本経済学演習では、財政政策、金融政策、ビジネスサイクルなど、マクロ経済に関する諸問題を取り上げ、データ分析を軸に経済の仕組みを一方踏み込んで理解することを目指します。グループで共同論文を執筆し、卒業論文執筆のための準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

一年間を通じ、皆さんの興味あるテーマについて、グループで論文を書き上げることが大きな目標です。これを通じて、アカデミックな知識だけでなく、(1) 自ら論理的に考える力、(2) データ分析能力、(3) プレゼンテーションスキルを養うことを目標とします。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

「計量経済学 I」ならびに「計量経済学 II」、もしくは類似の科目を履修することを強く勧めます。データ分析に習熟している場合は、その限りではありません。

授業計画 Course Schedule

学生のプレゼンテーションを中心に進行します。具体的な方法などは、履修者と相談の上決定しますが、大講義などと異なり、全員の積極的な参加（コメント・質問）が大前提です。

教 科 書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションの出来やディスカッションへの参加にもとづく
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

<https://katayama.w.waseda.jp/>ゼミに関する質問などは、気軽にmkatayama@waseda.jpまで送ってください。また、よくある質問などは、ココにまとめてあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
208	経済学演習 I (金子昭彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	金子 昭彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

マクロ経済分析と国際金融

授業概要 Course Outline

経済学演習Iでは、まず下記の教科書 1 を利用し国際金融の基本概念や基本データを学ぶ。その後、教科書 2 で国際金融への理論的アプローチを学ぶ。

授業の到達目標 Objectives

国際金融の基本概念や基本データを理解すること。

経済学演習IIでは、教科書 2 を用いて理論面を勉強する予定であるが、その前段階として国際金融の基本概念や基本データを理解することが経済学演習Iの目的である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前学習：

教科書の該当部分を予習し、担当者は発表日の前日までに資料を作成しておくこと。他の学生は、担当者が作成した資料に対するコメントを準備すること。発表者 5 時間程度、それ以外 2 時間程度

事後学習：

教員から提示された宿題に取り組むこと。2 時間程度

授業計画 Course Schedule

第 1 回－第14回：国際金融及び国際貿易の基礎知識の取得

教科書 Textbooks

1. 「国際収支の基礎・理論・諸問題：政策へのインプリケーションおよび為替レートとの関係」棚瀬 順哉 財経詳報社
2. “International macroeconomics: A modern approach” Martí'n Uribe, Stephanie Schmitt-Grohé, Michael Woodford, Princeton

参考文献 Reference Books

- 「MBAのための国際金融」小川英治 川崎健太郎 有斐閣
 「経済・ファイナンスデータの計量時系列分析」沖本竜義 有斐閣
 「実証から学ぶ国際経済」清田 耕造 神事 直人 有斐閣

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	授業準備の状況、授業における積極性
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門の内容を理解していること。
自習時間に時間をかけることが望まれる。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
209	経済学演習 I (上條良夫)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上條 良夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行動・実験経済学

授業概要 Course Outline

一連の演習 (I～IV) は、実験経済学および行動経済学に関する卒業論文を執筆することを目標として実施されます。実験経済学の研究の花形である経済実験を利用した研究を遂行するには以下のような多様な能力が必要となります。

- (1) 経済理論や他分野の理論に基づいて仮説・予測を構築する能力
- (2) 仮説・予測を検証するための適切な実験計画を立てる能力
- (3) 実験を準備し、遂行する能力
- (4) 収集されたデータを解析する能力
- (5) 一連の作業を言語化し論文としてまとめる能力

一連の演習では、これらの能力を獲得するための学習に取り組みます。学習内容は、実験経済学・行動経済学・ゲーム理論のテキスト輪読に加えて、実際の研究データを題材としたデータ解析演習、先行研究を読み込んだ上での自分なりの仮説構築を目的としたグループワーク、実験実施の際に必要なマテリアルの作成演習などを含みます。もちろん、一人の個人がこれらの多様なスキルに熟達することは非常に困難です。そこで、学生の皆さんには、まずこれらの能力に関して一定水準のスキルを獲得した上で、それぞれの個性と希望に応じて、

- (A) 数理的な解析に基づいて仮説・予測を構築するグループ
- (B) 政治学・心理学・社会学などの他分野の理論から仮説・予測を構築するグループ
- (C) 実験用の資料やアプリを作成するグループ
- (D) データを解析するグループ

などに分かれて活動してもらいます。

詳細な内容やグループ分けは、学生の関心、習熟度などに応じて臨機応変に決定します。

演習 I では、実験計画書（研究計画書）の執筆を目標とします。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けた技能を習得するとともに、実験計画書（研究計画書）の執筆をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な統計学の知識及び経済学、ゲーム理論を前提とする。

授業計画
Course Schedule

学生の発表とグループワークを中心として演習を進める。
学生の希望に応じて、他大学（同志社大学の田口ゼミなど）との合同ゼミなどの企画について検討する。

第1回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（1）
第2回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（2）
第3回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（3）
第4回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（4）
第5回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（5）
第6回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（1）
第7回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（2）
第8回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（3）
第9回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（4）
第10回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（5）
第11回：研究計画の発表（1）
第12回：研究計画の発表（2）
第13回：研究計画の発表（3）
第14回：これまでの総括

教科書
Textbooks

講義中に指示する。

参考文献
Reference Books

講義中に指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点 50% その他 50% 発表及び実験計画書のクオリティ

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
211	経済学演習 I (西郷浩)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	西郷 浩
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

社会・経済の統計的分析

授業概要 Course Outline

この演習Iは、Rなどの統計ソフトウェアを利用しながら、各種の統計分析の手法を学習する。教科書を含めた教材は、ゼミ生と相談して選ぶ。ゼミ生全員が自主的に実習に取り組むことを期待する。

この演習は、ゼミ生が演習I、II、III、IVをすべて履修することを想定して、演習IVにおいて演習論文を完成することを最終的な目標とする。演習Iと演習IIは、演習論文作成に必要な統計的分析手法の習熟に充てられる。演習IIIと演習IVは、各自が選んだテーマに沿って、分析の結果を定期的に報告し、ゼミ生との議論に基づいて分析を発展させることに充てられる。

演習I、演習III（どちらも春学期に開講される）では9月に合宿を実施する予定である。

年間の予定や演習論文のテーマについては、備考・関連URLにある、2004年度以降の演習の記録を参照のこと。

授業の到達目標 Objectives

演習I：Rなどのソフトウェアを用いて統計分析が実行できること。

演習II：同上

演習III：各自が選んだテーマに沿って統計データを分析すること。

演習IV：演習論文の完成

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- (1)「統計学I」と「統計学II」を単位取得済みであること。
- (2)「計量経済学I」を単位取得済みまたは登録中であることが望ましい。演習Iと並行して登録するのでもよい。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第2回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第3回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第4回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第5回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第6回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第7回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第8回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第9回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第10回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第11回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第12回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第13回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第14回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習

教科書 Textbooks

ゼミ生と相談して決定する。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート（演習で使用したスライドなどをもとに作成したもの）
平常点評価 Class Participation	50%	演習における報告の内容
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

過去の演習の記録<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminarsupervision.htm>
提出された演習論文の題名
<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminartheses.htm>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
212	経済学演習 I (笹倉和幸)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	笹倉 和幸
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

マクロ経済学（新古典派総合）

授業概要 Course Outline

この演習では新古典派総合について研究する。新古典派総合とは、短期においてはケインズの理論がそして長期においては新古典派の理論が成り立つという、1955年にサミュエルソンによって提案されたマクロ経済学の考え方である。新古典派総合は1960年代には影響力があったが、次第に顧みられなくなり、現在では「瓦解した理論体系」とみなされている。この演習では新古典派総合の今日的意義を探究する。新古典派総合については『標準 マクロ経済学』14～16ページにわかりやすい説明がある。さらに新古典派総合については参考文献（1）～（4）を、マクロ経済学の現状については参考文献（5）～（8）をできるだけ読んでおくこと。

授業の到達目標 Objectives

新古典派総合について自分自身の考えをもてるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ケインズ『一般理論』を毎週2章ずつ読んで報告書を作成する。所要時間は毎週90分。

授業計画 Course Schedule

第1回：ケインズ『一般理論』
ケインズ『一般理論』について説明します。
第2回：古典派理論とセイの法則
古典派理論とセイの法則について説明します。
第3回：有効需要の原理
有効需要の原理について説明します。
第4回：消費理論
消費理論について説明します。
第5回：乗数理論
乗数理論について説明します。
第6回：投資理論
投資理論について説明します。
第7回：流動性選好説
流動性選好説について説明します。
第8回：貨幣数量説
貨幣数量説について説明します。
第9回：ハロッドの経済動学
ハロッドの経済動学について説明します。
第10回：ケインズ派の景気循環理論
ケインズ派の景気循環理論について説明します。
第11回：ヒックスとIS-LMモデル
ヒックスとIS-LMモデルについて説明します。
第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派

マネタリズムと合理的期待形成学派について説明します。

第13回：新しいケインズ派経済学

新しいケインズ派経済学について説明します。

第14回：新古典派経済成長理論

新古典派経済成長理論について説明します。

教科書 Textbooks

Keynes, John M., 1936, The General Theory of Employment, Interest and Money, London: Macmillan. (ケインズ (塩野谷祐一訳), 1995, 『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社.)

参考文献 Reference Books

(1) 荒憲治郎, 1974, 「新古典派総合：混合経済下の政策論の模索」, 稲田献一・岡本哲治・早坂忠編『近代経済学再考』有斐閣, pp. 91-118.

(2) 根井雅弘, 2018, 『サムエルソン『経済学』と新古典派総合』中央公論新社.

(3) De Vroey, Michel, 2016, A History of Macroeconomics from Keynes to Lucas and Beyond, New York: Cambridge University Press.

(4) Karier, Thomas, 2010, Intellectual Capital: Forty Years of the Nobel Prize in Economics, Cambridge: Cambridge University Press. (キャリア (小坂恵理訳), 2020, 『ノーベル賞で読む現代経済学』筑摩書房.)

(5) Chugh, Sanjay K., 2015, Modern Macroeconomics, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.

(6) Colander, David, and Craig Freedman, 2019, Where Economics Went Wrong: Chicago's Abandonment of Classical Liberalism, Princeton: Princeton University Press.

(7) Mankiw, N. Gregory, 2006, "The Macroeconomist as Scientist and Engineer," Journal of Economic Perspective, Vol. 20, pp. 29-46.

(8) Romer, David, 2019, Advanced Macroeconomics, 5th Edition, New York: McGraw-Hill. (ローマー (堀雅博・岩成博夫・南條隆訳), 2010, 『上級マクロ経済学』(第3版) 日本評論社)

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60%	授業への積極的参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
213	経済学演習 I (鎮目雅人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	鎮目 雅人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world

授業概要 Course Outline

われわれが生きている現在は、過去から未来へと続く長い歴史の一局面である。本演習では、グローバルな環境の中での日本の位置づけの変遷を意識しつつ、日本経済史研究の基礎を学ぶ。その際、経済学の知識(理論・実証)と歴史学のアプローチ(史料批判/document critique)を用いて社会現象を分析する方法論を学ぶ。履修者は、自ら資料を読み歴史について考えるという意味で、講義科目としての経済史の授業(既存の研究成果を受け身で受け取る)とは異質な世界を体験することとなる。春学期(演習I)においては、経済史に関するカレントなトピックを選び、資料を批判的に検討する。毎回、参考文献・資料について、全員でディスカッションを行うことを想定しているので、参加者全員があらかじめ参考文献に目を通しておくことが期待される。履修者は、2年生秋学期までに「経済史入門」「日本経済史」を履修すること。なお、ゼミへの参加に際して日本語の文献を読む能力は必須である/Students are expected to be able to read contemporary Japanese.

授業の到達目標 Objectives

日本経済史研究の基礎を習得したうえで、経済史研究の方法論に則り、各自が単著による研究論文を完成させることを最終目標とする。そのための準備作業を通じ、①自らの問題意識に基づき、②客観的な論拠に基づいて検証を行い、③研究の成果を他者に伝える技術を習得する。研究論文の執筆言語は日本語または英語とする/Students will be required to write a thesis either in Japanese or English.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のゼミに際して、事前に全員が課題に目を通し、ゼミ開始までに要約を提出することを義務付ける。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：授業の目的、今後の進め方
- 第2回：課題図書 of 輪読
- 第3回：課題図書 of 輪読
- 第4回：課題図書 of 輪読
- 第5回：課題図書 of 輪読
- 第6回：課題図書 of 輪読
- 第7回：卒業論文作成に向けた研究計画
- 第8回：課題図書 of 輪読
- 第9回：課題図書 of 輪読
- 第10回：課題図書 of 輪読
- 第11回：課題図書 of 輪読
- 第12回：課題図書 of 輪読
- 第13回：課題図書 of 輪読
- 第14回：卒業論文作成に向けた研究計画

教科書 Textbooks

指定しない。

参考文献 Reference Books

その都度指示する。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	毎回のゼミの事前課題：30% 授業への積極的参加（報告・ディスカッション）：70%

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
214	経済学演習 I (田中久稔)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 久稔
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

計量経済学のための数学

授業概要 Course Outline

この演習では、専門的に数理統計学や計量経済学を勉強するために必要となる数学の知識および数学を勉強する方法を身につけることを目標にしています。数学書の読み方、ノートを取り方、具体例の作り方など、真剣に数学を学ぶための基本動作から指導します。2026年度のトピックは「情報幾何学」です。情報幾何学は日本発祥の応用数学であり、数理統計学の理論的基礎を幾何学的概念を用いて再構築することを目指す分野です。「なぜある統計的手法がうまくいくのか」、「推定の精度を上げるにはどうすればいいのか」などの理由を理解するために、多様体論や微分幾何学といった高度な数学を縦横に駆使して統計学の本質に迫る分野です。数理統計学やデータサイエンスの基礎理論に興味のある学生であれば、非常に面白く勉強ができると思います(基礎理論に興味がなく、実際にデータを用いた実証分析を中心に勉強したい人には向きません)。情報幾何学は比較的若い分野であるためフロンティアまでの距離が近く、学部生であっても十分なトレーニングを積めば学術論文の内容を理解できるようになることも魅力の一つです。

参加希望者は以下の点に十分に注意すること：(i) 本演習では数学的文書作成ソフト「LaTeX」を多用します。したがって各自が自分のノートPC(安価なもので構わない)を用意する必要があります。(ii) この演習では非常に広い範囲を深く学習することになるため、月曜4限・5限に2コマ連続して実施します。どちらのコマにも出席できる者だけが参加してください。(iii) 本演習の内容を理解するには数学の素養が不可欠です。数学力の目安としては、私が担当している「経済数学」においてB以上の成績を取得できていることが一つの判定基準になります。この演習で必要となる数学と統計学については基礎から丁寧に教えますが、参加者の側にも相当の努力が求められます。(iv) 大学院進学を希望する者を対象にサブゼミを実施します。サブゼミの内容は参加者の希望に沿って選びます(これまででは、位相集合論、多様体論、微分形式の理論、関数解析、弱収束の理論、統計的漸近論などからトピックを選んでいきます)。進学希望者は必ず参加してください。

授業の到達目標 Objectives

以下の3点を目標とする。

- (i) 学術雑誌に掲載されている論文の概要を理解できるようになる。
- (ii) LaTeXを用いて学術論文を執筆できるようになる。
- (iii) 数学の専門書を読むための姿勢が身につく。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

授業冒頭に前回の内容の理解を確認するための小テストを実施する。
また当番制でゼミの内容をまとめたノートをLaTeXにより作成する。

授業計画
Course Schedule

1. 数理統計学の復習
2. 多様体論の基礎
3. 接空間と余接空間
4. アファイン接続と測地線
5. 双対平坦構造
6. 統計多様体の性質
7. ダイバージェンス
8. 統計的推定への応用

教科書
Textbooks

藤原彰夫「情報幾何学の基礎：情報の内的構造を捉える新たな地平」共立出版
Eguchi and Komori: Minimum Divergence Methods in Statistical Machine Learning: From an Information Geometric Viewpoint, Springer

参考文献
Reference Books

田中久稔「計量経済学のための数学」（日本評論社）
松本幸夫「多様体の基礎」（東京大学出版会）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	授業冒頭で復習のための小テストを実施する。
レポート Papers	100%	当番制で作成するLaTeXによる「講義ノート」によって評価する。
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
215	経済学演習 I (内藤巧)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	内藤 巧
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際貿易論

授業概要 Course Outline

国々はどのような財を輸出し、輸入するのか？人々は貿易から利益を受けるのだろうか？このような問題を扱う国際貿易論は19世紀以来多くの人たちの興味を引きつけてきたが、それを理解し、他人に説明できるまでに習熟するのは平均的な経済学科の学部生にとって非常に難しい。

国際貿易論が難しい1つ目の理由は、一般均衡モデルを考えなければならないからである。国際貿易は異なる産業の間で、あるいはある産業内の異なる製品の間で起こるものなので、必然的に2つ以上の財あるいは製品（そしてそれらの生産に使われる生産要素も）の市場均衡を同時に扱わなければならない。中級ミクロ経済学の授業でさえ不十分にしか触れられない生産経済の一般均衡モデルを、2つ以上の国がある経済で分析しなければならないのだから、理論的な難易度が高いのは当然である。

2つ目の理由は、国際貿易論の実証科学化である。より細かいデータの入手可能性とコンピューターの性能が高まり続けていく中で、国際貿易の理論はますます実証可能になってきている。しかしながら、理論と現実の距離を正確に測るためには、適切な計量手法を理解し、実装するスキルを身につけなければならない。

このように、国際貿易論に習熟するには多くの時間と努力が必要である。このゼミでは、I-IVの4学期にわたって、国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を「ゆっくり」「深く」学ぶ。より具体的には、奇数年度には完全競争モデル（アーミントン・モデル、イートン・コータム・モデルなど）、偶数年度には不完全競争モデル（クルッグマン・モデル、メリッツ・モデルなど）を扱う。春学期（演習 I, III）には理論、秋学期（演習 II, IV）には実証を行う。

前提条件として、演習 I の開始時点までに「ミクロ経済学 I」、及び演習 II の開始時点までに「計量経済学 I」を履修するか、それと同等の知識を身に着けていることが必要である。

授業の到達目標 Objectives

国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を理解し、説明できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

発表者はランダムに当てられるので、全ての学生は常に発表の準備をしておかなければならない。とはいえ、進度は遅いので、週当たりの負担は少ない。理論の場合は発表スライドを用意する必要さえない。

授業計画
Course Schedule

奇数年度第1回－第14回：完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。
偶数年度第1回－第14回：不完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。

教科書
Textbooks

なし。ハンドアウトがオンラインで配布される。

参考文献
Reference Books

大学院レベル：

Feenstra, R. C., 2016. Advanced International Trade, Second Edition, Princeton University Press, Princeton.

実証（演習II, IVの教科書）：

清田耕造, 神事直人, 2017. 『実証から学ぶ国際経済』. 有斐閣, 東京.

中級（プレ演習の教科書）：

阿部顕三, 遠藤正寛, 2012. 『国際経済学』. 有斐閣, 東京.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	・発表及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する. ・欠席3回以上で不合格. ただし, 就職活動等による欠席は事前に証拠を提出したときのみ欠席として扱わない.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

<<https://tnaito.w.waseda.jp>>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
216	経済学演習 I (船木由喜彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	船木 由喜彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

授業概要 Course Outline

この演習ではⅠからⅣまで継続することにより、「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得することを目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおり人々が行動するのか、もし、そうでないとする、それはなぜかという問題を研究します。

最終的な目標は自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒論発表会で報告して頂くことです。3年次の演習Ⅰ・演習Ⅱでは、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただいて、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治・国際経済に関する研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、交通混雑の解消の問題、ゼミの学生マッチングの問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、0Bや2年生の参加もあります。例年、1－2割の学生が大学院に進学します。なお、各演習科目修了時にはその期間に学んだことをまとめたレポートを作成していただきます。

実験経済学に関しては、担当教員の実施する経済学・ゲーム理論実験に参加して頂き、実地的に実験経済学の知識・技能を修得して頂く予定です。東京大学や慶応大学とのインターゼミ、さらにオープンゼミの準備、発表会なども実験経済学の修得に役立ちます。

授業の到達目標 Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

大学の基準に沿って、対面授業で行います。

経済学演習Ⅰ

第1回：春休み中の研究報告、テキスト選定、年度計画

第2回－第13回：テキスト輪読、経済学実験実習

第14回：テキスト輪読、経済学実験実習、オープンゼミへの対応を含めた演習
夏合宿（テキスト輪読、経済学実験実習、懇親会）

経済学演習Ⅱ

第15回－第20回：テキスト輪読、経済学実験実習、慶応大学とのインターゼミ

第21回－第22回：卒論テーマ設定（議論と面接）

第23回－第24回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次期末レポートの作成

第25回－第26回：4年生の卒論に対する討論、3年次期末レポートの作成

第27回：卒論発表会（4年生）と討論会

第28回：今後研究計画の報告、3年次期末レポートの提出

教科書
Textbooks

担当教員の配付する資料またはテキストを用います。

参考文献
Reference Books

船木由喜彦『初めて学ぶゲーム理論』（新世社）

船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社）

船木、武藤、中山編著『ゲーム理論アプリケーションブック』（東洋経済新報社）

中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）

武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）

船木、石川編著『制度と認識の経済学』（NTT出版）

佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）

梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）

船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）

岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）

河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）

川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）

フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席点を基に、演習での報告、議論、レポートの内容を加味して成績評価をする。

備考・関連URL Note・URL

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。

関連URL：<http://funakiwaseda.goodplace.jp/>

<http://yukihikofunaki.blogspot.jp/>

大学院進学希望者は4年次より、大学院のゼミに参加することができます。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
217	経済学演習 I (別所俊一郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	別所 俊一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

日本の公共政策に関する実証分析

授業概要 Course Outline

大学は知識を創造しているところです。講義ではすでに創造された知識を伝達することに重点が置かれています。せっかく大学に来ているのに、それだけではもったいないです。

演習は、知識を創造するという経験をする場所です。すでに創造された知識を受け取るだけでなく、受け取った知識を活用して、自分なりの問題に対して回答を導き出し、新たな知識を生産します。さらに、新しく生産された知識を分かりやすく他の人に伝達するという訓練も行います。そのため、このゼミでは、他の講義や授業でもできることはやりません。準備し、発表し、質問を受け、回答を返すことを通して、新たな知識の創造を、少人数体制でじっくりと体験します。

知識を創造することは、ものの見方を変えます。新たに知識を得ると、テレビを見ても、電車に乗っても、街を歩いていても、これまでとは違った風景に感じられるはずです。学問とは、そのためにあるのです。大学で、大学らしいことを、やってみましょう。

授業の到達目標 Objectives

この演習での目標は、みなさん自身が興味のあるテーマについて論文を書き上げることです。自分の興味のあるテーマについて経済学的な論文を書くことは、得難く、楽しい経験になるはずです。「経済」にいまひとつ興味をもてない人、数式やグラフで練習問題は解けても何をやっているんだかぴんこない人に、もっと知的で素敵な体験をしてほしいと思っています。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

2年生秋学期から3年生にかけて、計量経済学系科目(計量分析(政治)や計量経済学1)と、政策に関連する科目(財政学A/B, 労働経済学I, II, 地方財政など)の履修を強く推奨します。具体的な科目については個別に紹介します。

授業計画 Course Schedule

演習1では、演習2以降で行う実証研究の基礎を固めるために、まず、計量経済学の基礎的手法の実践、統計・計量経済学ソフトウェアの扱いについて学びます。次に、研究テーマの探索・関連する先行研究の検討を進めます。

授業は学生の発表と、それに対する学生と教員のコメント、応答を中心に進めます。より具体的な方法については参加者と相談して決定します。1学期内での発表回数は、参加者数にもよりますが、多めになる予定です。

教科書
Textbooks

松浦寿幸. 2024. Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—. 東京図書. ISBN-13: 978-4489024245

星野匡郎・田中久稔・北川梨津. 2023. Rによる実証分析 (第2版): 回帰分析から因果分析へ. オーム社, ISBN-13: 978-4274230028

参考文献
Reference Books

Stock, James H., Mark W. Watson. 2019. Introduction to Econometrics, Global Edition.

今井耕介. 2018. 社会科学のためのデータ分析入門 (上)(下). 岩波書店

そのほか, 適宜紹介します.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミの一員として毎回出席して積極的に発言することを求めます. 欠席するときには事前に教員に必ず連絡してください.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

応募に際しては, ゼミオリエンテーション資料と, 教員ウェブサイト<https://sites.google.com/view/shunbessho/seminar> を必ず参照してください.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
218	経済学演習 I (星野匡郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	星野 匡郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

計量経済学と機械学習

授業概要 Course Outline

本講義では、機械学習を含む先端的な計量経済学の学習に取り組みます。
近年はとくに機械学習を中心に学習しています。
具体的な内容については、テキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループでの論文執筆、論文・政策コンテストへの参加など、学生のレベルや希望に応じて決定します。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けて、より専門的なテキストや先行研究を読解できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な統計学、計量経済学の知識は前提とします。

授業計画 Course Schedule

学生の発表を中心に授業を進めます。前半はテキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループワークなど。後半から卒業論文執筆に向けてより応用的な学習を行います。そのほか、合宿や他大学との合同ゼミの有無などは、学生の希望に応じて決定します。

教科書 Textbooks

講義中に指示する

参考文献 Reference Books

これまで採用した教科書の例：

- 『Pythonからはじめる数学入門』(2016) オライリージャパン Amit Saha
- 『ゼロから作るDeep Learning: Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装』(2016) オライリージャパン 斎藤康毅
- 『TensorFlowで学ぶディープラーニング入門』(2016) マイナビ出版 中井悦司
- 『東京大学のデータサイエンティスト育成講座』(2019) マイナビ出版 塚本 邦尊, 山田 典一, 大澤 文孝
- 『自然言語処理のための深層学習』(2019) 共立出版 Yoav Goldberg
- 『Pythonで動かして学ぶ! あたらしい機械学習の教科書』(2019) 翔泳社 伊藤真
- 『生成Deep Learning』(2020) オライリージャパン David Foster
- 『「強化学習」を学びたい人が最初に読む本』(2021) 日経BP 伊藤真
- 『ゼロから作るDeep Learning 4 強化学習編』(2022) オライリージャパン 斎藤 康毅

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポ ² ート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	授業出席，発表，議論への参加
そ の 他 Others	40%	発表のクオリティーに応じて加算する．

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
219	経済学演習 I (村上由紀子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	村上 由紀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

労働に関する研究

授業概要 Course Outline

経済活動における労働の役割や貢献は大きい。労働という生産要素があつてこそ企業の生産は成り立ち経済は成長する。また、労働力を供給する人間の多くは、人生の多くの時間を労働に費やしている。能力を発揮し、やる気をもって仕事に取り組みながら、人生の中でワークとライフのバランスをとっていくことは重要である。本演習では、経済の根幹と我々の生活を支える労働について、国、企業、労働者の各視点から研究を行う。技術進歩、産業構造の変化、経済のグローバル化、少子高齢化等の環境変化の中で、労働力の質を高め、有効に活用し、経済の発展と個人の幸福を実現するために、企業と個人の行動、社会の仕組みや政策について研究を行う。

授業の到達目標 Objectives

授業概要で記したテーマに関連する文献を読み、ディスカッションを行うことを通じて、知識を深め、思考力と研究に必要なスキルを高める。また、12月に予定されているインターゼミナールの準備として、グループに分かれ、研究課題を設定し、研究計画をたてる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回～6回：文献研究とディスカッション
第7回：ディベート
第8回：データ検索
第9～13回：グループ研究の課題設定、研究計画
第14回：プレゼンテーション

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポ ² ート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
そ の 他 Others	100%	出席および授業中のディスカッション等への参加 (50%) 宿題 (30%) グループワークの成果 (20%)

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
220	経済学演習 I (山本竜市)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	山本 竜市
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ファイナンス

授業概要 Course Outline

ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネージメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。本演習ではファイナンス分野の教科書の輪読やファイナンス理論・実証論文のサーベイを通じ、卒論のテーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。卒論では興味のあるファイナンスの世界にある問題を取りあげ、データを使って（数学を使っても構わない）簡単に分析してもらいます。

毎年8月下旬にソウル国立大学、台湾国立政治大学、Israel College of Management、千葉商科大学（学長ゼミ）、ベトナム国立大学などの学生、教員が一度に集まるインゼミを行います。毎年参加者数約150人の大きな大会でインゼミでの使用言語は英語です。国際感覚を養ってもらいます。2014年のインゼミはベトナム国立大学、2015年は台湾国立政治大学、2016年はソウル国立大学、2018年は千葉商科大学、2022年度は台湾国立政治大学主催でZoomでの開催、2023年はベトナム国立大学、2024年はソウル国立大学にて現地開催。2025年は台湾国立政治大学で開催予定。

本演習履修前に2年生のプレ演習に参加してください。プレ演習の内容は後日emailにて連絡します。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、ファイナンス分野の教科書の輪読、理論・実証論文のサーベイ、卒論作成の過程で、以下の点を到達目標とします。1) ファイナンスの基礎概念の理解する、2) 基礎概念を応用することで現実で見られる様々な経済問題の原因を理解する、3) 現実で見られる経済問題に対し自分の意見をまとめ、発表する能力・技術を磨く。卒論とは別にインゼミに向け英語での論文を作成し、英語での発表の仕方も勉強します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画 Course Schedule

第1回：打ち合わせ

第2-14回：ファイナンス分野の教科書の輪読または理論・実証論文のサーベイ、研究報告

第15回：各自の研究計画の検討

教科書 Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	報告、討論、出席などが評価される。レポート、宿題を課す場合もある。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
221	経済学演習 I (若田部昌澄)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	若田部 昌澄
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学的思考を身につける

授業概要 Course Outline

私は経済学は大変面白く役に立つと思っています。しかし、多くの学生は、経済学の面白さも有用性も体感するところまでは到達していないのが実情ではないでしょうか。それ以上に、そもそも経済学的思考法が何かもまだわかっていないのではないのでしょうか。経済学が面白くなるには、経済学を使ってみることが一番です。そもそも経済学は現実の経済問題を理解し、解決することを目的としてきました。この点、色々と批判はありますが、問題解決の学問としての現在の経済学は実際の役に立ちます。例えば、2024年初頭からコメの価格が急上昇しました。この現象を説明できるのは、簡単な需要供給分析です。もちろん、経済学も完璧ではなく、間違えていたところもあります。むしろ、経済学者はその時々々の情勢を踏まえて、経済知識のアップデートを進めているし、進めていくのが健全な姿です。ここで、経済学の思想とその歴史、そして古典そのものを知っていることも大いに役に立ちます。経済学史は、経済そのものの歴史を扱う経済史とは異なり、経済学という学問の歴史です。歴史を通じた具体的な経済問題を考えると、抽象的な概念を理解することが容易になります。ことに、人類がこれまで経験してきた経済・金融危機や、大きな変化に対して、経済学者がいかに格闘し、経済学を進化させてきたのかを理解すると、経済学が身近に、そして重要なものとして実感できます。古典そのものといえば、例えばミルトン・フリードマンの『資本主義と自由』は、今でも刺激的で、経済学的思考を教えてください。私の最近の関心は、中央銀行の理論と実践を経済学史的に考察することです。特に、中央銀行は、歴史的にみて数々の経済・金融危機に直面してきたことから生まれたものであり、経済学との関係は最も密接ですし、今後もそうあり続けると考えられます。さらに、現在、世界経済は、「大きな政府」への転換、脱グローバル化、生産性の低下、成長地域の変遷、気候変動、技術変化、格差の拡大、地政学的リスクの増大といった数々の変化にさらされていると言われています。こうした変化を受けて、中央銀行も変化への対応に迫られており、中央銀行の任務についても見直しがされています。従来の任務に限ってみても、変化が物価と金融システムに与える影響には無視し得ないものがあります。今年度の演習では、過去の経済危機に焦点を当てて、経済危機に応じて経済学がどのように進化を遂げたのか、それに中央銀行の誕生と発展がどう関わってきたかを考えていきます。

とはいえ、この演習では、経済学史に限らず、経済学に関わることならば、全て対象にすることにします。演習は2つのパートに分けて運営する予定です。パート1は、共通テーマに関わる研究になります。2024年度入ゼミ生は中央銀行、2025年度入ゼミ生は、経済危機を研究しています。2026年度については未定です。パート2は、学生の関心に応じて現在の経済問題を自由に考えます。

本演習では、文献読解と討論が主になりますが、時には外部から講師を読んできてお話をさせていただくことも有益でしょう。

なお、本演習では、学生のキャリア形成支援にも力を入れています。2024年度はEYの方を講師に招いたり、PwC Japan有限責任監査法人と企業決算書の読み方についての講座を開催しました。好評につき、25年度もPwC Japan有限責任監査法人との講座は開催しました。

授業の到達目標 Objectives

1. 論理的な思考力を身につける
2. 口頭でのプレゼンテーション能力を身につける
3. 文献を読むことを苦にしないようになる
4. 英語の文献を読むことを苦にしないようになる
5. 文章を書くことに慣れる
6. 現実の経済問題を分析する能力を身につける
7. 経済学の古典に親しむ

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 事前には教科書の予習が必須。マクロ経済学、ミクロ経済学について、きちんと理解しておくように。
2. 事後的には、学んだことをどう活かすかを考えることが重要。

授業計画 Course Schedule

0. 君たちの生きる社会
1. 問題解決とは何か：どういう道具が必要か、どういう問題を考えるか、どういう解決策を考えるか
2. 経済学的思考とは何か：基礎がため
3. 事例研究：使ってみる

教科書 Textbooks

安宅和人『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」』(英治出版、2010年)：問題解決の手引きとして有用。

アギオン、フィリップ、セリーヌ・アントニン、サイモン・ブネル『創造的破壊の力』(東洋経済新報社、2022年)：マクロ経済学のもう一つの軸である経済成長論の現状評価として有用。金融政策を考える上でも有益。

飯田泰之『財政・金融政策の転換点』(中公新書、2023年)

岩田規久男『資本主義経済の未来』(夕日書房、2021年)

グラットン、リンダ、アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT』(東洋経済新報社、2016年)：ブレ演習

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書、2006年)：ブレ演習

Bernanke, Ben S, 21st Century Monetary Policy: The Federal Reserve from the Great Inflation to COVID-19 (W. W. Norton, 2022年)：言わずと知れた米連邦準備制度理事会元議長かつノーベル経済学賞受賞者による中央銀行論。邦訳あり。

Blanchard, Olivier, Fiscal Policy under Low Interest Rates (The MIT Press, 2022) (『21世紀の財政政策』日本経済新聞出版、2023年)：金融政策は財政政策と密接に関係していることがよくわかる。

Brunnermeier, Markus K., and Ricardo Reis, A Crash Course on Crises: Macroeconomic Concepts for Run-Ups, Collapses, and Recoveries (Princeton University Press, 2023)：100ページ余りで経済危機のマクロ経済学をまとめている。先進国だけでなく、Emerging Marketsにも目配りしているのが良い。邦訳あり。

James, Harold, Seven Crashes: The Economic Crises That Shaped Globalization (Yale University Press, 2023)：グローバリゼーションとの関連で7つの経済危機を分析。

随時古典。ケインズ、フリードマンなど。

その他の教科書については、興味深い新刊が出てくるかもしれないので、演習の中で決める。

参考文献 Reference Books

若田部昌澄『危機の経済政策』(日本評論社、2009年)

Wakatabe, Masazumi, Japan's Great Stagnation and Abenomics: Lesson for the World (PalgraveMacmillan, 2015)

若田部昌澄「歴史—『大自動化問題』論争の教訓」山本勲編著『人工知能と経済』(勁草書房、2019年)、305-338頁

若田部昌澄「金融政策の未来：貨幣経済学の歴史に学ぶ」景気循環学会第38回大会における基調講演、2022年12月3日。https://www.boj.or.jp/about/press/koen_2022/ko221203a.htm

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	小論文と平常点評価を持ってかえる。
レポート Papers	20%	学期末に提出する小論文の質。経済学史と何らかの関連付けがある限り、題材は学生が自由に選択できる。ただし、事前に講師と相談することが望ましい。
平常点評価 Class Participation	80%	出席は必須。無断欠席はしないように。日頃の発表、議論への参加度で評価する。
そ の 他 Others	0%	該当なし。

備考・関連URL Note・URL

演習を希望する学生には以下のことを望みます。

1. 担当講師について、あらかじめ知識を得ておくこと。例えば、参考文献に挙げている本を読んでもらうと、講師についての理解が深まるでしょう。
2. 英語に苦手意識を持っていないこと。
3. 演習は自習ではなく、共同作業です。講師や他の受講生とコミュニケーションが取れることが大事です。
4. 経済学そのものをしっかりと学ぶこと。ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門をすでに取得していること。また、経済学史と計量系の科目を受講することを強く勧めます。
5. レオス・キャピタルワークス寄附講座「社会を学ぶ投資学」の受講を強く勧めます。
6. 知的好奇心を持っていること。
7. 部活その他で演習を優先できない学生は、応募しないこと。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
301	国際政治経済学演習 I (大森佐和)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	大森 佐和
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際・国内政策の実証的研究を学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

この演習では、国際や国内向けの政策に関する実証的な政策研究を学びます。アプローチとしては、国際政治経済学、公共政策、比較政治の観点を扱う演習です。

トピックとしては、国際開発援助、国際金融ガバナンス、気候変動の課題、国際制度と国家アクターや非国家アクターといった多彩なトピックからの文献を扱う可能性があります。理論を立ててそれらを検証した、実証研究の学術本や論文を読み学んでいくゼミです。

○国際的な政策のアウトカムを決める要因には、国際的な要因と国内的な要因とがあります。こうした観点から、国際的な要因だけでなく、それと共に国内要因にも着目します。

○英語の文献も取り扱いますが、私の個人的な経験では英語の上達のための一番の方法は読んで読んで読みまくることです。

そのため、やる気さえあれば、現在の英語力は問いませんのでやる気のある皆さんの参加を希望します。ゼミへの出席は基本です。欠席とみなさないのは事前に連絡があるやむを得ない場合に限られます。

○毎回発表に当たった学生が文献の要旨発表をする形式でゼミを進めていきます。発表者が討論の質問を考えてきますが、発表の有無にかかわらず文献を読み、質問を考え、積極的に討論に参加することが期待されます。

○ゼミ合宿は人数、希望者などによって開催の有無を決めます。

○学期の最後に自分の興味のあるトピックについて調べて発表を行ってもらいます(人数や学年構成により志望者による発表とするか全員かを決めます)。

○日本にいるウクライナ避難民を招いてのウクライナ避難民支援のNGOによるセミナー等、教員が関わるもので、時折行われる催しなどがあれば、政策の現状を学ぶ観点から参加を推奨します。

In this course, you will learn about empirical policy research related to international and domestic policies. The literature in this course covers perspectives on international political economy, public policy, and comparative politics.

Topics may include foreign development aid, international financial governance, issues in climate change, and international institutions and state and non-state actors. This seminar will read academic books and journal articles that posit theories and empirically test them via case studies or statistical analyses.

○There are both international and domestic factors that determine the outcomes of international policy. From this perspective, we will focus not only on international factors but also on domestic factors.

○We will read literature in English, and in my personal experience, the best way to improve your English is to read, read, and read!

Therefore, as long as you have high motivation, your current English level is not a problem, and I hope that those of you who are motivated will take the course.

○Attendance is mandatory. Absences will only be excused in cases of unavoidable circumstances with prior notification.

○The seminar will be conducted in the form of assigned students presenting a summary of the literature. Students who are assigned to present will also think about discussion questions.

○The decision to hold a seminar retreat will be made based on the number of students who wish to attend.

○At the end of the semester, students will be expected to conduct a final term presentation on a topic of their interest (whether this will be a present

授業の到達目標 Objectives

- 1) ゼミで読む学術論文（英語・日本語）や学術本を通じて、論文を読み先行研究を学び、理論を学び実証論文を読み解く力をつける。
- 2) 文献要旨について発表する能力を磨くと共に、人の行った発表についても建設的に議論できるようになる。
- 3) 自分の興味のある国際政治経済やその他国際・国内の政策に関連するトピックを選び、先行研究について調べる力を養う。
- 4) 各種国際機関や官公庁のデータなどを用いて自分の興味のあるテーマについて調べる力を養う。

- 1) Develop the ability to understand academic papers and academic books (mainly in English and sometimes in Japanese), learn about previous research, learn theories, and interpret empirical studies.
- 2) Develop the ability to give presentations on the summary of literature and constructively discuss other students' presentations.
- 3) Select topics related to international political economy or other international and domestic policies that interest you, and develop the ability to research previous studies.
- 4) Develop the ability to research topics that interest you using data from various international organizations and government agencies.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前学習

- 1) 課題の文献を読み、理解を深める。討論で用いる質問を各自考えておく。
- 2) 発表者は事前に文献要旨の発表についての準備を行い、ディスカッションのための質問を考える。

事後学習

- 1) わからないところは事後に復習をし理解に努める。
- 2) 自分の興味のあるトピックについて発表準備を行う。

Before class learning

- 1) Read the assigned literature and deepen your understanding. Think of questions that can be discussed in classes.
- 2) The presenter should prepare to give a summary presentation of the literature in advance and come up with questions for discussion.

After class learning

- 1) Review any unclear points after class and deepen your understanding.
- 2) Prepare a presentation on a topic that interests you for the term presentation.

授業計画 Course Schedule

- 第1回：イントロダクション Introduction
第2回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第3回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第4回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第5回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第6回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第7回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第8回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第9回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第10回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第11回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned readings
第12回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned reading
第13回：課題の文献について発表・討論 Presentation and discussion of assigned reading
第14回：期末の発表 Final term presentation

教科書
Textbooks

特定の教科書を最初から最後まで読むことはせず、課題の学術書や論文を出します。
No specific textbooks are assigned.

参考文献
Reference Books

Vreeland, James Raymond, and Axel Dreher. 2014. The Political Economy of the United Nations Security Council: Money and Influence. New York: Cambridge University Press. (変わる予定あり)

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。
レポート Papers	0%	プレセミナーでは発表のみです。
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミへの出席、準備、討論への参加、課題文献の発表や討論の質問の質、学期末の発表の準備状況や発表や質などで評価します。 Attendance, Participation in discussion, Summary presentation of assigned readings, providing questions for discussions, and the final presentation of your chosen topic will consist of 100% of the grade. No final exams, no final report submission.
その他 Others	0%	平常点、提出物を総合的に勘案します。

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
302	国際政治経済学演習 I (久保慶一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久保 慶一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代世界の武力紛争と紛争後平和構築

授業概要 Course Outline

冷戦終焉後、旧ユーゴやルワンダをはじめ、スラブ・ユーラシア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、アジアなど新興国で起きている武力紛争（内戦）が人道的危機として国際社会の関心を集めている。これを受け、紛争を終結させるための武力介入（人道的介入）、紛争終結後の戦闘員の武装解除と社会復帰（DDR）、紛争中に起きた非人道的行為に関する真相究明と責任者の処罰（移行期正義）、紛争再発を予防するための政治経済機構の再建（紛争後国家建設）など、紛争の終結と再発防止のために国際社会による様々な取り組みが行われている。本演習では、武力紛争はなぜ発生するのか、その終結や再発防止のために国際社会が行う様々な取り組みにはどのような効果があるのか、といった諸問題について考察する。比較政治学では、紛争発生の際の要因や、国際社会による介入・政策の効果について、多くの理論や実証的研究の知見が蓄積されている。演習 I は、卒業論文を執筆するための出発点として、自分が選択したテーマに関する先行研究を各自が渉猟し、その内容に関するプレゼンテーションと質疑応答という形で進めていく。各自の研究テーマに関する基礎的な概念や理論について確認し、各分野の実証的知見を批判的に理解することを目的とする。各自の研究テーマの設定に際しては、地域や方法論に関する制限は特に設けない。多様な地域、方法論に関心を有する学生を歓迎するが、武力紛争・内戦の発生要因や国際社会の取り組みの効果に関する先行研究には、計量的な手法を用いた研究が多数あるので、計量分析手法に関する知識・スキルを有していることが望ましい。

授業の到達目標 Objectives

1. 内戦、紛争後平和構築に関する比較政治学の理論的・実証的な先行研究を批判的に理解する。
2. 演習参加者が卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関する先行研究のリサーチを開始する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：ゼミの運営方法に関する説明、参加者の自己紹介、各週の発表者の分担の決定などを行います。

第2回～第13回：各自のテーマについての先行研究についてのプレゼン：ゼミ参加者が自分のテーマについての先行研究1～2点の内容を紹介するプレゼンテーションを行い、それに関する質疑応答を行います。先行研究の批判を通じて各自の研究テーマを絞り込んでいくことを目指します。

第14回：まとめ：春学期の議論を総括します。最後に、ゼミ参加者が各自の夏季休暇中の課題について発表します。

教科書
Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。
 粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年。
 久米郁男『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの発表の内容、ディスカッションにおける発言・議論の内容などをもとに総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
303	国際政治経済学演習 I (久米郁男)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久米 郁男
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

政治現象分析の技法：原因を推論する

授業概要 Course Outline

この演習の目標は日常起こっている様々な現象を政治学的に考える訓練を行うことにあります。政治的な紛争というのは、紛争当事者が理性的に話し合えば解決できるのでしょうか？人道的援助は、世界を平和にするのだろうか？政策のことをしっかり考えて皆が投票すればよい政治が実現するのでしょうか？経済が成長すれば、民主化するのでしょうか。新聞やテレビ、ネットでの「常識」とは少し違う角度から様々な政治経済現象を見ることによって政治学の世界を学びます。

扱う対象は多様ですが、政治学とりわけ実証的・経験的な政治学における分析方法を学び、様々な政治現象が何故生じているのかを説明する能力を磨いてもらいます。

なお、ゼミがスタートするまでに統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっておくことを前提にゼミを進行します。プレ演習では、そのための実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

3年生は、4年生ゼミにも参加することを求めます。

なお、2026年度は教員が特別研究期間のため、対面とオンラインが半々程度となります。

ゼミ合宿については、ゼミ生の希望があれば実施します。

授業の到達目標 Objectives

様々な政治現象を、他人の意見に簡単に説得されず、データや理論に基づいて社会科学的に分析し、自らの主張をディベート、プレゼン、論文の形で提示し、人を説得する能力の涵養を目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミがスタートするまでに、統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっておくことを前提にゼミを進行します。プレ演習では、統計分析の手法についての実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

授業計画 Course Schedule

前半において、教科書を用いて実証的な議論をする上での方法論的な課題について学ぶ。
後半においては、政治学の分野における論文を取り上げて、そこでの分析方法について検討を行う。

教科書 Textbooks

久米郁男『新版 原因を推論する』有斐閣2025年

参考文献
Reference Books

課題文献を講義中に適宜指示します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの報告、課題提出、積極的な参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

ゼミに関するより詳しい内容については以下のホームページに記載されています。応募前に必ず参照して下さい。なお、応募者は応募締め切りまでにA4一枚程度の自己紹介をkumezemi@gmail.comに送ってください。

<https://kobe.cloudfree.jp/kumezemi/>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
304	国際政治経済学演習 I (小西秀樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小西 秀樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

経済政策の理論と実証

授業概要 Course Outline

この演習は、各学生が自分の関心にしたがって、論文を読み、仮説を立て、データを集めて解析したり、理論モデルを作って均衡解を解いたり、得られた結果を現実の事象にフィードバックしたりして、最終的には独力で卒業論文を作成する2年間のプログラムを想定しています。演習Iはその第1段階に相当し、卒論作成に必要な基礎訓練を行います。

最近では、政治でも経済でも、政府でも民間でも、意思決定の際に求められるのはエビデンスです。しかし、実際に「これがエビデンスだ」という主張は案外危ういものです。統計データにはいろいろな読み方があり、その基本を知らないと簡単に騙されてしまいます。

そこで演習Iでは、入門レベルの教科書を使って計量経済学の基礎を学び、データ分析の実習を行います。こういった基礎知識や技術はこれから社会に出ていく皆さんにとって必要不可欠の素養になるはずです。演習II以降で実証分析を手掛ける学生はもちろんのこと、理論や制度の分析を行う学生も、データを読む力は必ず役に立つと確信しています。

なお、本演習から始まる2年間のプログラムは、すべて各学生が担当教員や他の参加者とディスカッションしながら、個人で研究を進め、自力で卒論を完成させることを目的としています。グループ研究など、学生間での共同作業はやりません。他人に頼らず、自分で問題を発見し、自分で考えて自分で解決策を探し、論文を完成させるプロセスを思う存分経験し、達成感を味わってもらいたいと考えています。その過程でプレゼンテーションの技術、文章表現のテクニックも学んでいくことになります。もちろん、各自の考えをゼミで発表して大いにディスカッションはしてもらいたいですし、ゼミの活動以外でも交流を深めてくれればと思います。

卒論のテーマは、学習した分析方法や経済理論を用いた内容である限り、各学生が自由に選ぶことができます。担当者はこれまで財政学、政治経済学などの分野を専門とし、ミクロ経済学やゲーム理論を応用した理論分析を手掛けてきましたが、最近では修士課程の学生を中心に実証分析のアドバイスもしています。学生がゼミで報告する論文は必ず担当者も事前に読んでいって議論をします。ミクロ、マクロ、ゲーム理論の応用分析に関心がある学生は、演習Iでの実証分析の修練のあと、演習II以降で理論的な研究を進めることも可能ですし、大歓迎です。

関心のある人は、学部主催のゼミオリエンテーションの資料も参考にしてください。(なお、当ゼミはたとえ少人数でも、真摯に学問に取り組む学生を集めたいので、学生主催の非公式なオリエンテーションには参加しません)

授業の到達目標 Objectives

計量経済学の基礎を学び、実際にデータを扱った実習を行います。様々な計量モデルの構築方法、パッケージソフトの使い方、計量分析のアウトプットの読み方を一通り学習し、実証分析の論文をなんとか読みこなせるところまで訓練します。テキストは決して難しくありません。一步一步読み進めれば、必ず理解できます。学期の最後には、各自が関心のあるテーマの実証論文を探してきて、ゼミで報告できるようにする必要があります。実際、修士の学生も参加して開催する夏合宿で、学部生にも論文の報告を義務付けています。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画
Course Schedule

STATAを使った実証分析の実習を行います（Rを使ってもいいですが、担当者が使わないのでコマンドなどの指導ができませんから自力でやってもらうことになります。今の3年生の中には、Rで実習をやっている学生もいます）。演習Iで計量経済学の基礎をきちんと学んだ上で、演習II以降ではなるべく最新の論文、たとえばコロナ対策の効果を取り扱った論文など、アカデミックな論文を各学生が自由に選んで、一人毎週1つずつ読んでいく予定です。なお、必要に応じて、英文の教材を利用することもあります。このゼミでは卒論作成までの2年間のプログラムを想定しています。いわば、アカデミックな意味で学生時代のモニュメントを作ってもらいたいと考えています。就職が決まったらゼミをやめようとか、卒業に必要な単位が足りたらゼミをやめてもいいというような、ゼミを学業のアリバイづくりに利用するつもりの方は遠慮してください。

教科書
Textbooks

田中隆一著「計量経済学の第一歩」（有斐閣）を用いる予定だが、もし非日本語話者の学生も参加する場合は、英文の計量経済学の教科書に変更するので、指定される前に購入する必要はありません。

参考文献
Reference Books

上記の教科書で一通り軽量経済画を学んだら、寺井公子他著「高齢化の経済学：地方分権はシルバー民主主義を超えられるか」（有斐閣）を読みます。いわゆるシルバー民主主義についての実証分析です。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	該当しない
レポート Papers	0%	該当しない
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況、与えられた課題やプレゼンテーションへの取り組みで評価する。
その他 Others	0%	該当しない

備考・関連URL
Note・URL

長く更新していませんが、念のため、小西研究室のウェブサイトも参考にしてください。

<https://h.konishi.w.waseda.jp>

ゼミは概ね隔週で対面とオンラインで実施します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
305	国際政治経済学演習 I (清水和巳)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	清水 和巳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要 Course Outline

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーネ』)
古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを不思議に思い、それぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達がとりこんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっている、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのか理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが科学的と言えるのか?
- そもそも、科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標 Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させるために必要な技術や方法を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：春休みの課題 (Rによる計量分析講評) I
- 第3回：個別発表 1
- 第4回：個別発表 2
- 第5回：個別発表 3
- 第6回：基礎的知識の学習 1
- 第7回：基礎的知識の学習 2
- 第8回：基礎的知識の学習 3
- 第9～14回：各人の興味対象に応じて、既存の研究をグループで発表
- 14回目以降は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書
Textbooks

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献
Reference Books

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	発表・レポートの出来・不出来に応じる。
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミの時間中の議論の組み立て方に応じる。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：

- (1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
- (2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
306	国際政治経済学演習 I (高橋百合子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋 百合子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

グローバルサウスの比較政治経済学
Comparative Political Economy of the Global South

授業概要 Course Outline

本演習では、近年、グローバルサウスと称される新興国・途上国に着目し、比較政治経済学で扱われるテーマについて実証分析を行うことを目指す。ゼミ生は、比較政治経済学の基本概念と理論、および主要なリサーチ・メソッドを学習した後、各自が関心を持つテーマについて実際に分析を行うことを予定している。

従来の比較政治経済学では、経済成長、福祉国家、労働市場等が主要なテーマとして扱われてきた。しかし、最近の研究では研究対象が広がりつつあり、例えば、インフォーマル部門の政治、貧困とクライアンテリズム、選挙不正、汚職、麻薬取引と暴力的犯罪、移民問題等について、政治経済学的観点から実証分析が盛んに行われるようになってきた。これらは、諸アクター間での公正性・公平性を欠く取引慣行、弱い法の執行、ガバナンスの欠如といった問題を抱えるグローバルサウスと称される新興国・途上国の政治・経済システムに特徴的な現象である。新興国・途上国では、何故こうした現象が頻繁に起こるのか、その帰結は何か、問題解決に向けた政策的含意は何か。こうした一連の問いに取組むことが、本演習の主な目的である。

2026年度の国際政治経済学演習Iでは、新たな形で重要性を増しつつある移民・難民問題の政治経済的要因および帰結についての実証研究に重点を置くことを予定している。担当教員は、米州地域を専門とするが、他地域に関心のある学生も歓迎する。

ゼミ生は、卒業論文の執筆に向けて、ラテンアメリカ、アジア、アフリカの国・地域の事例に焦点を合わせつつ、「良い」リサーチ・クエスチョンを見つけ、妥当な仮説を導き出し、オリジナルのデータを収集し、手堅い実証分析を行うことが期待される。

This seminar introduces students to empirical analyses of comparative political economy with a special focus on the Global South. Students first study basic concepts and theories of comparative political economy as well as major research methods employed in this field, and then apply them to analyze a topic of their interests.

Traditionally, comparative political economy has focused on topics such as economic growth, welfare state, and labor market. More recent works cover a broader range of topics including the politics of informal sector, poverty and clientelism, electoral fraud, corruption, drug trafficking and violent crime, migration, etc. They are political economic problems particular to emerging and developing countries, because the political and economic systems are often characterized by unfair and unequal transactions among different actors, weak law enforcement, and poor governance. Analyzing the causes and consequences of these issues is the primary purpose of this seminar.

Seminar I in FY2026 will focus on empirical research on the causes and consequences of immigration and refugees, which have become increasingly important. The instructor will specialize in the Americas, but students interested in other regions are welcome.

Selecting the cases from Latin America, Asia, and/or Africa, students are expected to find a "good" research question, formulate plausible hypotheses, collect original data, and conduct a solid empirical analysis for their graduation thesis.

授業の到達目標 Objectives

本演習は、次の3点を到達目標としている。

1. 課題文献の輪読とゼミでの議論を通して、比較政治経済学における主要な議論とリサーチ・メソッドに習熟すること。
2. ゼミ生同士で活発な意見交換を行い、ディベートとプレゼンテーションのスキルに磨きをかけること。
3. 卒業論文の執筆を通して、現実社会における政治経済問題について専門知識にもとづく分析を行う能力を身に着けること。

The goal of this seminar is three-fold.

1. Through doing reading assignments and participating in discussion, students will get familiar with the major literature and research methods of comparative political economy.
2. Active interactions among seminar participants will help improve the debate and presentation skills.
3. An exercise of writing a thesis will make students well prepared to be a professional analyst engaging with political economic problems in the real world.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミ生は、基礎レベルの計量分析について既に学習済みであることが望まれる。①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」もしくは「計量経済学1・2」を履修済みであることが望ましい。ゼミ開始時点で未履修の場合は、3年次に履修することを推奨する。ゼミでも適宜、補足的な説明を行う。

Students are expected to have taken courses on basic quantitative methods before attending this seminar.

授業計画 Course Schedule

<国際政治経済学演習I/Advanced Seminar (International Political Economy) I>

- *教科書 (Baker 2021) 等を中心に、新興国・途上国の比較政治経済学についての主要なテーマについて、基礎的な知識を身につける。
- *実際にデータを使って、新興国・途上国が直面する政治経済問題について、分析してみる。
- *We will read through the textbook (e.g., Baker 2014) and get familiar to key issues in the field of comparative political economy.
- *We will also try to analyze data on political-economic issues facing emerging and developing countries.

教科書 Textbooks

Baker, Andy. 2021. Shaping the Developing World: the West, the South, and the Natural World. 2nd edition. CQ Press/Sage Publications.

Barakso, Maryann, Daniel M. Sabet, and Prian Schaffner. 2014. Understanding Political Science Research Methods: The Challenge of Inference. New York: Routledge.

World Bank. 2023. World Development Report 2023: Migrants, Refugees, Societies. Washington, D. C. : World Bank.

恒川恵市『新興国は世界を変えるのか 29か国の経済・民主化・軍事行動』中公新書、2023年。

浅野正彦・矢内勇生『Rによる計量政治学』オーム社、2018年。

エレナ=ローデ・今井耕介（原田勝孝訳）『新・社会科学のためのデータ分析入門 導入編』岩波書店、2025年。

参考文献 Reference Books

適宜、指定する。
TBA.

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	課題、議論への参加・貢献、プレゼンテーションにもとづき総合的に評価を行う。 Evaluation will be made based on students' performances in essays, contribution to class discussion, and presentation.
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

1. 本ゼミは、EDPの学生にも公開となる。ゼミは基本的に日本語で実施するが、受講生の希望に応じて、英語でのプレゼンテーションやディスカッションのトレーニングも組み入れる。
2. 演習Iの開講前に、①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」の履修を推奨します。2025年度秋学期の履修が難しい場合は、2026年度に履修してください。演習では、これらの授業で扱う内容を扱う機会があります。未履修者が多数の場合は、適宜、補足的な説明を行います。
3. 課題文献は、基本的に、英語となります。
4. 卒業論文では、定量的な実証分析を行ってもらいます。
5. ゼミではR/RStudioを使用して、データ分析の練習も行う予定です。

Students are expected to conduct quantitative analysis for their graduation thesis. You should have mastered basic statistics.

We will use R/RStudio for data analysis exercises.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
307	国際政治経済学演習 I (多湖淳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	多湖 淳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

国際政治学 (Scientific IR, Conflict and Cooperation) のゼミです。

- ・楽しく学ぶが大原則。高みを目指そう。
- ・アウトプットは英語で専門学術誌 (ジャーナル) に投稿して問題ないレベルを目指しましょう。

授業の到達目標 Objectives

- ・目標は、社会科学の総合力を身につける。
問題発見、問題設定力まずは先行研究を読み、つなげる、そして仮説をつくる。
データ入手・精製能力データこそ命 (実験、テキスト、Large N、ケース比較)。
データ分析・報告能力RStudioとRMarkdownの力、データの検定・検証能力。
コミュニケーション力データを面白く話す力、英語力 (TED)、相手と対話する力。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし

授業計画 Course Schedule

通年のゼミの内容は以下の通り。

- ・前期は基礎訓練と問題発見、仮説作り (面白い問い、理論と仮説)、データ入手
 - ・後期はデータ精製と分析、論文執筆
- 論文はできればRMarkdownを用いてPDFの形で作成
タイプライターとしての「ワード」もいいけども、アウトプットはPDFで。
※これは3年、4年共通で、4年生は3年生よりも素敵な研究をして、報告する。

【訓練内容 (方法部分)】

- ・メソッド: 分析道具がないと始まらない!
- ※方法論の概観 (因果、実験、回帰分析、ゲーム)
伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 光文社。
山岸俊男 (2008) 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』 集英社。
※クアルトリクス (実験プラットフォーム): 高等研のSongさんの教材も配布
<https://wasedapse.aul.qualtrics.com/>
※テキスト分析 (記述と関係の見える化): 高等研のWatanabeさんの教材
http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart_ja.html
※RStudio (テキスト分析、回帰分析、実験データの仮説検証):
日本社会心理学会の方法論セミナー資料 (まずはこれ!)
https://kazutan.github.io/JSSP2018_spring/index.html
Wonderful RのRの基礎、RStudioについてのテキスト
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112414>
Wonderful RのRMarkdownのテキスト
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112438>

【訓練内容（国際政治をめぐる先行研究）】

・サブスタンス：科学的なIRを理解するための材料を読んでいます。

多湖淳（2011）「国際政治学における計量分析」『オペレーションズ・リサーチ』56(4)、215-220ページ。

多湖淳（2017）「拒否権行使と驚き」『政治分析方法のフロンティア（年報政治学）』2017-II、13-35ページ。

鈴木基史・岡田章編（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。

山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会。

ジャーナルは以下を参考に。APSR、AJPS、JOP、BJPS、IO、ISQ、IS、JCR、JPR、CMPS、II、AFS Google Scholar
で効率的に先行研究を見つけて読んでいく

★スケジュール・重要事項

多湖ゼミSlackで連絡をします。プレゼミから変わらない時間帯のコアタイム制です。

Slackの招待を多湖（tago@waseda.jp）から得てください。

ゼミのコアタイムは毎週水曜日の夕方になります（17:00-18:40）。

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	期末のプレゼンテーションをレポートとして評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加の度合い（欠席がやむをえない場合、あらかじめメールで断りをいれるべきであり、無断欠席は2回でアウトカウントする）。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

本授業は、割り当てられた教室で開催します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
308	国際政治経済学演習 I (唐亮)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	唐 亮
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要 Course Outline

1980年代以降、中国は改革開放路線の推進によって急速かつ持続的な発展を遂げ、世界第2の経済大国として浮上してきた。他方、キャッチアップ型近代化を実現していくには、内外の課題が多い。演習では、1) 中国モデルは欧米モデルと比べればどんな特徴を持つか、2) 産業の構造的な転換や貧富格差の克服に取り組んでいるか、3) エリートの選抜と権力競争は民主主義政治とはどこがどう違うか、4) 国民の政治意識と政治参加はどうか、5) どんな立場で欧米主導の国際秩序に臨んでいるか、6) いかなる戦略でアメリカ主導の対中包囲網を克服しようとするか、7) 台湾統一戦略のポイントはどこにあるか等々をトピックとして取り上げ、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標 Objectives

現代中国の内政外交に関する幅広い基礎知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、自主的な研究課題について豊かな構想力をもつことは理想である。また、学生の主体的参加と討論によってプレゼンテーションの能力を高める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

春学期は教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の構想発表を行う。秋学期は引き続き教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の中間発表を行う

教科書 Textbooks

家近亮子ら編著『新版5分野から読み解く現代中国—歴史政治経済社会外交—』晃洋書房、2016年
唐亮『現代中国の政治』岩波新書、2012年
毛里和子『新版現代中国政治』第3版、名古屋大学出版会、2011年
毛里和子『日中関係—戦後から新時代へ』岩波書店、2006年
国分良成編著『中国は いま』岩波新書、2011年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013
丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書、2013
中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会
中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年
園田茂人『不平等国家 中国』中公新書、二〇〇八年。
木間正道ら編著『当代中国法入門』第五版、有斐閣、二〇〇九年
岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年
武田康裕『民主化の比較政治—東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年

参考文献
Reference Books

随時指定する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	70%	着眼点、先行研究の整理、論点を裏付けるデータ・根拠の提示、書式を重視する。
平常点評価 Class Participation	30%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL
Note・URL

夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
309	国際政治経済学演習 I (遠矢浩規)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	遠矢 浩規
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際政治経済の理論と分析

授業概要 Course Outline

(1) 遠矢ゼミは国際政治経済学の理論や概念を学ぶゼミです。それらを習得し、自分自身で様々な国際問題を理解し分析する能力を身につけることを目標としています。本ゼミでは、「国際政治経済学」の意味を広く捉え、国際政治学（国際関係論）、国際経済学も範囲に含めています。

(2) 扱うテーマは、主に、「国際貿易」、「国際金融・通貨」、「海外直接投資」における国際政治と国際経済の相互作用です。たとえば、ドルが基軸通貨であることによってアメリカが得る国際関係におけるパワーとは何か（逆に言えば、中国の元が台頭することでアメリカが失うパワーは何か）とか、半導体のグローバル・サプライチェーンにおける台湾からの対米投資の増大はどのようなパワー・シフトをもたらすのか、といった論点を議論します。

(3) 上記(2)のようなテーマを自ら考察できるようになるためにゼミで習得する理論や概念は、たとえば、経済的相互依存の諸理論（複合的相互依存、貿易期待理論、通商国家論、武器化する相互依存）、国際貿易の諸理論（比較優位、ヘクシャー・オリー・モデルなど）、多国籍企業の諸理論（プロダクト・サイクル論、メリッツ・モデルなど）、オープン・エコノミー・ポリティックス (OEP)、統合論、国際レジーム、グローバル・ガバナンス、ソフト・パワー、構造的権力、覇権安定論、パワー移行論、リベラル国際秩序 (LIO)、ECLA 構造主義、従属論、世界システム論、ドルの「法外な特権」、流動性のジレンマ、国際金融のトリレンマ、文化的多様性、地球公共財、ロゴウスキーの逆第二イメージ論などです（順不同）。これらの多くは講義科目「国際政治経済学」でも対象としています。

(4) 春学期・秋学期とも、事前学習を前提とした、いわゆる「反転授業」の形式で行います（詳細は下記「授業計画」(A)の通りです）。教員が何かを「教える」というより、ゼミ生自身が「リサーチして」「考えて」「議論する」ことに重点を置いています。その一方で、教員によるレクチャーをメインとする回もあり、最新の理論動向やリサーチの仕方などを学ぶことができます。この場合も、授業後半にはゼミ生同士のグループ・ディスカッションを行います。

(5) 夏休みにはゼミ合宿を行います（詳細は下記「授業計画」(B)の通りです）。正規の授業として行うものなので原則参加です（自由参加ではありません。欠席者は減点のうえ課題が課されます）。

(6) 4年生は3年生のゼミに参加してもらいます。グループディスカッションにおいて3年生をリードするチューター的な役割が期待されています。

(7) 4年生向けの卒論指導は、通常のゼミとは別に、個別指導します（詳細は下記「授業計画」(C)の通りです）。

(8) プレ演習（2年の冬クォーター）は通常ゼミと合同で行います。2～3回程度実施します。

授業の到達目標 Objectives

- ①国際政治経済学（国際政治学、国際経済学を含む）の理論・モデル・概念を使って国際問題を分析する能力を習得すること。
- ②上記①の分析に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行うスキルを習得すること。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

下記「授業計画」を参照してください。

授業計画
Course Schedule

(A) 春学期・秋学期の通常ゼミの実施方法

①事前学習

・事前に、指定されたコンテンツ（オンデマンド動画、論文、専門書のチャプターなど）を学習し、与えられた課題（理論を当てはめて具体的事例を解釈するなど）について各自でリサーチを行い、コメント・ペーパー（A4で1～2枚程度）を作成・提出してもらいます。 ※動画の視聴や文献を読むこと自体は学習目的ではありません。

・動画・論文・課題等はゼミのDiscord（場合によりSlack、以下同）で事前に提示・共有されます。コメント・ペーパーもDiscordに提出してもらいます（全員で共有します）。ゼミの日常的な連絡、情報交換等はDiscordとLINEグループで行います。

②ゼミ当日（反転授業）

・教室で「対面」で行いますが、同時に全員がZoomを使用します。海外（留学中）や自宅・外出先からも（正当な理由があり事前に認められた場合に限り）オンラインで出席できます。

・予め決められた報告者（2人）が、当日のテーマとなっている理論・概念について、事前に学習したコンテンツとは異なる内容や視点でプレゼンを行います（つまり、事前学習したコンテンツを要約することがプレゼンではありません）。プレゼン資料はZoomで画面共有し（ハードコピーの配布は不要）、ゼミ後にDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

・事前に提示された課題やプレゼンで挙げられた論点等について、数人ずつのグループ・ディスカッションを行い、深く掘り下げます（班分けは当日、発表されます）。各グループでは司会、書記、総括報告者を決めてもらいます。ゼミの時間の大半はグループ・ディスカッションに費やされます。

・グループ・ディスカッション終了後、総括報告者が全体セッションで概要を報告し、各班の内容を全員で共有します。総括報告に続けて、適宜、教員からの解説や全体でのディスカッションを行います。

・グループ・ディスカッション以外のすべてのセッションはZoomで録画されます。グループ・ディスカッションの内容については、班ごとに議事録を作成してもらいます。

・春学期・秋学期ともに、教員が、数回のレクチャーを行います。レクチャーでは、事前学習のコンテンツ（動画、論文、専門書）でカバーしきれない、より専門的な内容や最新の研究動向、リサーチの仕方などを説明します。レクチャー回でも、授業の後半はグループ・ディスカッションを行います。

③事後の作業・学習

・ゼミの録画は直後にYouTubeで限定公開され、DiscordでURLが共有されます。欠席者は録画を視聴してキャッチアップしておくことが求められます。出席者も理解を定着させる復習のために利用できます。各班の議事録もDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

(B) ゼミ合宿（夏休み）

・合宿共通テーマを決めて、事前学習（合宿までに指定した論文を数本読む。課題に取り組む。プレゼンの準備をする）をしてもらい、合宿当日は、グループにわかれてプレゼンとグループ・ディスカッションを行い、最後に全体で討論し結論をまとめます。「ワークショップ」型のゼミです。

・参考までに過去の合宿テーマは、「グローバリゼーション」（2025年度）、「地球温暖化」（2024年度）でした。いずれの年度も、6本の学術論文を事前に読んでもらいました。

(C) 卒論

・卒論指導は、主に個別コンサルという形となります。対面やZoomやメールなどで、卒論のテーマ決定の相談

から、リサーチ途中の相談、ドラフトへのコメントなどを、適宜必要に応じて行います。ただし、卒論制作のノウハウ等に関するレクチャーは通常ゼミで行います。

・複数人による共同制作や、「論文」形式以外の形の卒業制作について認める方向で検討中です（具体的にはまだ決まっていません）。

・ゼミの成績評価は卒論とはリンクしていません。ゼミはゼミのパフォーマンスだけで評価し、卒論の成績評価は「演習論文」の単位の中で行います。

教科書 Textbooks

教科書はありませんが、毎回、指定されたコンテンツ（オンデマンド動画、論文、専門書等）を学習し、与えられた課題についてコメント・ペーパーを事前に作成・提出することが求められます。

【参考】実際に出された「課題」は例えば次のようなものです。

（例1）

2つの動画（「多国籍企業をめぐる国際政治経済学の諸視点」ほか）で学んだように、多国籍企業（MNC）と国家の関係には様々なパターンがあります。

たとえば、本国は先進国か途上国か、ホスト国は先進国か途上国か、FDIの目的は垂直的統合か水平的統合か資源へのアクセスか、FDIの方法はグリーン・フィールド投資かM&A投資か、といった違いから複数の組み合わせが考えられます。そして、それらの中から特定の組み合わせを前提として、MNCの功罪（国家への好影響・悪影響）を論じる様々な理論やモデルがこれまで提起されてきました。また、時代とともに主要な組み合わせパターンが変わったため、理論やモデルの有効性も時代とともに変わったと考えられます。

では、現代におけるMNCと国家の関係を考える場合、どのようなパターンを前提として、MNCのどのような影響について考えることが重要でしょうか。

- ・なるべく具体的に国・地域、企業・産業を挙げて問題提起してください。
- ・次のような視点が考えられます。

- ・政治的影響（規制回避、ロビー活動など）
- ・経済的影響（雇用、産業育成、技術流出など）
- ・社会・環境的影響（労働条件、環境破壊、CSRなど）
- ・長期的 vs 短期的影響

（例2）

※G・ジョン・アイケンベリー『リベラルな秩序か帝国か』第1章「アメリカ覇権の起源を再考する」の課題です。

覇権安定論などリアリズムの理論によれば、第二次世界大戦後の国際秩序はアメリカという覇権国が形成したものということになります。そして、そのような国際秩序は国際公共財として機能するにしても、基本的には、アメリカの国益を最大化する秩序であるとされています。

これに対し、本章でアイケンベリーは、「現在の国際秩序はアメリカが主導して形成したものではあるが、アメリカが当初望んだ姿のものではない」（意識）と指摘しています。しかし、それ故にかえって、現在の秩序は冷戦後も崩壊することなく維持可能なものとなり、アメリカもまたその恩恵を受けている、というのがアイケンベリーの主張です。アメリカは短期的な妥協と引き換えに長期的な利益を確保した、と言い換えることができるかもしれません。本章では、そのような妥協（挫折）の例として、ITO憲章、NATO（いわゆる「招かれた帝国」論）、マーシャル・プランの問題などが挙げられています。

一方で、NATO、マーシャル・プランなどについては、ヨーロッパをアメリカの市場とし、かつドルを基軸通貨にすることに貢献した（アメリカの利益そのものとなった）という指摘があるのも、事実です。ITOについては、確かにGATTという形に一時は縮小されましたが、結局はWTOとなってアメリカがほぼ望んだ形に現在なっています。

上記の総括を踏まえて、「覇権安定論」と「アイケンベリーの主張」のどちらに妥当性があるか、安全保障、貿易、金融、その他の面から考えてみてください。

参考文献 Reference Books

毎回扱う理論・モデル・概念が異なるため、必要に応じて、その都度、紹介します。

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	・成績評価は次の手順で行います。 ①デフォルトの評価はAです。マイナス査定、プラス査定を順に行い、プラマイ0か、ちょっぴりプラス程度なら評価はAのままとします。トータルでマイナスならB、トータルで大きくプラスならAプラスとします。 ②マイナス査定（その1）。欠席は2回まで不問に付します。3回以上の欠席は回数に応じて減点します。無断欠席は倍の減点となります。 ③マイナス査定（その2）。コメントペーパー提出回数が定められた回数に満たない場合は、減点します。 ④マイナス査定（その3）。重大なミス等（プレゼンし忘れなど）は減点します。 ⑤プラス査定（その1）。プレゼンは、(a)教員（遠矢）が授業で利用したくなりそうなほど興味深い内容である、(b)上記(a)には及ばないがよくリサーチしてある、(c)上記(b)に及ばない、の3ランクで評価し、(a)は加点します。(b)は総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。なお、(c)であってもマイナス査定には使用しません。 ⑥プラス査定（その2）。コメントペーパーは、「よくリサーチし」かつ「よく考えている」かを評価指標とし、(a)非常に努力している、(b)普通、(c)努力不足、の3ランクに評価したうえで、トータルで(a)の評価のペーパーを多く書いた者に加点します。トータルで(b)が多かった者でも、定められた回数より多く提出した者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。(c)が多い者は原則不問に付しますが、程度によってマイナス査定にする可能性があります（なんでもいいから出せばいい、では困るので）。 ⑦プラス査定（その3）。グループ・ディスカッションの相互評価で評価の高かった上位者（3年と4年で各数名づつ）は加点します。※学期末に全員に相互評価票を提出してもらいます。 ⑧グループ・ディスカッションで司会・書記・総括報告者をやった回数を合計し、総回数が非常に多い者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。 ⑨ゼミの欠席ゼロだった者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。

備考・関連URL
Note・URL

下記URLの遠矢ゼミ募集案内を必ず事前に参照してください。パソコン専用（スマホではレイアウトが最適化されません）。

<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/seminar-1>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
310	国際政治経済学演習 I (戸堂康之)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	戸堂 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

開発経済・国際貿易・日本経済に関するデータ分析

授業概要 Course Outline

この演習では、国際経済学、開発経済学、計量経済学を主たるツールとして、日本・新興国・開発途上国における経済発展や経済の強靱性について学び、研究する。定量的な実証的研究に重点を置くため、理論的研究、定性的な実証研究を研究したい学生には受講を勧めない。

例えば、以下のようなテーマに興味を持つ学生に最適だと考えられる。

- グローバル・バリューチェーンの拡大は日本企業にどのような影響があるか
- 災害の経済被害に対してどのような支援が有効か
- 途上国における農村や零細企業の発展はどのようにして達成できるか
- 開発援助は途上国の人々の生活向上に効果があるのか

この演習は以下のようなスケジュールで進む。

I (3 年春学期): データ分析手法の学習・演習

II (3 年秋学期): データ分析に関する英語論文講読・同様の手法を使った演習

III・IV (4 年): 卒論のテーマを決め、関連する既存研究を発表し、データを収集して分析する。いくつかのインゼミで発表した後、卒論を作成する。

3 年次の年度末および卒業時には論文の提出を義務付け、最終的には質の高い卒業論文を書くことが最大の目標である。

なお、毎年韓国において日本と韓国の主要大学とのインターゼミナールを、日本において本学英語プログラムおよび慶応大学の開発経済系ゼミとのインターゼミナールを行う。韓国でのインゼミは希望者のみで行うが、本学英語プログラムおよび慶応とのインゼミは全員が出席し、特に4年生は全員が卒論を発表する。韓国でのインゼミ、本学英語プログラムとのインゼミは英語で行う。

夏休み期間中に、途上国などで現地調査、企業訪問などを行うことがある(希望者のみ)。

授業の到達目標 Objectives

以上のような演習を通して、開発途上国・新興国・日本の経済発展に関する知識を高めるばかりでなく、

- (1) アイデアを創出する能力
- (2) 情報・データを収集する能力
- (3) データを基にして論理的な分析を行う能力
- (4) 分析結果を文章や口頭発表によって効果的に人に伝える能力
- (5) 英語力
- (6) リーダーシップ

を養成することがこの演習の目標である。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

計量経済学、ネットワーク分析、GIS（地理情報システム）分析などのデータ分析手法を学習し、演習によって身につける。

教科書
Textbooks

適宜指示する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	自身の発表、演習および他人の発表に対する質問・コメントを評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

担当教員のウェブサイト（<https://sites.google.com/view/yastodo>）と添付ファイルをよく読み、担当教員の研究内容、およびゼミ運営の方針を理解しておくこと。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
311	国際政治経済学演習 I (濱野正樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	濱野 正樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際マクロ経済学

授業概要 Course Outline

本演習では、混迷を極める現代世界において、ひとつの羅針盤を共有することを目的とする。社会科学全般、特に国際マクロ経済学、国際貿易論、国際金融論等におけるトピックスを様々な角度から実習を通じて学ぶ。前提としてマクロ経済学、国際金融論、国際貿易論等についての授業を履修していることが望ましいが、必須ではない。

授業の到達目標 Objectives

社会科学、経済学一般に関する知識と理解を深め、それぞれ学生諸君が内容を作成したスライドをもとに発表し、積極的に皆が議論できるようになる。また習得した知識をもとに批判的に情報を判断できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜指示する。

授業計画 Course Schedule

履修者と相談の上決定する。

教科書 Textbooks

国際マクロ経済学
ステファニー・シュミット＝グローエ (著)、マーティン・ウリベ (著)、マイケル・ウッドフォード (著)、
濱野 正樹 (翻訳)
東洋経済新報社

参考文献 Reference Books

TBA

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	レポート内容に関するプレゼンテーションも含む。
平常点評価 Class Participation	50%	出席・平常点
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

<https://sites.google.com/site/masashigehamano/masashige-hamano-lab>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
312	国際政治経済学演習 I (深川由起子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	深川 由起子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代東アジア政治経済研究：変容するグローバリズムと新興国の経済発展

授業概要 Course Outline

東アジア（本演習では韓国や台湾などのNIEs、中国、ASEAN及びその周辺としてのインドまでを主として扱う）はラ米や中近東などと比較しても伝統的にその「多様性」が強調される地域で、経済発展においても同様であった。他方、新興国としては比較的グローバリゼーションの受容に積極的であったことから、開放的な貿易や投資を通じた経済発展は1990年代から2000年代にかけては「東アジアモデル」として一般化され、他国の開発にも大きな影響を与えた。しかしながら、開放性故に世界経済の構造変化の影響は大きく、地域統合が制度的にも実質的にもEUほど高いレベルにないため、地域統合がグローバル化の負の側面からの十分なバッファになっていない。

結局、先進国入りを果たせたのはNIEsのみで、ASEANや中国の一部についてさえも貿易/直接投資主導型成長の限界や、内部要因による「中進国の罠」が取り沙汰されている。少子高齢化といった人口動態の変化や地政学上の機会とリスクの浮上、通貨危機に端を発した社会の求心性弱体化、中国の内向き化などもあり、「東アジアモデル」は再び「多様性」に分裂回帰する面がある。本演習は政治と経済が現実に出会う場として、また日本経済が大きな利害を共有する東アジアを取り上げ、伝統的な経済発展メカニズム（「東アジアモデル」）と、「中進国の罠」に象徴されるその限界、変容、改革課題について議論を進める。東アジアの経済発展はグローバリゼーションと不可分で、現実が理論に先行しがちな点も少なくないが、とりわけIでは新たな理論の知見と現実との接点を意識しながら「東アジアモデル」とはなにか、基礎知識や分析ツールを身につけながら考察を進める。

授業の到達目標 Objectives

東アジアの開発体験をめぐる主要な論点について基礎的、理論的な知識とを深めると共に、与えられた問いに沿って自分の論理を構築できるようにすること。問題意識を持って同時代の諸問題を考えられるようになること。幅広い問題の中から自分が相対的に関心を持つ問題を発見し、社会科学に必要な分析ツール（計量手法や実験）を使って分析できるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の発表準備と共に、課される参考文献を読んでレポートを作成。フィードバックを見ながら修正して次回には再提出する。

授業計画
Course Schedule

第1回：オリエンテーション（本演習の目的と概要）

プレゼミで学んだことを基礎に、演習の概要と具体的な運営方法を討議します。夏や冬に行われるゼミ合宿の計画も立てます。

第2回：東アジアの経済パフォーマンス：「奇跡」の経済発展と新たな発展モデルの模索

東アジアが今日の経済発展の基礎を築いた1986～1996年がどのように開発経済史に残る「奇跡」だったか、それは何故、可能となったのか考察します。

第3回：「輸入代替工業化」は何故なくならないのか

第2回で学んだ開発戦略の転換は何故、東アジアでのみ、可能となり、ラ米や南アジアとはどこが違うのか、を理論的実証的な議論を整理します。また近年の米国の変化を踏まえ、何故、依然として「関税による産業保護」の思想がなくなるのか、についても議論します。

第4回：グローバリゼーションの変容と「輸出主導型工業化」の限界

輸入代替型工業化と輸出主導型といわれる体系の違いは何か、東アジアでは何故、輸出主導型に転換し得たのか、政治経済的な背景を分析すると共に世界の自由貿易体制が行き詰まった場合の限界についても議論します。

第5回：国際分業と産業集積

新興経済にとっての貿易のメリットとグローバリゼーションの中で顕著となってきた産業集積の形成はどのような関係にあるのか、東アジアを事例として学びます。

第6回：直接投資と技術移転

直接投資を誘致できるためには何が必要か、また受け入れた外国企業からどのような技術の移転やスピルオーバーが可能となるのか、現実の東アジアの事例を含めて考えます。

第7回：「産業政策」とは何か：工業化と政府の役割

工業化を推進する上で政府はどこまで、どのように介入することが望ましく、何がそうではないのか、1980年代から2010年代までを比較検討し、東アジアの事例がどういった議論を提供してきたのか、学びます。さらに2020年代に入って先進国が推進する「産業政策」が新興国に与える影響も論じます。

第8回：経済発展と金融の深化

実体経済と資本蓄積、金融の深化のバランスは何故、持続的発展に重要なのか、そのためにはどういった金融政策が望ましいのか、東アジアにとっては何故、このトピックが重要なのかを中心に学習します。

第9回：金融・資本の自由化

現代グローバリゼーションの特徴の一つは金融のグローバリゼーションの量的、質的变化です。新興経済はこれにどう付き合うべきか、東アジア通貨危機の要因となった金融・資本自由化のプロセスについて考察します。

第10回：企業集団と企業統治

グローバル化は急激な経済発展をもたらすことがあるため、多くの国は家族経営になる大規模企業グループの形成、寡占化を体験します。他方、グループに属する企業の上場が増えない限り、株式市場の発展は困難です。先進国にはない企業集団の問題について議論します。

第11回：為替管理の自由化と国際収支危機

グローバリゼーションの下では脆弱な新興経済は様々な経済危機に陥りがちです。東アジア通貨危機はその典型であり、流動性をめぐる構造調整を累積債務危機同様に進めたことにはIMFの処方箋をめぐっても多くの批判がありました。この回では金融のグローバリゼーションと新興国の危機の原因や処方箋のあり方について考察します。

第12回：グローバル化と社会政策

グローバル化は成長優先で社会政策が乏しく、財政にも金融市場にも限界のある新興国では階層間、民族間、地域間などに大きな格差を生み出しがちです。グローバル化の中で生じる様々な格差の中で社会的求心性をどうすれば維持できるのか、様々な事例を検討します。

第13回：新興国のイノベーション

急速に進むデジタル技術は新興国にとってはイノベーションの大きな起爆剤となっており、多くの中進国にとってはイノベーションを加速できるかどうか、先進国入りを左右します。技術の外部性や研究開発体制を検討し、イノベーションの実効性について議論します。

第14回：地域経済統合と協力

東アジアでは新興国が大半を占めて自国産業保護の規制が多く、地域経済統合は十分な成果を出しているとはいえません。ASEAN域内、包括的経済連携協定（RCEP）、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）など広域統合も錯綜しています。地域経済統合の成果とその限界について議論します。

教科書
Textbooks

特になし。授業時に配布の回毎のシラバス、リーディング・リストによる。

参考文献
Reference Books

同上。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験形式では成績評価は実施しない。
レポート Papers	70%	毎週、課されるレポートの内容評価を平均して算出する。
平常点評価 Class Participation	25%	プレゼンテーションや議論の水準、ディスカッションへの参加程度など。
その他 Others	5%	現地視察やゼミの運営、とりまとめへの貢献など。

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
401	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(田中幹人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 幹人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ハイブリッド・メディアのメディア研究方法論

授業概要 Course Outline

マス／ソーシャルメディアが複雑に絡み合った「ハイブリッド・メディア」の時代になって15年以上が経ちました。私たちが接するメディアの変化は、私たちの生活、ひいては社会のあり方に影響を与えています。当ゼミでは、このようなハイブリッドメディアの時代におけるメディアの機能、さらにはそこで求められるジャーナリズム規範についての研究を行っています。

この「ジャーナリズム・メディア研究Ⅰ」では、研究に必要な、基礎的な方法論の修得を目指します。

授業の到達目標 Objectives

個別課題やチーム課題の実施を通じ、研究のうえで求められる基礎的方法論を修得する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・文献の蒐獵と熟読。
- ・課題分析の実施。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：今学期の学習内容について
オリエンテーションを行います。
- 第2回：内容分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。
- 第3回：内容分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。
- 第4回：内容分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。
- 第5回：質的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。
- 第6回：質的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。
- 第7回：質的テキスト分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。
- 第8回：量的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。
- 第9回：量的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。
- 第10回：量的テキスト分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。
- 第11回：チーム課題分析1：内容分析
5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。
- 第12回：チーム課題分析2：質的テキスト分析
5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第13回：チーム課題分析3：量的テキスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第14回：課題発表プレゼンテーション

チームで分析を行った結果を発表します。

教科書
Textbooks

- ・課題内容に応じて適宜指定します。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	課題の実施・提出状況に応じて評価します。

備考・関連URL
Note・URL

履修者の傾向に応じて、課題内容を変更する可能性があります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
402	ジャーナリズム・メディア演習 I (土屋礼子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	土屋 礼子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

授業概要 Course Outline

近現代の日本および欧米におけるメディアとジャーナリズムの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家や政府機関などとジャーナリズムおよびメディアとの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論する。また、実際にメディアやジャーナリズムに関係した人々にインタビュー調査や資料探索を行ない、メディアの歴史や、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたに関する知見を深め、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。なお、2026年度は、女性の記者、ジャーナリストのOBにインタビュー調査する予定である。

授業の到達目標 Objectives

メディアとジャーナリズムに関する基本的知識を学ぶだけでなく、それを活用し、自分で資料を探索し読み解き、思考する能力を養う。また実際にインタビュー調査を行う力量を育成する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション
第二回～第七回：英語文献講読
第八回～第十三回：日本語文献講読
第十四回：インタビュー調査の目的及び計画の説明と準備

教科書 Textbooks

初回の授業には、藤竹暁編著『図説 日本のメディア』(NHKブックス、2018年)を読んだ上で、持参すること。
その次からは、開講時に配布する英文テキストを読む。
以降は授業中に指示する。

参考文献 Reference Books

関連文献については、随時紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	二回ほどレポートを指示する。
平常点評価 Class Participation	70%	英語文献及び日本語文献の講読の際に行う報告、発言、議論を評価対象とする。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

基本的に教室での対面講義を行う。積極的な質疑応答、議論を評価します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
403	ジャーナリズム・メディア演習 I (中村理)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	中村 理
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究（演習I：ヒューマン・コーディング／演習II：コンピュータ・コーディング）

授業概要 Course Outline

本演習は、内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標にしています。

3年次のこの演習では、そのための技法を習得します。

あなたはメディアを通じて得る情報に疑問を持ったことはないでしょうか。たとえば、原発報道はどういった経緯を経て今にいたっているのか、経済問題に報道は一貫した姿勢で対処してきたのか、CMやドラマにあらわれるジェンダー観は時代とともにどう変わってきたのか、SNSはニュースにどう反応するのか、などです。こうした疑問のもととなる情報（メッセージ）は、日々、新聞やテレビ、インターネット、映画や文芸作品などから大量に発信されています。そこにはどういった特徴や傾向があり、その背後には発信者のどういった情報選択があるのでしょうか。

本演習では、こうしたあなたの興味を分析していきます。分析の主題は政治でもジェンダーでも文化でも構いません。また、対象は報道でも映画でもコマーシャルでもSNSでも構いません。マス・コミュニケーション上あるいはジャーナリズム上の興味をもって、メディアに流れる情報をぜひ実証的に・科学的に分析してみましょう！

そのために、本演習では内容分析という手法を学びます。内容分析とは、単に内容を分析するという抽象的なものを指すものではありません。どういう手順で何をすることが決まっている、ある科学的な分析手法の名称なのです。この内容分析では、メッセージの内容をコード（記号）化して分析します。たとえば、選挙の争点を「経済」や「安保」といったコードに分類したり、登場人物を「政治家」や「専門家」といったコードに分類したり、論調を「ポジティブ」や「ネガティブ」といったコードに分類したり、です。そして、それらコードが何回あらわれるかを数えるなどし、発信される情報を量にして、情報の特徴をとらえていきます。こうすることで、流れる情報を客観的に扱えるようにします。

コード化には主に2つの技法があります。当演習では（1）学部3年次前半（春学期）にヒューマン・コーディングという技法を、（2）後半（秋学期）にコンピュータ・コーディングという技法を学び、4年次に卒業研究に取り組みます。内容分析は、マス・コミュニケーションやジャーナリズム研究によく使われるほか、企業が顧客のクチコミを分析してマーケティングに役立てることに利用されています。この手法を使って、ジャーナリズム、マス・コミュニケーション、あるいはメディア上の課題やあなたの疑問に挑みましょう。あなたの興味とやる気を、ぜひ具体的な形にしてみてください！

この演習では、一つの主題や目標を複数の受講者が共有し、チームで議論をしながら協調的に作業を進める活動を主体にしています。これにより、専門性を深めるだけでなく、チームの中で目標を共有し、困難に面したときに助け合ったり責任を分担したりして解決する経験をつんでみましょう。この経験は、将来、あなたが専門課程で研究を行ったり、職場で同僚と協調的に仕事をしたりする際に必ず役に立ちます。そして、簡単なようでなかなかそうではない実証的な調査・研究というものをぜひ経験してください！これは大学にいればこそできるものです。

授業の到達目標 Objectives

受講者は

- ・実証的な調査の流れ（問題意識～仮説～調査計画～実施～結果の整理～分析～考察～結論）を経験し、その要領を学びます。
- ・分析法を習得します。（演習Iはヒューマン・コーディング、演習IIはコンピュータ・コーディング）
- ・分析力および科学的に考える力を高めます。
- ・マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア上のなんらかの課題に建設的に言及します。
- ・チーム内でコミュニケーションをとりながら協動的に作業をし、課題を解決します。
- ・以上を通じ、特定の専門知識だけでなく、社会に出た際の汎用的なスキルを身につけます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

当演習は反転授業を取り入れています。授業後は次の授業に向けた準備を各自がおこない、教室では時間と場所をチームのメンバーと共有するメリットを活かして協調学習やチームワークに取りくみます。たとえば、論文を読む際には事前に読んだり演習問題に取り組んだりし、当日に教室で発表と議論をします。チームワークではその日までの進捗に応じて次までの目標をチームが自ら立て、それを持ちよって次の授業をすすめます。

授業計画 Course Schedule

- 第01回：オリエンテーション
第02回：内容分析とは？ I：研究論文を読む（プレ演習の論文読解の続き）／内容分析のデザインと実践 1a：調査主題を提案する・決める
第03回：手法を学ぶ 1：内容分析の歴史／内容分析のデザインと実践 1b（チームワーク）：チームの調査目的と方法を検討する
第04回：内容分析のデザインと実践 2（チームワーク）：問いをたてる・対象をきめる・変数とカテゴリを設定する
第05回：手法を学ぶ 2：内容分析の設計
第06回：内容分析のデザインと実践 3（チームワーク）：テスト・コーディングを始める
第07回：手法を学ぶ 3：サンプリング
第08回：内容分析のデザインと実践 4（チームワーク）：テスト・コーディングをもとに計画を再検討する
第09回：手法を学ぶ 4：ヒューマン・コーディング
第10回：内容分析のデザインと実践 5a（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる I.
第11回：内容分析のデザインと実践 5b（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる II.
第12回：手法を学ぶ 5：信頼性を検定する
第13回：内容分析のデザインと実践 6（チームワーク）：コーディング結果を集計するI／コードへ依頼する
第14回：内容分析のデザインと実践 7（チームワーク）：コーディング結果を集計するII／レポートにまとめる
学期末：成果を発表する：レポートの提出と発表（15週目にゼミ発表会）

教科書 Textbooks

必要に応じて授業内で提示。

参考文献 Reference Books

- 必要に応じて授業内で提示。以下、参考まで：
- 有馬明恵『内容分析の方法』（ナカニシヤ出版、2007年）
クラウド・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法-「内容分析」への招待』（勁草書房、1989年）
ダニエル・リフ他『内容分析の進め方』（勁草書房、2018年）
樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析』（ナカニシヤ出版、2020第2版）
田崎篤郎・児島和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開（改訂版）』（2003、北樹出版）
竹下俊郎『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証（増補版）』（2008、学文社）
佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（2008、ひつじ書房）
戸田山和久『最新版 論文の教室』（2022、日本放送出版協会）

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。レポートを実施しない場合にのみ代替として検討します。
レポート Papers	30%	20--40%。半期ごとになんらかのまとめをおこないます。最終的に調査・分析の結果あるいはその進捗状況をレポートおよび発表資料にまとめたうえで発表します。その際の提出物、発表内容、貢献度で評価します。チームでレポートを執筆する場合は、授業への参加態度にもとづいた個人の貢献を勘案します。
平常点評価 Class Participation	55%	50--70%。授業への参加態度、課題・分析への取り組み、チームへの貢献をもとに評価します。各自が目的を持ち、主体的・協調的に作業することを重視します。
その他 Others	15%	10--20%。ゼミの運営や行事に協調的にかかわる活動を評価します。また、上記以外で特筆すべき事項、推奨履修科目の学習状況等も、ここに計上します。

備考・関連URL
Note・URL

<https://semi.on-w.com/>

https://x.com/nakamura_semi

研究は主に、学生であるみなさん自身が次までの課題を決めて宿題を持ちより、メンバーと議論をしながらチームで協調的に作業をすることによって進めます。理科でいえば「実験」のようなもので、机上で考えるだけでなく、ポジティブなコミュニケーションで人と協働しながら手を動かし、自分なりのデータを分析してみたいという方に向いています。これまでの主題例は最新のものも含めて関連URL記載のサイトから見るができます。

あなたはPCやプログラミングに習熟している必要はありません。苦手な方でもできる内容をこころがけてデザインしています。逆に、RやPythonでプログラミングをしたい方にはサブゼミ・卒論で個別に指導することも可能です。

ゼミ全体の流れは次の通りです。(1) まず、内容分析を使ってどういった研究ができるのかをプレ演習から演習Iにかけて学びます。同時に、プレ演習では内容分析の体験をします。(2) 演習Iではヒューマン・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(3) 同様に、演習IIではコンピュータ・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(4) 演習III～IVでは、卒業論文の作成を前提に進めます。ここではチーム内で主題を共有しながら、そのもとで一人ひとりが独立したプロジェクトに取り組みます。たとえば原発報道というチーム主題のもとで、ある学生は新聞に取り組む、ある学生はTVに取り組む、などです。それらの結果を卒業論文にまとめ、年度末に報告します。(5) 演習I～IVにかけては、並行して前後いずれかの時間にサブゼミを実施します。その中では、チームワークの補填をしたり、マス・コミュニケーション理論とジャーナリズム史、R、論文執筆法、エクセルの使い方、コンピュータ・コーディングの詳細、データ分析法といった基礎スキルを学んだりします。(6) また、各学期に2度ほど、サブゼミの時間にメディア・職業人ワークショップをおこないます。なお、プレ演習から演習IにおいてもKH Coderというソフトウェアを補助的に用い、コーディングの視野を広げます。

春学期、秋学期演習とも、第15週に発表をおこないます。

演習I以降には、プレ演習の単位を得ることで進むことができます(ただし、留学帰りなどでプレ演習の履修機会がない方はプレ演習は不要となります)。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
501	学際領域演習 I (生駒美喜)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	生駒 美喜
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

話しことばと現代社会 (1)

授業概要 Course Outline

私たちは現代社会のあらゆる場面で、話しことばの音声を聞いたり発したりして生活しています。

たとえば、授業中の先生の話、講演会、友人や家族との様々な場所・場面での会話、電話やオンラインツールを用いた会話、駅や電車のアナウンス、店員との会話、政治家のスピーチや討論、選挙演説、ニュース音声、オリンピックなどのスポーツ解説、スポーツ選手のコメント、テレビ番組や映画での会話、漫才の対話、アニメの声、詩の朗読、様々な方言、外国語の音声など。また、話しことばに近いものとしては、SNSでのチャットやスタンプ、絵文字などがあります。

話しことばの音声は、言語的な情報を伝達するだけでなく、話し手の感情やニュアンスや発話意図なども伝達します。

話しことばの音声は、皆さんの専門分野である政治学や経済学をはじめ、様々な学問領域とも密接に結びついています。

この演習では、以上挙げたような現代社会における話しことばに着目した研究を行います。

話しことばを科学的に研究する学問は音声学と言われます。

母音や子音などの個々の音のみならず、発話全体に関わるイントネーション、アクセント、リズム、話速、ポーズ（休止）といった事柄も扱われます。

この演習では、参加者の関心に沿った研究テーマを設定するにあたり、まずはじめに音声学的な基礎を身に付け、話しことばの音声を科学的に分析する手法を学びます。

その後、参加者の関心あるテーマに関する文献を読みながら、研究テーマを見つけ、最終的には話しことばに関する研究論文を執筆するための準備作業を行います。

授業の到達目標 Objectives

学際領域演習全体を通じた到達目標は以下の通りです：

1. 話しことばを科学的・客観的に捉えるための基礎となる音声学の基礎知識、またそれと同時に音声を科学的に分析するための手法を身に付ける。
2. 身近で無意識に用いている話しことばを現代社会とのつながりの中で客観的に捉え、現代社会において話しことばがどのような役割を果たしているのか、演習において話しことばに関する様々な文献を読み参加者同士と教員との討論を行いながら熟考する。
3. 話しことばと現代社会に関連する自身の研究テーマを見つけ、先行研究を調べ、先行研究を基に研究の問いを見つけてレポートを執筆する。
4. 参加者同士や教員との議論を基に、自身のテーマにおける研究の問いを具体化し、研究論文を執筆する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 音声学に関連する文献を読む。
2. 自身の関心のある研究テーマに沿って、先行研究を読み、レポート作成の準備を行う。
3. 授業での討論やコメントを基に、自身のレポートを執筆する準備を行う。
4. 予備調査として、自身の関心ある研究テーマに沿った音声資料の分析を行う。

授業計画 Course Schedule

授業初回はオリエンテーションおよび教材資料の説明を行います。

2回目以降は、話しことばにおける音声の知識を深めるための文献を輪読します。各自が担当箇所をあらかじめハンドアウトにまとめ、発表し、その発表を基に討論を行います。

輪読の発表・討論と同時並行して、音声分析ソフトP r a a tを用いた音声資料の分析手法を引き続き学びます。

各自が興味ある音声資料を持ち寄り、授業内に分析を行い、その結果を随時発表します。

さらに、参加者の関心あるテーマに沿って音声実験のデザインを考え、予備的な発話実験・知覚実験を実施し、その分析を行います。

学期末には、教科書の輪読で得た基礎知識と音声分析の手法を基に、各自のテーマに沿って音声資料を用いて分析を行い、その結果・考察に基づいてレポートを執筆します。

教科書 Textbooks

プレ学際領域演習においては音声学の入門書を読みました。

春学期の演習では、Praat（音声分析ソフト）の分析手法について書かれている入門書と、並行して英語で書かれたより専門的な音声学に関する文献を扱う予定です。

この他、受講生自身の関心のあるテーマに沿って、先行研究を探していただき、その研究内容に関して発表を行っていただくことになります。

参考文献 Reference Books

初回授業で紹介します。

下記、備考・関連URLを参照してください。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	50%：演習における口頭発表、討論への参加度 50%：各自の関心あるテーマに沿って執筆する学期末のレポート

備考・関連URL Note・URL

<https://saitoyoshio.jimdofree.com/%E9%9F%B3%E5%A3%B0%E5%AD%A6/>

（齋藤純男先生のホームページ。音声学に関する情報や文献が紹介されています）

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
502	学際領域演習 I (岡本暁子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	岡本 暁子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行動生態学と隣接諸科学I

授業概要 Course Outline

ヒトを含む地球上の生き物は、何千万年何億年という時間をかけて変化し、まわりの環境に適応してきた。行動生態学は、生物の行動と生態の進化に関わるさまざまな問題を扱う分野である。本演習では、行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をすすめる。同時に、履修者の興味関心にあわせて、行動生態学の隣接諸科学についての知識も深めていく。

授業の到達目標 Objectives

行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

指定されたテキストの予習復習をする。

授業計画 Course Schedule

第1回は演習のガイダンスを実施する。その後の回は、演習参加者による報告と討論、資料を参照しながらの討論などをおこなう。

教 科 書 Textbooks

第1回目の演習時に提示する。

参考文献 Reference Books

演習中に適宜紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末の発表とそのまとめを評価する。
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

授業実施方法については適宜連絡する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
503	学際領域演習 I (ブロッソーシルヴィ)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	ブロッソー シルヴィ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

映画研究演習、映画学入門の演習

授業概要 Course Outline

本セミナーは、映画の分析（映画研究、映画学）の入門講座である。

映画はショーであり、楽しみをもたらすものだが、研究の対象ともなりうるものである。

映画は、娯楽のために鑑賞することがほとんどである。映画鑑賞は、いわば「感覚の時」とも言え、感動、恐怖、喜び、悲しみ、不安、動揺などを体験する時間である。また映画は、ある話、テーマ、(フィクション上または実在の) 人物を、(自然または人工的に作り上げられた) 特有の空間において発見する機会であり、知られざる運命や状況、世界に出会う手段である。映画は、画像と同じく、世界の一つの表象である。したがって、映画鑑賞は、我々のいる世界、状況、社会について考える機会となる。映画が、常に世界の表象である、としたら、それをどのように読み解けばよいのだろうか。またその表象をどのように描写し、理解し、解釈すればよいのだろうか。映画の分析は、これらの質問(何が? どのように? なぜ?) に答えてくれる。映画を分析することで、より多くのことが理解でき、より多くの知識が得られ、より多くのことに関心が持てるようになる。

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダール(1930-フランス・スイスの監督)の映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはサブテキストかイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考えや予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の間の関係を見つけるか?

映画内での、話、メッセージと美学の間の関係はどのようなものか?

ある映画について、歴史的、社会的、美学的に興味深い点はどこか?

一部のイメージについて、興味深い点はどこか? そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか?

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか? こうした問題に注目する。

授業の到達目標 Objectives

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考えや予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の間の関係を見つけるか?

映画内での、話、メッセージと美学の間の関係はどのようなものか?

ある映画について、歴史的、社会的、美学的に興味深い点はどこか?

一部のイメージについて、興味深い点はどこか? そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか?

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか? こうした問題に注目する。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

本セミナーにおいては、特に背景、セット、そして空間と風景の表象、すなわち映画に現れる場所、風景、そこに用いられた光、色彩といった要素に注目する。アクションが起こる場所はどこか？こうした空間の劇的な機能はどこにあるのか？映画の中、フィクションの中、話の中における風景の役割はどのようなものか？風景は、映画の話や、人物、時間、空間を設定するための単なる背景としてだけ存在するのではない。風景は、ある雰囲気・環境や、感情をもたらすほか、様々な意味、レフェランス（ほかの芸術作品の暗示など）、象徴といった要素をももたらす。どのような風景がそこにあるのだろうか？どのようにそれを描写すればよいか？風景は何を意味しているのだろうか？

本セミナーにおいて、学生各自は、自ら選択し、注意深く鑑賞して分析・研究した映画を紹介する。学生は自由に映画を選択できる。紹介する映画は製作年代を問わず、日本映画、米国映画、その他の国の映画など、国籍も問わない。映画分析は、「好き・好きではない」「良い・良くない」といった個人的な意見を超越したものである。好きでない映画であっても、大変面白い分析をすることが可能である。

教科書
Textbooks

資料のコピーを配る

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	試験: 0% 試験なし レポート: 40% 映画分析の論文 平常点評価: 60% 発表 もちろん出席と参加度を確認 その他: 0% なし

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
504	学際領域演習 I (マルチ・オロバル ベルナット)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	マルチ・オロバル ベルナット
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近世・近代における宗教思想 (西洋・日本の宗教事情を中心に)

History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)

授業概要 Course Outline

このゼミでは思想史学・宗教社会学という視座より、西洋・日本における宗教史に対する理解を深め、宗教と社会、宗教と政治、宗教と道徳との関係について考えていきたい。「近代化と宗教」という問題、つまり近代化がもたらした様々な変化が宗教にどのような影響を与えたかを分析・理解するのがゼミの最終目標となる。先ず、近代は信教の自由と共に世俗化が進んだ時代であるといえる。その中で、科学の進歩と共に、新たな思想伝統が誕生し、宗教の意義を否定する思潮が台頭した。中には、近代化に適応し、宗教と科学を融合させようとした、宗教の内面化（最近の用語を使用すれば「マインドフルネス化」）を試みようとした宗教家も存在する。しかし、その一方で、宗教界において近代化・新たな思潮に反発した原理主義も誕生し、宗教アイデンティティ問題、宗教と国家主義との深い関係も見られる。この二つの要素、「近代」及び「宗教」の複雑な関係についてゼミ生と一緒に考えていきたい。

This seminar is dedicated to the study of the history of religion in the West and Japan from the perspective of the history of ideas and the sociology of religion. We will consider topics as the relationship between religion and society, religion and politics, and religion and morality. The final goal of the seminar is to analyze and understand the interrelation of modernization and religion, that is, how the changes produced by modernization have affected religion. It can be said that modernity, especially in the West, is an era when secularization has spread, along with religious freedom. Together with the progress of science, new traditions of thought were born, and new currents of thought denying the significance of religion emerged. Some religious thinkers have tried to adapt to modernization and combine religion and science, or to interiorize (privatize) religion (as it can be seen in recent phenomena as the “mindfulness” trend). On the other hand, a completely different reaction to modernity in the religious world is fundamentalism, which denies modernization and all the new currents of thought. This ideological retreat, which is fundamentalism, is also intimately related to other questions, as religious identity problems and the relation between religion and nationalism. In sum, I would like to reflect upon the complex relationship between “modernity” and “religion” together with the seminar students.

授業の到達目標 Objectives

ゼミの主な目的を以下の要点にまとめる

- ・宗教思想史・宗教社会学の基礎知識を身につける。
- ・思想史・宗教思想史の観点から、西洋人・キリスト教信者のものの見方自体、そして彼らがどのように異文化・異宗教を理解したのかを分析する。
- ・日本の伝統的宗教について学び、その独自の変容、または西洋の影響による変容を理解する。
- ・宗教思想史・宗教社会学から現代世界や現代日本の宗教動向を学ぶ。

The main purposes of the seminar are summarized in the following points:

- ・Acquire basic knowledge of the history of religious thought and sociology of religion.
- ・Analyze the Westerner's (Christians) understanding of themselves, and how they viewed different cultures and religions from the perspective of the history of religious thought.
- ・Learn about traditional Japanese religions and understand their transformations, and also how they were influenced by Western thought and religion.
- ・Learn about the religious trends of modernity from the perspective of the history of religious thought and sociology of religion.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

教科書は特になく、事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。基本的には日本語で著された文献(学生の能力・ニーズに応じて外国語で書かれた著作も使用する)を読解、分析し、その内容について皆で自由に討論する。また、卒論を書きたい学生は自分自身で問いを立て、自分にとって最も面白い研究主題を絞り、卒業論文を完成させる。宗教に関するものであれば、研究テーマの選択は完全に自由である。卒業論文の執筆で使用する可能な言語は日本語、スペイン語、英語、フランス語またはカタルーニャ語である。

We will not use any textbooks. I will distribute the reading materials (academic papers or book chapters) in advance. Students must read and analyze documents in Japanese (also use works written in foreign languages depending on students' abilities and needs) and discuss the contents freely with everyone. However, if members of the EDP join the seminar, I will try to provide materials in English. Students who want to write a graduation thesis must narrow down the research topics that are most interesting to them and complete their graduation thesis. As far as the research topic is related to religion, students have complete freedom to choose. Possible languages for writing the thesis are Japanese, English, Spanish, French, or Catalan.

授業計画 Course Schedule

- 第1回：導入Introduction
第2回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 I
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe I
第3回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 II
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe II
第4回：中世ヨーロッパに誕生した「宣教」の意義
The meaning of "mission" in medieval Europe
第5回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）I
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) I
第6回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）II
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) II
第7回：ルネサンス文化と宗教改革
Renaissance Culture and Reformation
第8回：宗教改革と近世国家 I
Reformation and the Modern State I
第9回：宗教改革と近世国家 II
Reformation and the Modern State II
第10回：絶対君主制と宗教
Absolute monarchy and religion
第11回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 I
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary I
第12回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 II
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary II

第13回：啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて

Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State

第14回：総合討論

General discussion

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	期末レポート
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する
その他 Others	20%	課題

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
505	学際領域演習 I (室井禎之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	室井 禎之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

コミュニケーションとことば

授業概要 Course Outline

私たちの社会を作り上げているものはそのメンバーの間のコミュニケーションです。もちろんコミュニケーションにはさまざまな種類のものがありますが、ここで取り上げるのは、ことばによるコミュニケーションです。しかしこれらとの関連で、異なるタイプのコミュニケーション（たとえばノンヴァーバルコミュニケーション）について考えることもできます。

参加者は自分の問題意識に従って研究テーマを設定することができます。たとえば、さまざまなタイプのコミュニケーションにおけることばの働き、言語のヴァリエーション（地域的変種、社会的変種など）、社会とことば、言語政策、対人関係のことば、異文化コミュニケーション、などが考えられます。授業では、それぞれの問題意識に沿って、どのようなアプローチがありうるのか、先行研究には何があるのかなどを案内しながら、考えます。演習ですから、学生の発表とディスカッションを中心に進めて行きます。

あらゆるコミュニケーション形態の基礎となっているのは個人間のコミュニケーションです。そこにおけることばの働きについては、語用論 (Pragmatics) と呼ばれる言語学の一分野での研究を知ることが不可欠です。授業ではその主要な理論や分析方法についての導入も行います。また必要に応じてことばの働きそのものについての紹介もします。

授業の到達目標 Objectives

1. コミュニケーションとことばについて自覚的になり、自らのコミュニケーションを反省的に見、改善につなげる試みが行えるようにすること。
2. コミュニケーションに関わるファクターと、それらの働きについて知ること、他者のコミュニケーションを理解する能力を高めること。

以上2点が本演習の I から IV を通して学修することによって到達する目標です。最初の段階である I ではコミュニケーションとことばについて考えるための基礎を得ることに重点を置きます。具体的には、参加者の問題意識に対応するテーマの基本的な文献を選び、その理解を通じてコミュニケーションに対する感覚を養い、分析のための手法を得ます。また次の段階への展望を開きます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき振り返りを行い、追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。教科書を読み、その内容について考察すること。授業後に振り返りを行うこと。

授業計画
Course Schedule

第1回の前半は簡単なオリエンテーションを行います。輪読・発表の順番は3月中旬に調整します。

2回目以降は教科書の輪読および発表と討論を行います。

輪読：教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

発表と討論：参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

教科書
Textbooks

今井邦彦『語用論への招待』（大修館）

参考文献
Reference Books

D. スペルベル/D. ウィルソン『関連性理論』（研究社）

P. グライス『論理と会話』（勁草書房）

安井稔『言外の意味』（研究社）

J. サール『言語行為』（勁草書房）

他に、各自のテーマに応じた参考文献

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期中の成果と次の段階への展望をまとめたレポートを学期末に提出
平常点評価 Class Participation	50%	授業時の口頭発表、およびその振り返り、ディスカッションへの参加状況
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
506	学際領域演習 I (ロペスアルフレド)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	ロペス アルフレド
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

西洋文学論

授業概要 Course Outline

文学はどう定義すればいいのか？その本質は何であるのか？読者は本を読むということから何が得られるのか？人間にとってフィクションが必要なのか？ヨーロッパではこのような質問に答えようとする人が、西洋文化が形成され始めるや否や次々に現れてきました。ギリシャ・ローマ時代からアリストテレス、ホラチウスを中心に文学についての考察は一つの欠かせない要因となっているのは間違いのないことです。18, 19世紀のロマン主義を経て、とくに20世紀以降では人文科学の目覚ましい発展の中で文学論がなくてはならない学問として認められるようになりました。

この講義では西洋で文学について考えられたことを紹介しながら本を読むことはどこまで有意義で楽しいことなのかを確認して、様々な意味での文学の重要性を強調し、抽象的な考え方を発展させ西洋文化の理解を深めることを目指します。

授業の到達目標 Objectives

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

各授業の前にその日を読む予定のテキストを確認して、その後も一度理解度を確認する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：本講義の目的と概要について説明します。
- 第2回：文学とは何か(1)
- 第3回：文学とは何か(2)
- 第4回：文学とは何か(3)
- 第5回：アリストテレスの「詩学」(1)
- 第6回：アリストテレスの「詩学」(2)
- 第7回：アリストテレスの「詩学」(3)
- 第8回：アリストテレスの「詩学」(4)
- 第9回：アリストテレスの「詩学」(5)
- 第10回：アリストテレスの「詩学」(6)
- 第11回：アリストテレスの「詩学」(7)
- 第12回：アリストテレスの「詩学」(8)
- 第13回：アリストテレスの「詩学」(9)
- 第14回：学生の発表

教科書
Textbooks

アリストテレス・ホラティウス 「私学・詩論」 岩波文庫
 プレ演習のほうで
 内多毅 「現代文学理論入門」 創元社を使用する。

参考文献
Reference Books

T. イーグルトン 「文学とは何か」 岩波書店

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席や授業に取り込んだこと、発表を評価する

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>